

2025年度 履修の手引

経済経営学部

卒業まで使用しますので
必ず保管して下さい



21世紀を生き抜くチカラ。

北陸大学
HOKURIKU UNIVERSITY

目 次

I 教育ポリシー	1
1. 建学の精神・教育理念	
2. 北陸大学の使命・目的	
3. 経済経営学部教育理念	
4. 経済経営学部の人材養成の目的	
5. 三つのポリシー	
II カリキュラム	7
1. 科目分類の概要	
2. 科目一覧	
3. カリキュラム・マップ、ナンバリング、カリキュラム・ツリー、 DPループリック	
III 授業・履修	39
1. 単位制	
2. 授業（授業科目区分・学期・形態・授業時間・クラス編成）	
3. 履修（受講手続き・履修登録上限単位数（CAP制）・出欠・休講補講等）	
4. 悪天候等における授業・試験の取り扱いと対応	
IV 試験・成績	43
1. 試験制度	
2. 成績（成績評価・GPA・成績疑義照会制度・成績通知）	
V 進級・卒業	47
1. 進級	
2. 卒業要件	
VI 学籍	48
1. 休学	
2. 復学	
3. 退学	
4. 転学部	
VII 留学	49
1. 留学制度	

Ⅷ 資格取得等50

1. 教職課程
2. 簿記検定試験及びITパスポート試験
3. 語学検定試験
4. 資格検定試験による単位認定

Ⅸ 諸規程52

北陸大学履修規程

北陸大学経済経営学部履修細則

北陸大学公認欠席等に関する細則

北陸大学成績疑義照会内規

北陸大学学生懲戒規程

北陸大学試験等不正行為規程

北陸大学情報システム「HUNET」利用ガイドライン

I 教育ポリシー

1. 建学の精神・教育理念

自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成

2. 大学の使命・目的

『健康社会の実現』

3. 経済経営学部教育理念

【経済経営学部】

生涯学び、成長し続けられる人材の養成をととして、誰もが活躍できる社会の構築と発展に寄与する。

【マネジメント学科】

社会・組織・自己をマネジメントする力を身につけた人材の養成をととして、誰もが安心して暮らせる社会の実現を目指す。

【経済学科】

経済学の視点から多様な価値を見いだす力を身につけた人材の養成をととして、持続可能な社会の実現を目指す。

4. 経済経営学部の人材養成の目的（北陸大学学則第2条の2）

【経済経営学部】

広い知識と視野を持ち、他者と協働して課題を発見し解決することを通じて、健康な社会及び健全な組織の実現に貢献できる人材を養成する。

【マネジメント学科】

マネジメント5分野（経営学、会計学、情報学、法学、経済学）の知識と技能を備え、社会・組織・自己における諸課題を多角的に捉え解決できるマネジメント力を持つ人材を養成する。

【経済学科】

経済学を中心とした知識と技能を身につけ、現代社会が抱える課題を解決し、新たな価値を創造できる人材を養成する。

5. 三つのポリシー

【大学全体】

○卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：D P）

本学は、「自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成」を建学の精神・教育理念とし、大学の使命である「健康社会の実現」のために、グローバルな視点を持ちつつ地域に貢献する人材を育成することを目的としている。本学の各学位プログラムの課程を修了し、以下の資質・能力を備えた者に学位を授与する。

(知識・技能)

- (1) 健康社会の実現のため、社会の一員としての使命感、責任感、倫理観を持ち、幅広い教養を身につけている。
- (2) 専攻する学位プログラムにおける基本的な知識・技能を修得し、現実社会の中で適切に活用できる。

(思考力・判断力・表現力)

- (3) 知識・技能や他者の意見に基づき、自らの考えを組み立て、効果的なコミュニケーションを通して表現・伝達できる能力を身につけている。
- (4) 自分のおかれている状況から課題を発見・分析し、解決方法について客観的・多面的に考察できる能力を身につけている。

(主体性・多様性・協働性)

- (5) 多様な文化・価値観を持つ他者に対して理解と共感を示し、ともに目標を達成しようとする協働力を身につけている。
- (6) 自らを律し、主体的に考え、積極的に行動しようとする態度を身につけている。

○教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：C P）

(教育課程編成)

本学では、ディプロマ・ポリシーに掲げる人材を養成するため、幅広い教養や専門教育の基盤となる一般教育科目、専門分野を体系的に学ぶ専門教育科目、その他必要となる科目を設置し、順次性のある体系的な教育課程を編成する。授業は、双方向の講義、演習、実験、実習や実技等を適切に組み合わせで行う。

なお、上級年次で展開する専門分野の知識・技能などを学ぶために、初年次では、設定した目標に向かって、主体的に行動できる習慣と自己管理能力を身につけられる教育を行う。

学生の履修を支援するため、シラバスとともに、科目間の関連や学修の順序を履修系統図、ナンバリングや履修モデル等で明示する。

(学修方法)

- (1) 全科目で、主体的・対話的で深い学びが実現されるように、能動的学修を取り入れる。
- (2) 現実社会で活用できる知識・技能を修得し、社会の一員としての役割を自覚するために、地域・社会・海外等において、教室外学修プログラムを提供する。
- (3) 主体的な学びの確立のために、すべての授業において、授業時間外学修を促進する。

(学修成果の評価)

- (1) 授業科目のシラバスに評価基準を具体的かつ多面的に明示し、学生の成長を促進するための厳格な成績評価を行う。
- (2) ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の達成状況については、学修到達度調査や卒業論文、卒業研究の成果物等によって評価する。

○入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー：A P）

本学では、ディプロマ・ポリシーに示した資質・能力を総合的に身につけている学生の育成を目指し、以下のような資質・能力・意欲を持った人を広く受け入れるため、多様な選抜方法により、多面的・総合的な評価を行う。

- (1) 専攻する学位プログラムの教育内容が理解できるように必要な基礎学力を身につけている人
- (2) 自らの考えを順序立てて伝えることができる人
- (3) 多様な文化・価値観を持つ人々に対して理解と共感を示し、他者と協力して何事にも積極的に取り組む意欲のある人

(注記)

・シラバス

各授業科目の詳細な授業計画。一般に、大学の授業名、担当教員名、講義目的、各回の授業内容、成績評価方法・基準、準備学習等についての具体的な指示、教科書・参考文献、履修条件等が記されており、学生が授業科目の準備学習等を進めるための基本となるもの。

・履修系統図

学生が身につける知識・能力と授業科目との間の対応関係を示し、体系的な履修を促す体系図

・ナンバリング

授業科目に適切な番号を付し分類することで、学習の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組み。

・学修到達度調査

学修成果の測定・把握の手段の一つ。ペーパーテスト等の直接評価により学生の知識・技能・態度等を測定する方法の総称。

【経済経営学部】

○卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：D P）

本学部及び各学科の人材養成の目的に沿って、各学科で示されたディプロマ・ポリシーの要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学位を授与する。

○教育課程編成方針・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：C P）

本学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる人材を養成するため、各学科でカリキュラム・ポリシーを定める。

○入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー：A P）

本学部では、ディプロマ・ポリシーに示した資質・能力を身につけている学生の育成を目指し、各学科でアドミッション・ポリシーを定める。

【マネジメント学科】

○卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：D P）

人材養成の目的に沿って、以下の要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学士（マネジメント学）の学位を授与する。

（知識・技能）

- (1) 社会の一員として必要となる幅広い知識と技能を備えている。
- (2) マネジメント5分野の専門知識と技能を備えている。

（思考力・判断力・表現力）

- (3) 情報を収集・分析し、課題を発見する力を身につけている。
- (4) 課題解決に至る道筋を論理的に考える力を身につけている。
- (5) 課題の背景、解決策及びその効果を正しく相手に伝える力を身につけている。

（主体性・多様性・協働性）

- (6) 自分の考えや判断に基づいて行動し、その結果に責任を持つことができる。
- (7) 多様な個の存在を認め、尊重することができる。
- (8) 他者と協働し、課題を解決することができる。

○教育課程編成の方針・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：C P）

（教育課程編成）

人材養成の目的を達成するために、以下の方針に基づいて教育課程を編成する。

また、学生の履修を支援するため、シラバスとともに科目間の連携や学修の順序をカリキュラム・マップやカリキュラム・ツリー、履修モデル等で明示する。

- (1) 視野を広げ、知識への好奇心を高めるとともに、アカデミック・スキルを育成するために、「一般教育科目群」を配置する。
- (2) 自ら情報を収集・分析し、根拠に基づき解決策を提案する力を育成するために、「データサイエンス・AI科目」を配置する。
- (3) 自己を内省し、他者と協働する力を養うために、「リーダーシップ・キャリア形成科目」を配置する。
- (4) マネジメント5分野の専門知識と技能を修得し、課題発見、課題解決に応用する力を育成するために、「専門科目」を配置する。
- (5) 社会変化を敏感に捉え、新たな社会構築に積極的に貢献できるよう、マネジメントに関連する幅広い知識や技能を修得するために、「展開科目」を配置する。
- (6) 目標達成や課題解決に向けて自らの役割を果たす力を育成するために、「演習科目」を配置する。

(学修方法)

- (1) 「専門科目」の主要分野を横断的に履修するとともに、複数分野についての専門性を深め、単一分野の学部では身につけられない学際的な専門知識・技能の修得を目指す。
- (2) 多様な人々と協働する力、自らの考えを表現・発信する力、自ら踏み出す力を育成するために、能動的学修を促進する。

(学修成果の評価)

- (1) 授業の到達目標に対応した評価方法を導入し、教育方法の改善及び厳格な成績評価を行う。
- (2) ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の達成状況を確認するために、卒業研究を実施し、総括的評価を行う。

○入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー：AP）

経済経営学部マネジメント学科では、健康な社会及び健全な組織の実現に貢献する「マネジメント力」を持った人材を養成するために、以下の能力・意欲を持った人を広く受け入れる。なお、入学者選抜においては、多様な選抜方法により、多面的・総合的に評価する。

・マネジメント学科が求める学生像

(知識・技能)

- (1) 高校3年間を通じて幅広い学習を行っており、特に、英語・国語・数学に関して基礎的な知識・技能を身につけている人

(思考力・判断力・表現力)

- (2) 物事を多面的に捉えることができる人
- (3) 自分の考えや意見を述べることができる人

(主体性・多様性・協働性)

- (4) 経験をふりかえり、自分の言葉で表現できる人
- (5) 目標を達成するために、他者と協力して行動できる人
- (6) マネジメント力を身につけようとする明確な意思を持っている人

【経済学科】

○卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：D P）

人材養成の目的に沿って、以下の要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学士（経済学）の学位を授与する。

（知識・技能）

- （1） 持続可能な社会を実現する一員として必要な幅広い知識と技能を備えている。
- （2） 経済学を中心とした専門知識と技能を備えている。

（思考力・判断力・表現力）

- （3） 新たな視点で課題を見だし、データに基づき分析する力を身につけている。
- （4） 物事を多角的に捉え、課題を解決する力を身につけている。
- （5） 分析、発見した知見を文章、プレゼンテーションなど、多様なメディアで表現する力を身につけている。

（主体性・多様性・協働性）

- （6） 自己を理解し、主体的に行動することができる。
- （7） 自分と異なる他者を理解し、尊重することができる。
- （8） チームで協働し、課題を解決することができる。

○教育課程編成の方針・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：C P）

（教育課程編成）

人材養成の目的を達成するために、以下の方針に基づいて教育課程を編成する。

また、学生の履修を支援するため、シラバスとともに科目間の連携や学修の順序をカリキュラム・マップやカリキュラム・ツリー、履修モデル等で明示する。

- （1） 視野を広げ、知識への好奇心を高めるとともに、アカデミック・スキルを育成するために、「一般教育科目群」を配置する。
- （2） 自ら情報を収集・分析し、根拠に基づき解決策を提案する力を育成するために、「データサイエンス・AI科目」を配置する。
- （3） 自己を内省し、他者と協働する力を養うために、「リーダーシップ・キャリア形成科目」を配置する。
- （4） 経済学の基礎理論と、理論を実証するための手法を学修するために、「経済基幹科目」を配置する。
- （5） 経済の仕組みを学び、経済学の視点から課題を発見し、解決する実践力を養うために、「経済専門科目」を配置する。
- （6） 社会の変化に対応できるよう、経済に関連する幅広い知識や技能を修得するために、「展開科目」を配置する。
- （7） 目標達成や課題解決に向けて自らの役割を果たす力を育成するために、「演習科目」を配置する。

（学修方法）

- （1） 持続可能な社会の実現に向け、経済学分野について基幹科目から専門科目までを段階的に学びつつ、関連する分野についての学修を深めることで専門知識・技能の修得を目指す。
- （2） 多様な人々と協働する力、自らの考えを表現・発信する力、自ら踏み出す力を育成するために、能動的学修を促進し、データに基づくプロジェクト学習プログラムを実施する。

（学修成果の評価）

- （1） 授業の到達目標に対応した評価方法を導入し、教育方法の改善及び厳格な成績評価を行う。
- （2） ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の達成状況を確認するために、卒業研究を実施し、総括的評価を行う。

○入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー：AP）

経済経営学部経済学科では、健康な社会及び健全な組織の実現に貢献しようという意思と以下の能力・意欲を持った人を広く受け入れる。なお、入学者選抜においては、多様な選抜方法により、多面的・総合的に評価する。

・経済学科が求める学生像

（知識・技能）

- （1） 高校3年間を通じて幅広い学習を行っており、特に、英語・国語・数学に関して基礎的な知識・技能を身につけている人

（思考力・判断力・表現力）

- （2） 物事を多面的に捉えることができる人
- （3） 自分の考えや意見を述べるができる人

（主体性・多様性・協働性）

- （4） 経験をふりかえり、自分の言葉で表現できる人
- （5） 目標を達成するために、他者と協力して行動できる人
- （6） 持続可能な社会を実現するために、本学科で学ぶ意思を持っている人

Ⅱ カリキュラム

1. 科目分類の概要

マネジメント学科

教育課程は、専門分野の教育研究を通じ課題を発見・解決する力を育成する「専門教育科目群」及び多様な視点で物事を捉え考える力を養う「一般教育科目群」、教育職員免許状取得に必要な科目を中心とする「自由科目群」からなる。各科目群はさらに詳細に分類される。それぞれの科目群の内容については、以下の通りである。

【一般教育科目群】

- ① 知識への好奇心を高める「教養科目」
- ② 世界に視野を広げるための「外国語科目」
- ③ 言語リテラシーを身につける「文章表現科目」
- ④ 海外研修や留学を認定するための「海外研修科目」

【専門教育科目群】

- ① 情報を収集・分析し、課題解決策をデータに基づき提案する力を身につける「データサイエンス・AI科目」
- ② 自己をふりかえり、他者と協働する力を身につける「リーダーシップ・キャリア形成科目」
- ③ マネジメント5分野（経営・情報・会計・法学・経済）について学び、課題発見・解決に応用する力を身につける「専門科目」
- ④ マネジメントに関連する幅広い知識や技能を学ぶ「展開科目」
- ⑤ 目標達成や課題を発見・解決するための力を育成する「演習科目」

【自由科目群】

- ① 数学の基礎的知識を復習する「リメディアル科目」
- ② 教育職員免許状取得に必要な教育の基礎的理解に関する科目で構成される「教職科目」
- ※ ただし、修得した単位は、卒業に必要な単位には含まれない。

経済学科

教育課程は、専門分野の教育研究を通じ課題を発見・解決する力を育成する「専門教育科目群」及び多様な視点で物事を捉え考える力を養う「一般教育科目群」、教育職員免許状取得に必要な科目を中心とする「自由科目群」からなる。各科目群はさらに詳細に分類される。それぞれの科目群の内容については、以下の通りである。

【一般教育科目群】

- ① 知識への好奇心を高める「教養科目」
- ② 世界に視野を広げるための「外国語科目」
- ③ 言語リテラシーを身につける「文章表現科目」
- ④ 海外研修や留学を認定するための「海外研修科目」

【専門教育科目群】

- ① 情報を収集・分析し、課題解決策をデータに基づき提案する力を身につける「データサイエンス・AI科目」
- ② 自己をふりかえり、他者と協働する力を身につける「リーダーシップ・キャリア形成科目」
- ③ 経済学の基本的な考え方や理論を実証する方法を学ぶ「経済基幹科目」
- ④ 経済の仕組みを学び、経済学の視点を身につける「経済専門科目」
- ⑤ 経済に関連する幅広い知識や技能を学ぶ「展開科目」
- ⑥ 目標達成や課題を発見・解決するための力を育成する「演習科目」

【自由科目群】

- ① 数学の基礎的知識を復習する「リメディアル科目」
 - ② 教育職員免許状取得に必要な教育の基礎的理解に関する科目で構成される「教職科目」
- ※ ただし、修得した単位は、卒業に必要な単位には含まれない。

2. 科目一覧（履修細則 別表1）

別表1 経済経営学部授業科目配当表

経済経営学部 マネジメント学科

科目区分		授業科目	単位数	配当年次
一般教育科目群	教養科目	北陸大学の学び	1	1
		北陸の文化と社会	2 *	2
		SDG s 1	2 *	1
		SDG s 2	2 *	1
		哲学	2 *	1
		倫理学	2 *	1
		心理学	2 *	1
		社会学	2 *	1
		政治学	2 *	2
		行政学	2 *	2
		国際政治学	2 *	3
		グローバルガバナンス	2 *	3
		自然科学概論	2 *	2
		ジェンダー論	2 *	2
		生命科学	2 *	3
		スポーツ 1	1 *	1
		スポーツ 2	1 *	1
		性教育	2 *	2
		救急処置	2 *	3
		発育発達論	2 *	3
		公衆衛生学	2 *	3
	外国語科目	英語 1	1	1
		英語 2	1	1
		実用英語 1	1 *	2
		実用英語 2	1 *	2
		実用英語 3	1 *	3
		実用英語 4	1 *	3
		中国語 1	1 *	2
		中国語 2	1 *	2
		中国語 3	1 *	3
		中国語 4	1 *	3
		English Seminar1	2 *	3
		English Seminar2	2 *	3
		English Seminar3	2 *	4
	留学生特例科目	日本語 1	1 *	1
		日本語 2	1 *	1
		日本語 3	1 *	2
		日本語 4	1 *	2
		日本語 5	1 *	3
		日本語 6	1 *	3
		実用日本語 1	1 *	1
		実用日本語 2	1 *	1
		実用日本語 3	1 *	2
		実用日本語 4	1 *	2
		実用日本語 5	1 *	3

科目区分		授業科目	単位数	配当年次
一般教育科目群	留学生特例科目	実用日本語 6	1 *	3
		日本事情 1	2 *	1
		日本事情 2	2 *	1
		資格日本語 1	2 *	3
		資格日本語 2	2 *	3
		資格日本語 3	2 *	4
		資格日本語 4	2 *	4
	文章表現科目	日本語リテラシー 1	2 *	1
		日本語リテラシー 2	2 *	1
		アカデミックライティング 1	1 *	2
		アカデミックライティング 2	1 *	2
		リサーチプロジェクト 1	1 *	3
		リサーチプロジェクト 2	1 *	3
	海外研修科目	海外研修 1	1 *	1 ～ 4
		海外研修 2	1 *	1 ～ 4
		海外研修 3	2 *	1 ～ 4
		海外研修 4	2 *	1 ～ 4
		海外研修 5	6 *	1 ～ 4
		海外研修 6	6 *	1 ～ 4
専門教育科目群	データサイエンス・AI科目	情報リテラシー	2	1
		プログラミング入門	2 *	1
		AI 基礎	2 *	1
		データサイエンス 1	2 *	1
		データサイエンス 2	2 *	2
		データサイエンス 3	2 *	2
		データサイエンス 4	2 *	3
		社会調査法	2 *	2
		データサイエンスのための数学	2 *	2
		データベース	2 *	3
		データエンジニアリング	2 *	3
	キャリア形成科目・リーダーシップ	キャリアデザイン 1	1 *	1
		キャリアデザイン 2	1 *	1
		リーダーシップ入門	1 *	1
		ファシリテーション論	2 *	1
		アントレプレナーシップ論	1 *	2
		キャリア形成論	1 *	2
		インターンシップ	2 *	3
		キャリアプランニング	2 *	3
	専門科目	経営学入門	2	1
		経営戦略論	2 *	1
		経営分析論	2 *	3
		経営組織論	2 *	2
		人的資源管理論	2 *	2
		マーケティング論	2 *	1
		消費者行動論	2 *	2
		マーケットリサーチ論	2 *	3
		マーケティング・サイエンス	2 *	3

科目区分		授業科目	単位数	配当年次
専門 教育 科目 群	専門 科目	広告論	2 *	2
		イノベーション論	2 *	3
		中小企業論	2 *	3
		経営史	2 *	3
		法学入門	2	1
		日本国憲法	2 *	2
		民法 1	2 *	1
		民法 2	2 *	2
		民法 3	2 *	2
		刑法	2 *	2
		行政法	2 *	3
		企業法	2 *	3
		知的財産権法	2 *	3
		労働法	2 *	3
		会計学入門	2	1
		簿記論 1	2 *	1
		簿記論 2	2 *	2
		簿記論 3	2 *	2
		工業簿記論	2 *	2
		原価計算論	2 *	2
		会計学原論	2 *	1
		財務会計論	2 *	2
		税務会計論	2 *	3
		管理会計論	2 *	3
		監査論	2 *	3
		会計情報論	2 *	3
		情報社会論	2 *	1
		基礎プログラミング	2 *	2
		応用プログラミング	2 *	2
		実践プログラミング	2 *	2
		情報ビジネス論	2 *	2
		情報通信ネットワーク 1	2 *	3
		情報通信ネットワーク 2	2 *	3
		情報システム 1	2 *	3
		情報システム 2	2 *	3
		アプリケーション開発	2 *	3
		情報セキュリティ	2 *	3
		経済学入門	2 *	1
		ミクロ経済学	2 *	2
		マクロ経済学	2 *	2
		日本経済論	2 *	2
		国際経済学	2 *	3
		スポーツ科学概論	2 *	1
		運動生理学	2 *	1
		運動動作学	2 *	2
		運動心理学	2 *	2
		体育原理	2 *	2

科目区分		授業科目	単位数	配当年次
専門 教育 科目 群		スポーツ栄養学	2 *	2
		スポーツ社会学	2 *	3
		スポーツマネジメント	2 *	3
		コーチング学	2 *	3
		学校保健	2 *	3
	展 開 科 目	北陸SDG s 基礎	2 *	3
		北陸SDG s 実践	2 *	3
		情報処理演習	2 *	1
		地域マネジメント入門	2 *	1
		地域マネジメント総論	2 *	2
		地域マネジメント実習	1 *	2
		スポーツ実習 1 (サッカー)	1 *	1
		スポーツ実習 2 (バスケットボール)	1 *	1
		スポーツ実習 3 (体づくり運動・器械)	1 *	2
		スポーツ実習 4 (ベースボール・テニス)	1 *	2
		スポーツ実習 5 (ダンス)	1 *	2
		スポーツ実習 6 (バレー・バドミントン)	1 *	2
		スポーツ実習 7 (陸上・水泳)	1 *	3
		スポーツ実習 8 (武道)	1 *	3
		マネジメント実践講座 1	1 *	1～4
		マネジメント実践講座 2	1 *	1～4
		マネジメント実践講座 3	1 *	1～4
		マネジメント実践講座 4	1 *	1～4
		マネジメント実践講座 5	2 *	1～4
		マネジメント実践講座 6	2 *	1～4
		マネジメント実践講座 7	2 *	1～4
		マネジメント実践講座 8	2 *	1～4
	演 習 科 目	基礎ゼミナール	4	1
		専門基礎ゼミナール	4	2
		専門ゼミナール	4	3
		卒業研究	6	4
自由 科目 群	教 職 科 目	教育学概論	2 *	1
		教職論	2 *	1
		教育社会学	2 *	3
		教育心理学	2 *	2
		特別支援教育	1 *	2
		教育課程論	2 *	2
		道德教育論	2 *	3
		特別活動と総合的な学習の時間	2 *	3
		教育方法論(情報通信技術を活用した教育の理論及び方法)	2 *	2
		生徒・進路指導論	2 *	3
		教育相談	2 *	3
		教育実習事前事後指導	1 *	4
		教育実習 1	2 *	4
		教育実習 2	2 *	4
		教職実践演習 (中・高)	2 *	4
		公民科教育法 1	2 *	3

科目区分		授業科目	単位数	配当年次
自由科目群	教職科目	公民科教育法 2	2 *	3
		保健体育科教育法 1	2 *	2
		保健体育科教育法 2	2 *	2
		保健体育科教育法 3	2 *	3
		保健体育科教育法 4	2 *	3
	リメディアル科目	基礎数学 1	2 *	1
		基礎数学 2	2 *	1

備考 *印は選択科目を示す。

経済経営学部 経済学科

科目区分		授業科目	単位数	配当年次
一般教育科目群	教養科目	北陸大学の学び	1	1
		北陸の文化と社会	2 *	2
		SDG s 1	2 *	1
		SDG s 2	2 *	1
		哲学	2 *	1
		倫理学	2 *	1
		心理学	2 *	1
		社会学	2 *	1
		政治学	2 *	2
		行政学	2 *	2
		国際政治学	2 *	3
		グローバルガバナンス	2 *	3
		自然科学概論	2 *	2
		ジェンダー論	2 *	2
		生命科学	2 *	3
		スポーツ 1	1 *	1
		スポーツ 2	1 *	1
		性教育	2 *	2
		救急処置	2 *	3
		発育発達論	2 *	3
	公衆衛生学	2 *	3	
	外国語科目	英語 1	1	1
		英語 2	1	1
		実用英語 1	1 *	2
		実用英語 2	1 *	2
		実用英語 3	1 *	3
		実用英語 4	1 *	3
		中国語 1	1 *	2
		中国語 2	1 *	2
		中国語 3	1 *	3
		中国語 4	1 *	3
		English Seminar1	2 *	3
		English Seminar2	2 *	3
English Seminar3		2 *	4	
留学生特例科目	日本語 1	1 *	1	
	日本語 2	1 *	1	
	日本語 3	1 *	2	
	日本語 4	1 *	2	
	日本語 5	1 *	3	
	日本語 6	1 *	3	
	実用日本語 1	1 *	1	
	実用日本語 2	1 *	1	
	実用日本語 3	1 *	2	
	実用日本語 4	1 *	2	
実用日本語 5	1 *	3		

科目区分		授業科目	単位数	配当年次
一般 教育 科目 群	留学生 特例 科目	実用日本語 6	1 *	3
		日本事情 1	2 *	1
		日本事情 2	2 *	1
		資格日本語 1	2 *	3
		資格日本語 2	2 *	3
		資格日本語 3	2 *	4
		資格日本語 4	2 *	4
	文章表 現科 目	日本語リテラシー 1	2 *	1
		日本語リテラシー 2	2 *	1
		アカデミックライティング 1	1 *	2
		アカデミックライティング 2	1 *	2
		リサーチプロジェクト 1	1 *	3
		リサーチプロジェクト 2	1 *	3
	海外研 修科 目	海外研修 1	1 *	1 ~ 4
		海外研修 2	1 *	1 ~ 4
		海外研修 3	2 *	1 ~ 4
		海外研修 4	2 *	1 ~ 4
		海外研修 5	6 *	1 ~ 4
		海外研修 6	6 *	1 ~ 4
専 門 教 育 科 目 群	デー タ サイ エ ン ス ・ A I 科 目	情報リテラシー	2	1
		プログラミング入門	2 *	1
		AI 基礎	2 *	1
		データサイエンス 1	2 *	1
		データサイエンス 2	2 *	2
		データサイエンス 3	2 *	2
		データサイエンス 4	2 *	3
		社会調査法	2 *	2
		データサイエンスのための数学	2 *	2
		データベース	2 *	3
		データエンジニアリング	2 *	3
	リー ダー シ ップ ・ キ ャ リ ア 形 成 科 目	キャリアデザイン 1	1 *	1
		キャリアデザイン 2	1 *	1
		リーダーシップ入門	1 *	1
		ファシリテーション論	2 *	1
		アントレプレナーシップ論	1 *	2
		キャリア形成論	1 *	2
		インターンシップ	2 *	3
		キャリアプランニング	2 *	3
	経 済 基 幹 科 目	経済学入門	2	1
		経営学入門	2 *	1
		会計学入門	2 *	1
		ミクロ経済学 1	2	1
		ミクロ経済学 2	2	2
		マクロ経済学 1	2	1
		マクロ経済学 2	2	2
		経済数学	2 *	1
		経済統計	2 *	2

科目区分		授業科目	単位数	配当年次
専門教育科目群	経済基幹科目	計量経済学	2 *	3
		経済データ分析	2 *	3
		経済の思想と哲学	2 *	2
		ゲーム理論	2 *	2
		日本経済論	2 *	2
	経済専門科目	金融リテラシー	2 *	1
		金融論	2 *	2
		ファイナンシャルプランニング	2 *	2
		国際金融論	2 *	3
		コーポレートファイナンス	2 *	3
		財政学	2 *	2
		公共経済学	2 *	3
		行動経済学	2 *	3
		経済政策	2 *	2
		社会保障論	2 *	3
		労働経済学	2 *	2
		教育経済学	2 *	3
		マーケティング論	2 *	2
		イノベーション論	2 *	3
		都市・地域経済論	2 *	3
		医療経済論	2 *	3
		資源・エネルギー論	2 *	2
		国際経済学	2 *	2
		環境経済学	2 *	3
		開発経済学	2 *	3
		グローバル経済論	2 *	3
		北陸SDG s 基礎	2 *	3
		北陸SDG s 実践	2 *	3
	展開科目	簿記論	2 *	1
		財務会計論	2 *	2
		人的資源管理論	2 *	2
		法学入門	2 *	1
		民法 1	2 *	1
		民法 2	2 *	2
		日本国憲法	2 *	2
		企業法	2 *	3
		地域マネジメント入門	2 *	1
		地域マネジメント総論	2 *	2
		地域マネジメント実習	1 *	2
		基礎プログラミング	2 *	2
		応用プログラミング	2 *	2
		実践プログラミング	2 *	2
		スポーツ科学概論	2 *	1
		コーチング学	2 *	3
		スポーツ社会学	2 *	3
		スポーツマネジメント	2 *	3

科目区分		授業科目	単位数	配当年次
	演習科目	基礎ゼミナール	4	1
		専門基礎ゼミナール	4	2
		専門ゼミナール	4	3
		卒業研究	6	4
自由科目群	教職科目	教育学概論	2 *	1
		教職論	2 *	1
		教育社会学	2 *	3
		教育心理学	2 *	2
		特別支援教育	1 *	2
		教育課程論	2 *	2
		道德教育論	2 *	3
		特別活動と総合的な学習の時間	2 *	3
		教育方法論(情報通信技術を活用した教育の理論及び方法)	2 *	2
		生徒・進路指導論	2 *	3
		教育相談	2 *	3
		教育実習事前事後指導	1 *	4
		教育実習 1	2 *	4
		教育実習 2	2 *	4
		教職実践演習(中・高)	2 *	4
		公民科教育法 1	2 *	3
		公民科教育法 2	2 *	3
	リメディアル科目	基礎数学 1	2 *	1
		基礎数学 2	2 *	1

備考 *は選択科目を示す。

3. カリキュラム・マップ、ナンバリング、カリキュラム・ツリー、DPループリック

【カリキュラム・マップ、ナンバリング】

ナンバリングとは、授業科目に番号をつけ、分類することで、学修の段階や順序を表し、教育課程の体系性を示す仕組みのことです。

経済経営学部マネジメント学科 カリキュラム・マップ

教育理念									
【経済経営学部】 生涯学び、成長し続けられる人材の養成をとおして、誰もが活躍できる社会の構築と発展に寄与する。 【マネジメント学科】 社会・組織・自己をマネジメントする力を身につけた人材の養成をとおして、誰もが安心して暮らせる社会の実現を目指す。									
人材養成の目的									
【経済経営学部】 広い知識と視野を持ち、他者と協働して課題を発見し解決することを通じて、健康な社会及び健全な組織の実現に貢献できる人材を養成する。 【マネジメント学科】 マネジメント5分野(経営学、会計学、情報学、法学、経済学)の知識と技能を備え、社会・組織・自己における諸課題を多角的に捉え解決できるマネジメント力を持つ人材を養成する。									
学位授与方針(DP:ディプロマ・ポリシー)									
【大学】 本学は、「自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成」を建学の精神・教育理念とし、大学の使命である「健康社会の実現」のため、グローバルな視点を持ちつつ地域に貢献する人材を育成することを目的としている。本学の各学位プログラムの課程を修了し、以下の資質・能力を備えた者に学位を授与する。 (知識・技能) (1) 健康社会の実現のため、社会の一員としての使命感、責任感、倫理観を持ち、幅広い教養を身につけている。 (2) 専攻する学位プログラムにおける基本的な知識・技能を修得し、現実社会の中で適切に活用できる。 (思考力・判断力・表現力) (3) 知識・技能や他者の意見に基づき、自らの考えを組み立て、効果的なコミュニケーションを通して表現・伝達できる能力を身につけている。 (4) 自分のおかれている状況から課題を発見・分析し、解決方法について客観的・多面的に考察できる能力を身につけている。 (主体性・多様性・協働性) (5) 多様な文化・価値観を持つ他者に対して理解と共感を示し、ともに目標を達成しようとする協働力を身につけている。 (6) 自らを律し、主体的に考え、積極的に行動しようとする態度を身につけている。									
【経済経営学部マネジメント学科】 人材養成の目的に沿って、以下の要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学士(マネジメント学)の学位を授与する。 (知識・技能) (1) 社会の一員として必要となる幅広い知識と技能を備えている。 (2) マネジメント5分野の専門知識と技能を備えている。 (思考力・判断力・表現力) (3) 情報を収集・分析し、課題を発見する力を身につけている。 (4) 課題解決に至る道筋を論理的に考える力を身につけている。 (5) 課題の背景、解決策及びその効果を正しく相手に伝える力を身につけている。 (主体性・多様性・協働性) (6) 自分の考えや判断に基づいて行動し、その結果に責任を持つことができる。 (7) 多様な個の存在を認め、尊重することができる。 (8) 他者と協働し、課題を解決することができる。									

経済経営学部マネジメント学科カリキュラム							経済経営学部マネジメント学科DPとの関連 (◎強く関連、○関連)							
ナン バ リ ン グ	科 目 群	科 目 名	単 位 数	科 目 区 分	配 当 年 次	科 目 概 要	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性・多様性・協働性					
							(1) 社会の一員として必要となる幅広い知識と技能を備えている。	(2) マネジメント5分野の専門知識と技能を備えている。	(3) 情報を収集・分析し、課題を発見する力を身につけている。	(4) 課題解決に至る道筋を論理的に考える力を身につけている。	(5) 課題の背景、解決策及びその効果を正しく相手に伝える力を身につけている。	(6) 自分の考えや判断に基づいて行動し、その結果に責任を持つことができる。	(7) 多様な個の存在を認め、尊重することができる。	(8) 他者と協働し、課題を解決することができる。
							(1)	(2)	(4)	(4)	(3)	(6)	(5)	(5)
LIB101	教養	北陸大学の学び	1	必修	1	本学がどのような経緯を経て現在の大学として存在するか、本学の建学の精神を中心に学ぶ。	◎			○	◎			
LIB201	教養	北陸の文化と社会	2	選択	2	北陸地域の文化や産業の魅力を探り、地域の文化や産業の継承と発展、文化の活用による地域の活性化や地域産業の振興などを学ぶ。	◎			○				
LIB102	教養	SDGs1	2	選択	1	SDGs(持続可能な開発目標)の17の目標について、その概要を学び、今後の専門科目における学習の方向性を定める。	◎			◎	○	○	○	○
LIB103	教養	SDGs2	2	選択	1	SDGs1で学んだことを踏まえ、より深くSDGs達成に向けた方策を学び、課題を整理し解決方法を考える。	◎			○	○	○	○	◎
LIB104	教養	哲学	2	選択	1	現代社会に生じる多様な諸問題に対して円滑に対応できるようにするために、さまざまな哲学者の基本思想を学ぶ。	◎			○				
LIB105	教養	倫理学	2	選択	1	よりよく生きるという人間本来の課題をめぐって、近代の西洋倫理学の流れを概観し、代表的な思想家の考え方を学ぶ。	◎			○				
LIB106	教養	心理学	2	選択	1	心理学の基礎的な知識や理論を学び、心理学における「人間の心」の扱い方や「科学的な人間理解」の考え方を学ぶ。	◎			○				
LIB107	教養	社会学	2	選択	1	社会学の考え方や理論を学ぶとともに、実際の社会学分野の研究成果を知り、社会に対する幅広いものの見方を理解するための科目である。	◎			○				
LIB202	教養	政治学	2	選択	2	政治学の基礎的な用語を理解し、現在、何が政治の課題になっているのかを学ぶ。	◎			○				
LIB203	教養	行政学	2	選択	2	行政組織についての基本的な知識と、行政改革や地方分権の現状や課題を学ぶ。	◎			○				
LIB301	教養	国際政治学	2	選択	3	国際政治の様々な事例や課題について考えを知るとともに、国際政治理論の基本を学ぶ。	◎			○			○	
LIB302	教養	グローバルガバナンス	2	選択	3	国際社会に関する様々な課題を扱い、国際機関、国際法、国際協力などがどのように機能しているかを学ぶ。	◎			○			○	
LIB204	教養	自然科学概論	2	選択	2	自然科学に関する基礎知識を学ぶ。現在、自然の理解はどこまで進んでいるのか、さらに自然から学んだことを人間社会がどのように応用・利用しているかを理解する。	◎			○				
LIB205	教養	ジェンダー論	2	選択	2	ジェンダー(社会的性)と家族、学校、社会とのかかわりや、そこで作られ私たちを縛るジェンダー規範について、ジェンダーを取り巻く諸問題として学ぶ。	◎			○			○	

経済経営学部マネジメント学科カリキュラム							経済経営学部マネジメント学科DPとの関連 (◎強く関連、○関連)							
ナンバリング	科目群	科目名	単位数	科目区分	配当年次	科目概要	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性・多様性・協働性					
							(1) 社会の一員として必要となる幅広い知識と技能を備えている。	(2) マネジメント5分野の専門知識と技能を備えている。	(3) 情報を収集・分析し、課題を発見する力を身につけている。	(4) 課題解決に至る道筋を論理的に考え、正しく相手に伝える力を身につけている。	(5) 課題の背景、解決策及びその効果について行動し、その結果に責任を持つことができる。	(6) 自分の考えや判断に基づいて行動し、その結果に責任を持つことができる。	(7) 多様な個々の存在を認め、尊重することができる。	(8) 他者と協働し、課題を解決することができる。
							大学DPとの関連							
							(1)	(2)	(4)	(4)	(3)	(6)	(5)	(5)
LIB303	教養	生命科学	2	選択	3	“人体の不思議”について、現在の科学はどこまで解明しているのかを知る。	◎			○				
LIB108	教養	スポーツ1	1	選択	1	スポーツ・運動実践(個人スポーツや集団スポーツ)を通して、体力を増進させ、運動技能の習得と向上を図る。	◎					○	○	○
LIB109	教養	スポーツ2	1	選択	1	科学的理論に基づいたスポーツ・運動実践(個人スポーツや集団スポーツ)を通して、体力を増進させ、運動技能の習得と向上を図る。	◎					○	○	○
LIB206	教養	性教育	2	選択	2	学校における人権尊重教育の大きな柱として「いのちの教育」に対する深い造詣を構築する。個人の基本的な人権を尊重する者を養成する。	◎			○				
LIB304	教養	救急処置	2	選択	3	プレホスピタルケアの現場で求められる応急処置の考え方と手順の要点について学ぶ。	◎			○				
LIB305	教養	発達発達論	2	選択	3	発達や老化における様々な心身の変化について理解を深めるとともに、各段階に応じた運動・トレーニングの方法論や指導論について学ぶ。	◎					○	○	
LIB306	教養	公衆衛生学	2	選択	3	疾病予防、健康増進、環境保健活動、食品衛生、および保健や福祉制度の管理運営に対する知識と、個人や社会の健康保持・増進方法について学ぶ。	◎			○				
LEN101	外国語	英語1	1	必修	1	高校までに学んだ英語の知識を基礎に置きながら、文の基本構造を理解し、考えを単文で表現するために必要な知識・技能について学ぶ。	◎						○	
LEN102	外国語	英語2	1	必修	1	英語でまとまりのある文章を効果的に表現し、身近なトピックについて書かれた英文を正確に読むための技法と、語彙・文法の理解をさらに深める。	◎						○	
LEN201	外国語	実用英語1	1	選択	2	大学生が実生活において必要とされる表現力を身に付け、日常的に英語を「使う」ための実用的なスキルを学ぶ。これに関連付けながらTOEICで求められる知識も扱う。	◎				○		○	
LEN202	外国語	実用英語2	1	選択	2	「実用英語1」で目指した力をさらに発展させ、表現の幅を広げながら実用的な英語力の定着を図る。その指標としてTOEICを活用し、より高いスコアをあげるためのスキルについて学ぶ。	◎				○		○	
LEN301	外国語	実用英語3	1	選択	3	大学生として学ぶ専門領域と関係のあるトピックについて、ジャンルに特化した表現に慣れ親しみ、平易な文章で書かれたテキストを読む。	◎				○		○	
LEN302	外国語	実用英語4	1	選択	3	学内外において様々な人と交わり、英語を用いて論理的に議論を組み立て、抽象的な概念も表現できるようにする。またTOEICを活用し、実社会での英語運用能力を高める。	◎				○		○	
LCN201	外国語	中国語1	1	選択	2	中国語の発音の基礎や基本的な文法と語彙を学ぶ。	◎						○	
LCN202	外国語	中国語2	1	選択	2	中国語1に引き続き中国語の発音や文法を学び、中国語の表現のバリエーションを増やす。	◎						○	
LCN301	外国語	中国語3	1	選択	3	「聞く・話す・読む・書く」の4技能をバランスよく修得する。	◎						○	
LCN302	外国語	中国語4	1	選択	3	「聞く・話す・読む・書く」の4技能をさらに高めるための中級段階の語彙、表現、文法を中心に学ぶ。	◎						○	
LEN303	外国語	English Seminar1	2	選択	3	本科目は、TOEICの対策講座である。基本から見直し、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの技能を身につける。	◎			○	○		○	
LEN304	外国語	English Seminar2	2	選択	3	本科目は、TOEICの対策講座である。リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの技能をいくつかを高める。	◎			○	○		○	
LEN401	外国語	English Seminar3	2	選択	4	本科目は、TOEICの対策講座である。リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの技能を総合的に高める。	◎			○	○		○	
LJP101	留学生特例	日本語1	1	選択	1	大学で使う読解力、聴解力を身につけるために様々なタイプの文章を読み取る練習をおこない、日本語の言葉や表現の理解を深める。	◎						○	
LJP102	留学生特例	日本語2	1	選択	1	様々なタイプの文章を正確に読み取る練習や日本語の言葉や表現の理解を深め、大学で使う読解力、聴解力を身につける。	◎						○	
LJP201	留学生特例	日本語3	1	選択	2	各自の興味に応じた読み物などを選び、それについての発表を行うことにより、日本語を理解する能力を身につける。	◎						○	
LJP202	留学生特例	日本語4	1	選択	2	各自の興味に応じた読み物などを選び、それについての発表を行うことにより、より専門的な内容の日本語を理解する能力を身につける。	◎						○	
LJP301	留学生特例	日本語5	1	選択	3	論理的な思考から自分の考えを表現する能力を身につける。	◎						○	
LJP302	留学生特例	日本語6	1	選択	3	論理的な思考から自分の考えを上手に表現し、伝える能力を身につける。	◎						○	
LJP103	留学生特例	実用日本語1	1	選択	1	日本語の知識、読解能力、聴解能力の向上を目指し、入門的な日本語能力を高める。	◎						○	
LJP104	留学生特例	実用日本語2	1	選択	1	日本語の知識、読解能力、聴解能力の向上を目指し、日常における基礎的な日本語能力を高める。	◎						○	
LJP203	留学生特例	実用日本語3	1	選択	2	日本語の知識、読解能力、聴解能力の向上を目指し、日常における実践的な日本語能力を高める。	◎			○			○	
LJP204	留学生特例	実用日本語4	1	選択	2	日本語の知識、読解能力、聴解能力の向上を目指し、応用的な日本語能力を高める。	◎			○			○	
LJP303	留学生特例	実用日本語5	1	選択	3	日本語の知識、読解能力、聴解能力の向上を目指し、専門的な日本語能力を高める。	◎			○			○	
LJP304	留学生特例	実用日本語6	1	選択	3	日本語の知識、読解能力、聴解能力の向上を目指し、総合的な日本語能力を高める。	◎			○			○	
LJP105	留学生特例	日本事情1	2	選択	1	日本についての情報から、自分なりの日本を発見し、それを伝えることにより日本の理解を深める。	◎						○	
LJP16	留学生特例	日本事情2	2	選択	1	日本について調査し、自分なりの日本を発見し、それを伝えることにより日本の理解を深める。	◎						○	
LJP305	留学生特例	資格日本語1	2	選択	3	日本語能力試験の入門的な出題項目(文字語彙・文法・読解・聴解)を学習する。	◎			○	○		○	
LJP306	留学生特例	資格日本語2	2	選択	3	日本語能力試験の基礎的な出題項目(文字語彙・文法・読解・聴解)を学習する。	◎			○	○		○	
LJP401	留学生特例	資格日本語3	2	選択	4	日本語能力試験の応用的な出題項目(文字語彙・文法・読解・聴解)を学習する。	◎			○	○		○	
LJP402	留学生特例	資格日本語4	2	選択	4	日本語能力試験の総合的な出題項目(文字語彙・文法・読解・聴解)を学習する。	◎			○	○		○	

経済経営学部マネジメント学科カリキュラム							経済経営学部マネジメント学科DPとの関連 (◎強く関連、○関連)							
ナンバリング	科目群	科目名	単位数	科目区分	配当年次	科目概要	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体性・多様性・協働性			
							(1) 社会の一員として必要となる幅広い知識と技能を備えている。	(2) マネジメント分野の専門知識と技能を備えている。	(3) 情報を収集・分析し、課題を発見する力や身につけている。	(4) 課題解決に至る道筋を論理的に考える力や身につけている。	(5) 課題の背景、解決策及びその効果について行動に伝える力や身につけている。	(6) 自分の考えや判断に基づいて行動し、その結果に責任を担うことができる。	(7) 多様な個々の存在を認め、尊重することができる。	(8) 他者と協働し、課題を解決することができる。
							大学DPとの関連							
							(1)	(2)	(4)	(4)	(3)	(6)	(5)	(5)
PSS101	文章表現	日本語リテラシー1	2	選択	1	自分の考えていることや知っていることが相手に正しく伝わるようにするために、文と語句・段落構成・全体構成を整える技能を身につける文章作成科目である。	○			◎	◎			○
PSS102	文章表現	日本語リテラシー2	2	選択	1	他者の文章などを要約して、論点を見つけることによって、適切に引用して、自己の意見と他者の意見を区別しつつ、自己の意見を小論文形式で作成する技能を身につける科目である。	○			◎	◎			○
PSS201	文章表現	アカデミックライティング1	1	選択	2	他者の文章・図表から自ら論点を見つけ、自ら調査した内容と組み合わせることで、他者の意見を批判的に検討した文章を作成する技能を身につける科目である。		○		◎	◎			○
PSS202	文章表現	アカデミックライティング2	1	選択	2	学術的な「問い」に対し、自分で全体構造(アウトライン)を考えた文章を作成できるようになるために、論証に必要な論理的思考を身につける科目である。		○		◎	◎			○
PSS301	文章表現	リサーチプロジェクト1	1	選択	3	信頼できる情報源から情報を収集する方法を把握して、図表などを適切に用いて表現するため技能を用いて文章を作成する科目である。		○		◎	◎			○
PSS302	文章表現	リサーチプロジェクト2	1	選択	3	卒業研究に備えて、研究テーマや学術的な問いの立て方、研究計画書を作成する際に記載すべき事項を学んで、実践していく文章表現科目である。		○		◎	◎			○
INT101	海外研修	海外研修1	1	選択	1～4	海外研修の単位認定を行う。						◎	◎	○
INT102	海外研修	海外研修2	1	選択	1～4	派遣留学及び認定留学の単位認定を行う。						◎	◎	○
INT103	海外研修	海外研修3	2	選択	1～4	派遣留学及び認定留学の単位認定を行う。						◎	◎	○
INT104	海外研修	海外研修4	2	選択	1～4	派遣留学及び認定留学の単位認定を行う。						◎	◎	○
INT105	海外研修	海外研修5	6	選択	1～4	派遣留学及び認定留学の単位認定を行う。						◎	◎	○
INT106	海外研修	海外研修6	6	選択	1～4	派遣留学及び認定留学の単位認定を行う。						◎	◎	○
DAI101	データサイエンス・AI	情報リテラシー	2	必修	1	レポートや論文の作成に必要なアカデミックリテラシーを学ぶ。具体的には、参考文献・引用・データ処理などを学ぶ。	◎		◎	○	○			
DAI102	データサイエンス・AI	プログラミング入門	2	選択	1	コンピュータに対する命令がどのように書かれているかを理解し、基礎的なプログラミングを実行できるようになるため、プログラミングに関する講義・問題演習と簡単なアプリ開発演習を行う。		○	◎	○	○			
DAI103	データサイエンス・AI	AI基礎	2	選択	1	AI(人工知能)・深層学習を始めとする情報技術の概要と仕組み・活用事例を学び、情報技術の進展による社会の変化と個人への影響を理解することを通じて、社会・組織・個人の問題解決のために情報技術を有効かつ安全に活用する能力を身につける。		○	◎	○	○			
DAI104	データサイエンス・AI	データサイエンス1	2	選択	1	データやAI(人工知能)を日常生活や仕事等で使いこなせる基礎的なスキルを身につける。データを可視化し、データから事象を理解できるようになるとともに、データやAIの限界についても学ぶ。	○		◎	○	○			
DAI201	データサイエンス・AI	データサイエンス2	2	選択	2	データサイエンスの基本として、どの分野を学ぶにも必要となる標準的な統計学として、記述統計や入門的な推測統計を学ぶ。実際にデータとデバイス・ソフトを活用して経験的に統計学の概念を学ぶ。		○	◎	○	○			
DAI202	データサイエンス・AI	データサイエンス3	2	選択	2	データサイエンス1および2で学んだ内容を発展させ、多変量解析について中心的に学習する。		○	◎	○	○			
DAI301	データサイエンス・AI	データサイエンス4	2	選択	3	人工知能に関する正しい知識を学び、機械学習の実装方法の一端を体得することを目的とする。機械学習の基礎的な概念と理論を学び、機械学習を応用するために必要な知識の習得を目指す。		○	◎	○	○			
DAI203	データサイエンス・AI	社会調査法	2	選択	2	さまざまな調査を行う際の企画の立て方、データの収集方法およびその取扱い方など社会調査を行う上で必須となる知識・技能を学習する。また、簡単なサンプリングや質問文の作成などのワークを通じて、調査の設計における注意事項などを学習する。		○	◎	○	○			
DAI204	データサイエンス・AI	データサイエンスのための数学	2	選択	2	データサイエンスに必要な数学として、線形代数・微分積分・確率論・統計学の4領域を学習する。		○	◎					
DAI302	データサイエンス・AI	データベース	2	選択	3	データベースを構築・操作する実践演習を通じて、データベースの仕組みを理解し、データベースの設計と運用管理手法を学ぶ。		○	◎					
DAI303	データサイエンス・AI	データエンジニアリング	2	選択	3	データの取得の方法から、実際に機械学習に利用できるようにデータを整形する各種の前処理手法について学ぶ。		○	◎	○				
CAE101	リーダーシップ・キャリア形成	キャリアデザイン1	1	選択	1	基礎ゼミナールと連動し、毎週45分で開講されるリフレクション科目となる。自己の経験をふりかえり、他者に伝える。社会人による講座も実施する。	○					◎		
CAE102	リーダーシップ・キャリア形成	キャリアデザイン2	1	選択	1	基礎ゼミナールと連動し、毎週45分で開講されるリフレクション科目となる。自己の経験をふりかえり他者に効果的に伝える。社会人による講座も実施する。	○					◎		
CAE103	リーダーシップ・キャリア形成	リーダーシップ入門	1	選択	1	目標達成に向けて組織を率い導く資質能力であるリーダーシップの概念と理論の変遷について学び、企業・組織のマネジメントのあり方と関連して今後求められるリーダーシップについて自分の意見を確立する。	○					◎	◎	○
CAE104	リーダーシップ・キャリア形成	ファシリテーション論	2	選択	1	チーム活動やグループ学習、ディスカッション等において、グループを活性化させるためのチームビルディングやファシリテーションの手法や考え方を、主に実践を通じて身につける。						◎	◎	○
CAE201	リーダーシップ・キャリア形成	アントレプレナーシップ論	1	選択	2	起業家による体験談の講演、デザイン思考等の思考法やフレームワークに関する講義・演習、ビジネスプランの作成とそれに基づく仮説検証や顧客ヒアリング等の機会を通じて、アントレプレナーシップの精神を身につける。						◎	○	○
CAE202	リーダーシップ・キャリア形成	キャリア形成論	1	選択	2	自分の生き方について考え、主体的にキャリアを形成するために必要な知識と考え方について学ぶ。キャリア形成の基盤となる能力と態度を身につけ、在学時のみならず生涯に亘って自律的にそれらを実践できるようにすることを目指す。	○				◎	○		
CAE301	リーダーシップ・キャリア形成	インターンシップ	2	選択	3	インターンシップに関する事前研修をうけ、インターンシップに参加することで職業体験を行う。事後研修も実施する。	○					◎		
CAE302	リーダーシップ・キャリア形成	キャリアアブラニング	2	選択	3	インターンシップにおける活動の振り返りをグループで行うこと等を通じて、自分のキャリアを自律的にデザインできるようにすることを目指す。	○				◎	○		
MAN101	経営	経営学入門	2	必修	1	経営学領域の学びの導入として組織内部と外部のマネジメントと、幅広く基礎的な論点を学習する。	○	◎						
MAN102	経営	経営戦略論	2	選択	1	1年次の経営学入門の学びを発展させ、より深く戦略論を学習するとともに実践的な戦略策定のポイントを実例を交えて学習する。	○	◎						

経済経営学部マネジメント学科カリキュラム							経済経営学部マネジメント学科DPとの関連（◎強く関連、○関連）							
ナンバリング	科目群	科目名	単位数	科目区分	配当年次	科目概要	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体性・多様性・協働性			
							(1) 社会の一員として必要となる幅広い知識と技能を備えている。	(2) マネジメント5分野の専門知識と技能を備えている。	(3) 情報を収集・分析し、課題を発見する力を身につけている。	(4) 課題解決に至る道筋を論理的に考える力を身につけている。	(5) 課題の背景、解決策及びその効果を正しく相手に伝える力を身につけている。	(6) 自分の考えや判断に基づいて行動し、その結果に責任を持つことができる。	(7) 多様な個々の存在を認め、尊重することができる。	(8) 他者と協働し、課題を解決することができる。
							大学DPとの関連							
							(1)	(2)	(4)	(4)	(3)	(6)	(5)	(5)
MAN301	経営	経営分析論	2	選択	3	実際の企業の経営活動を分析するために、経営分析の目的や考え方、分析するためのモデル、そして、分析に必要な財務諸表に代表されるデータの収集方法や扱い方について学ぶ。また、分析も行い、分析に基づいた提言を検討する。	○	◎	◎	○	○			
MAN201	経営	経営組織論	2	選択	2	組織の中の個人の行動や個人と個人の関わり方に焦点を当てたミクロ組織論、そして組織構造を分析単位として捉えていくマクロ組織論を体系的に深く学習する。	○	◎						
MAN202	経営	人的資源管理論	2	選択	2	企業の重要な経営資源であるヒト、モノ、カネ、情報、この中で「ヒト」に焦点をあて、人材をどのように育成すればいいのか、どうすれば組織のパフォーマンスが上がるのか等について、賃金体系や昇進システムなども含めて考察する。	○	◎						
MAN103	経営	マーケティング論	2	選択	1	企業の対市場活動を理解するために、製品、価格、プロモーション、流通の視点から、具体的なケースとあわせて、背後にある理論やロジックを学ぶ。	○	◎						
MAN203	経営	消費者行動論	2	選択	2	消費者が「なぜ買うのか？」を理解するために、経済学や心理学などの視点と交え、消費者の購買意思決定プロセスを中心に学ぶ。	○	◎						
MAN302	経営	マーケットリサーチ論	2	選択	3	エビデンスに基づいた論文やレポートを作るために、社会調査の考え方、調査手法、検証方法を学ぶ。統計学や分析ツールの使い方も学習する。	○	◎	◎	◎	◎			○
MAN303	経営	マーケティング・サイエンス	2	選択	3	マーケティング活動に関連したさまざまな意思決定をデータと論理的な視点から捉えるために、経済学や心理学の知見をもとにした理論モデルとその実証について学ぶ。	○	◎	○	◎				
MAN204	経営	広告論	2	選択	2	企業がターゲットとコミュニケーションする目的・手段を理解するために、マーケティング・ミックスにおける広告（プロモーション）戦略の立案やマネジメント方法、そして、広告効果を測定するモデルおよび測定方法について学ぶ。	○	◎	○					
MAN304	経営	イノベーション論	2	選択	3	企業が成長、競争する上で重要なイノベーションに関する基本的な理論・知識を習得する。イノベーションとは何か、イノベーションの発生・普及過程を整理するとともに、大企業がジレンマに陥る原因等を考察する。	○	○		◎				
MAN305	経営	中小企業論	2	選択	3	多様かつ多数を占める中小企業の経営活動を理解するために、大企業と比較しながら、中小企業の経営活動を捉える理論やロジック、具体的な事例について学ぶ。	○	◎						
MAN306	経営	経営史	2	選択	3	企業や経営者が外部環境の変化の中で主体的な意思決定に基づき行動し各種の戦略と歴史を作ってきた。その変遷を学習する。		◎	◎	◎	◎			
LAW101	法学	法学入門	2	必修	1	「法的思考力」を身につけるために、法学の基本的知識を学ぶ。	○	◎		○	○			
LAW201	法学	日本国憲法	2	選択	2	国会・内閣・裁判所の憲法上の位置づけと、立憲主義（人権を尊重し、国家権力を制限すること）を学ぶ。	○	◎		○	○			
LAW102	法学	民法1	2	選択	1	民法総則および「人と人との関係」のうちの「家族関係」上の具体的な問題（子の権利、夫婦関係、親子関係、相続など）を中心に学ぶ。	○	◎		○	○			
LAW202	法学	民法2	2	選択	2	「人と人との関係」を支える契約や不法行為などを中心に学ぶ。	○	◎		○	○			
LAW203	法学	民法3	2	選択	2	「人と物との関係」（＝「物権」）に関連する諸制度について学ぶ。		◎	○	○	○			
LAW204	法学	刑法	2	選択	2	社会的な事例を扱いながら、刑法に関する基本的な原則について学ぶ。		◎	○	○	○			
LAW301	法学	行政法	2	選択	3	行政に関連する諸法律に共通する原理や仕組みについて学ぶ。		◎	○	○	○			
LAW302	法学	企業法	2	選択	3	会社制度の法的枠組みと会社統治の仕組み、会社の資金調達について学ぶ。	○	◎		○	○			
LAW303	法学	知的財産権法	2	選択	3	知的財産法（著作権法、特許法、商標法など）について学ぶ。		◎	○	○	○			
LAW304	法学	労働法	2	選択	3	労働条件、就業規則、労働協約、解雇などを中心に学ぶ。		◎	○	○	○			
ACC101	会計	会計学入門	2	必修	1	会計学の基礎的な考え方の理解を目的とし、会計の目的、会計の利用（財務会計・管理会計）や、複式簿記のしくみについて学ぶ。	◎	◎						
ACC102	会計	簿記論1	2	選択	1	日商簿記検定3級が認定する商業簿記の一連の流れを理解し、仕訳や決算手帳などに関する基礎的な知識と技術を体系的に学ぶ。	◎	◎						
ACC201	会計	簿記論2	2	選択	2	日商簿記検定2級が認定する能力のうち、商業簿記の仕訳や決算手帳、課税所得の算定と税効果会計、収益の認識基準といった個別論点の知識を習得する。	○	◎						
ACC202	会計	簿記論3	2	選択	2	日商簿記検定2級が認定する能力のうち、商業簿記の本支店会計、合併と事業譲渡、連結会計といった特殊論点の知識を習得する。	○	◎						
ACC203	会計	工業簿記論	2	選択	2	日商簿記検定2級が認定する能力のうち、工業簿記の概論、材料費・労務費・経費計算、製造間接費、部門費計算について学習する。	○	◎						
ACC204	会計	原価計算論	2	選択	2	日商簿記検定2級が認定する能力のうち、個別原価計算、総合原価計算、標準原価計算、損益分岐点分析等について学習する。	○	◎						
ACC103	会計	会計学原論	2	選択	1	会計学の基礎的な考え方の理解を目的とし、企業会計の機能や原則、会計基準と会計制度、財務諸表（決算書）の体系を学ぶ。	◎	◎						
ACC205	会計	財務会計論	2	選択	2	財務会計の基礎的な知識を習得し、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の内容と関係性を理解する。そして、それら財務諸表の分析手法を学ぶ。	◎	◎						
ACC301	会計	税務会計論	2	選択	3	法律学領域である租税法の運用を理解するために、租税の意義、税務会計の基礎、税務実務の基礎知識を学ぶ。「簿記論1」、「財務会計論」既習が履修の前提となる。		◎	◎	◎	◎			
ACC302	会計	管理会計論	2	選択	3	管理会計の基礎的な知識を習得し、企業のPDCA（計画・実施・評価・改善活動）サイクルにおける意思決定と業績管理の手法や事例について学ぶ。		◎	◎	◎	◎			
ACC303	会計	監査論	2	選択	3	会計監査制度の概要を理解するために、監査の基礎概念、監査人制度、監査意見形成のプロセスをケースを織り交ぜながら学ぶ。「簿記論1」、「財務会計論」既習が履修の前提となる。	◎	◎	◎	◎	◎			
ACC304	会計	会計情報論	2	選択	3	会計を情報として捉える視点から、企業の財務諸表が証券投資や融資の意思決定にどのように役立つかを学ぶ。「財務会計論」既習が履修の前提となる。	○	◎	◎	◎	◎			
INF101	情報	情報社会論	2	選択	1	AIやIoTを始めとする情報技術の導入にともなう倫理的・法的・社会的課題に関する議論を通じて、各自が確かな判断基準を持ち、技術を安心安全に活用するための適切な判断ができるようになることを目指す。	○	◎	◎	◎	◎	○		
INF201	情報	基礎プログラミング	2	選択	2	基礎的なプログラムを自分で作成できる技能を身につけた上で、効率よく問題を解決するために必要なデータ構造とアルゴリズムの基礎について理解する。	○	◎	○	○				

経済経営学部マネジメント学科カリキュラム							経済経営学部マネジメント学科DPとの関連 (◎強く関連、○関連)							
ナンバリング	科目群	科目名	単位数	科目区分	配当年次	科目概要	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体性・多様性・協働性			
							(1) 社会の一員として必要となる幅広い知識と技能を備えている。	(2) マネジメント5分野の専門知識と技能を備えている。	(3) 情報を収集・分析し、課題を発見する力を身につけている。	(4) 課題解決に至る道筋を論理的に考える力を身につけている。	(5) 課題の背景、解決策及びその効果について行動に伝える力を身につけている。	(6) 自分の考えや判断に基づいて行動し、その結果に責任を持つことができる。	(7) 多様な個々の存在を認め、尊重することができる。	(8) 他者と協働し、課題を解決することができる。
							大学DPとの関連							
							(1)	(2)	(4)	(4)	(3)	(6)	(5)	(5)
INF202	情報	応用プログラミング	2	選択	2	基礎プログラミングで身につけた知識・技能を前提として、実践と問題解決に必要な技術と概念を身につける。データベースと連携させたWebアプリケーションの開発に必要な技術と概念を身につける。	○	◎	○	○				
INF203	情報	実践プログラミング	2	選択	2	フレームワークを利用したWebアプリケーション開発演習を通じて、実践的なWebアプリケーション開発の基礎と実践的なプログラミング技術を修得する。	○	◎	○	○				
INF204	情報	情報ビジネス論	2	選択	2	AIやIoTを始めとする情報技術について学び、それらを活用した新しいサービスを考える学習を通じて、自分のアイデアを形にする態度と技能を身につける。	○	◎	◎	◎	◎	○		
INF301	情報	情報通信ネットワーク1	2	選択	3	情報通信の仕組みを理解するため、TCP/IPプロトコルスタックとルーティングについて学ぶ。ルータを用いた小規模なネットワーク構築演習を行う。			◎	○	○	○		
INF302	情報	情報通信ネットワーク2	2	選択	3	実用レベルのネットワークについて理解するため、ルーティング、スイッチング、セキュリティの初歩を学ぶ。ルータとスイッチを用いた小規模なネットワーク構築演習を行う。			◎	○	○	○		
INF303	情報	情報システム1	2	選択	3	インターネットの各種サービスを支えるLinux OSの構築と制御について実機演習を通じて学ぶ。			◎	○	○	○		
INF304	情報	情報システム2	2	選択	3	Linuxを用いたセキュアなWebサーバ等の構築とフレームワークを用いたWebシステムの構築について実機演習を通じて学ぶ。			◎	○	○	○		
INF305	情報	アプリケーション開発	2	選択	3	これまでに学んだ情報系の知識・技術を統合し、自身の身の回りに存在する何らかの問題を解決するアプリケーションを開発する。			◎	○	○	○		
INF306	情報	情報セキュリティ	2	選択	3	安全・安心な情報システム開発に求められるセキュリティの知識と実践的な技術を習得するため、暗号・認証や、サイバー攻撃手法、各種セキュリティについて演習を交えて学ぶ。			◎	○	○	○		
EC0101	経済	経済学入門	2	選択	1	経済学の基本的について学ぶ。具体的には機会費用やインセンティブなどを学ぶ。加えて、学んだことを用いて身近なテーマについて考える。	○	◎						
EC0201	経済	ミクロ経済学	2	選択	2	各経済主体の合理的行動を分析し、その行動が市場でどのような結果をもたらすかを学ぶとともに、それを用いて市場の経済分析を学ぶ。	○	◎		○				
EC0202	経済	マクロ経済学	2	選択	2	一国全体の経済を対象として、国全体の所得がどのように決まるかを学ぶ。経済政策の効果についても学ぶ。	○	◎		○				
EC0203	経済	日本経済論	2	選択	2	現代日本の経済事情について学ぶ。日本経済が直面する問題についてディスカッションも行う。	○	◎		○				
EC0301	経済	国際経済学	2	選択	3	国境を超えた経済活動を経済学的に分析し、国際経済の問題についてディスカッションを行う。			◎	○				
HSS101	スポーツ	スポーツ科学概論	2	選択	1	健康・体力づくりから、運動・スポーツにかかわる科学的知識・思考力の基礎を学ぶ。	○	◎						
HSS102	スポーツ	運動生理学	2	選択	1	身近な事例をもとに、スポーツや運動中に生体内で生じる生理的変化や、トレーニング効果について学ぶ。	○	◎						
HSS201	スポーツ	運動動作学	2	選択	2	身近な事例をもとに、スポーツや運動動作にかかわる身体の力学的しくみについて学ぶ。	○	◎						
HSS202	スポーツ	運動心理学	2	選択	2	心理学に関する基礎知識や運動・スポーツ現場における実践例の学習を通して、運動心理学の意義や活用方法を学ぶ。	○	◎						
HSS203	スポーツ	体育原理	2	選択	2	体育やスポーツを原理的観点から学習し、現代体育やスポーツについて理解をする。また、体育科教育を規定する諸問題についても考える。	○	◎						
HSS204	スポーツ	スポーツ栄養学	2	選択	2	健康を維持・増進するための食事や、アスリートの食事など、日常生活やスポーツ現場で活用するための基礎知識と方法を学ぶ。	○	◎						
HSS301	スポーツ	スポーツ社会学	2	選択	3	現代社会におけるスポーツの様々な現象を社会学的視点から捉え、これらの特徴や問題点を探りながら、スポーツの社会的意義について学ぶ。	○	◎						
HSS302	スポーツ	スポーツマネジメント	2	選択	3	スポーツ産業の在り方やプロ・地域スポーツクラブの経営・運営方法について学び、実際にスポーツイベントを企画し、プレゼンテーションを行う。	○	◎		○	○			○
HSS303	スポーツ	コーチング学	2	選択	3	スポーツコーチングに必要な専門的知識を学び、コーチング計画を立案し、プレゼンテーションを行う。	○	◎						
HSS304	スポーツ	学校保健	2	選択	3	学校保健の現状と動向を知り、安全管理に対する知識を身につけ、事故事例を用いて教員としての役割を学ぶ。	○	◎						
EC0302	展開	北陸SDGs基礎	2	選択	3	2015年9月の国連サミットで採択された持続可能な開発目標(SDGs)の内容を理解するとともに、北陸地域における取り組みなどについて学ぶ。授業では、各都市などの取り組みについて主に理論面から学ぶ。	◎	◎		○	○		○	
EC0303	展開	北陸SDGs実践	2	選択	3	2015年9月の国連サミットで採択された持続可能な開発目標(SDGs)の内容を学んだ上で、北陸の地域特性に合わせた取り組みを提言する。	◎	◎		○	○	○	○	○
INF102	展開	情報処理演習	2	選択	1	ITパスポート資格取得を目指しながら、ITを利活用するすべての社会人・学生が備えておくべきITに関する基礎的な知識を身につける。	○	○						
CDS101	展開	地域マネジメント入門	2	選択	1	地方における諸問題(人口減少・少子高齢化など)を題材に、自治体などが実施している政策・施策について学ぶ。	○	◎		○	○			○
CDS201	展開	地域マネジメント総論	2	選択	2	各自治体における課題とそれに対する政策・施策をグループワーク中心で学ぶ。	○	◎		○	○			○
CDS202	展開	地域マネジメント実習	1	選択	2	公的統計の収集・分析、文獻調査、事例分析、フレームワーク分析をグループで実施して、SDGsの目標達成や持続可能な社会の実現のために地域コミュニティを豊かにする方策を検討する。	○	◎		○	○	○	○	○
HSS103	展開	スポーツ実習1(サッカー)	1	選択	1	サッカーの特性を理解し、技能を向上させるとともに、その指導法を習得する。			◎					○
HSS104	展開	スポーツ実習2(バスケットボール)	1	選択	1	バスケットボールの特性を理解し、技能を向上させるとともに、その指導法を習得する。			◎					○
HSS205	展開	スポーツ実習3(体づくり運動・器械)	1	選択	2	体づくり運動、器械運動の特性を理解し、技能を向上させるとともに、その指導法を習得する。			◎					○
HSS206	展開	スポーツ実習4(ベースボール・テニス)	1	選択	2	ベースボール、テニスの特性を理解し、技能を向上させるとともに、その指導法を習得する。			◎					○
HSS207	展開	スポーツ実習5(ダンス)	1	選択	2	ダンスの特性を理解し、技能を向上させるとともに、その指導法を習得する。			◎					○
HSS208	展開	スポーツ実習6(バレー・バドミントン)	1	選択	2	バレーボール・バドミントンの特性を理解し、技能を向上させるとともに、その指導法を習得する。			◎					○

経済経営学部マネジメント学科カリキュラム							経済経営学部マネジメント学科DPとの関連(◎強く関連、○関連)							
ナンバリング	科目群	科目名	単位数	科目区分	配当年次	科目概要	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体性・多様性・協働性			
							(1) 社会の一端として必要となる幅広い知識と技能を備えている。	(2) マネジメント5分野の専門知識と技能を備えている。	(3) 情報を収集・分析し、課題を発見する力を身につけている。	(4) 課題解決に至る道筋を論理的に考える力をつけている。	(5) 課題の背景、解決策及びその効果について行動に伝える力を身につけている。	(6) 自分の考えや判断に基づいて行動し、その結果に責任を持つことができる。	(7) 多様な個の存在を認め、尊重することができる。	(8) 他者と協働し、課題を解決することができる。
							大学DPとの関連							
							(1)	(2)	(4)	(4)	(3)	(6)	(5)	(5)
HSS305	展開	スポーツ実習7(陸上・水泳)	1	選択	3	陸上競技、水泳の特性を理解し、技能を向上させるとともに、その指導法を習得する。		◎						○
HSS306	展開	スポーツ実習8(武道)	1	選択	3	武道(柔道)の特性を理解し、技能を向上させるとともに、その指導法を習得する。		◎						○
ADV101	展開	マネジメント実践講座1	1	選択	1～4	マネジメント科目の各分野における基礎的な知識や考え方を身につけ、当該分野のより深い理解を進めるための発展的な科目となる。		◎	○	○	○			
ADV102	展開	マネジメント実践講座2	1	選択	1～4	マネジメント科目の各分野における基礎的な知識や考え方を深め、当該分野のより深い理解を進めるための発展的な科目となる。		◎	○	○	○			
ADV103	展開	マネジメント実践講座3	1	選択	1～4	マネジメント科目の各分野における応用的な知識や考え方を身につけ、当該分野のより深い理解を進めるための発展的な科目となる。		◎	○	○	○			
ADV104	展開	マネジメント実践講座4	1	選択	1～4	マネジメント科目の各分野における応用的な知識や考え方を深め、当該分野のより深い理解を進めるための発展的な科目となる。		◎	○	○	○			
ADV105	展開	マネジメント実践講座5	2	選択	1～4	マネジメント科目の各分野における発展的な知識や考え方を身につけ、当該分野のより深い理解を進めるための発展的な科目となる。		◎	○	○	○			
ADV106	展開	マネジメント実践講座6	2	選択	1～4	マネジメント科目の各分野における発展的な知識や考え方を深め、当該分野のより深い理解を進めるための発展的な科目となる。		◎	○	○	○			
ADV107	展開	マネジメント実践講座7	2	選択	1～4	マネジメント科目の各分野における応用的分野や展開分野に関する知識を修得し、専門分野に関する理解を深めるための科目となる。		◎	○	○	○			
ADV108	展開	マネジメント実践講座8	2	選択	1～4	マネジメント科目の各分野における応用的分野や先端分野に関する知識を修得し、専門分野に関する理解を深めるための科目となる。		◎	○	○	○			
ZEM101	演習	基礎ゼミナール	4	必修	1	大学生としてのスタディスキルや協働力と知識活用型の言語力トレーニングを身につけるための初年次ゼミである。				○	◎	○	◎	○
ZEM201	演習	専門基礎ゼミナール	4	必修	2	様々な分野のテキストを読解し、レジュメにまとめ、論点を議論し、レポートにまとめる力を身につけるためのゼミである。	○	○	○	○	◎	◎	◎	○
ZEM301	演習	専門ゼミナール	4	必修	3	ゼミ担当教員の専門領域に関する文献を読み、ディスカッションや発表などを行う。フィールドワークを行うクラスもある。専門領域の基礎的な知識と専門分野の思考様式を学ぶ。		◎	○	○	○	◎	◎	◎
ZEM401	演習	卒業研究	6	必修	4	卒業のためには、卒業論文の作成または共同研究の実施のいずれかを必須とする。いずれも発表会を行う。		◎	○	○	○	◎	◎	◎
TTC101	教職	教育学概論	2	自由	1	教育学の基礎的な知識を取り入れながら「学び」の意義を考え自分なりの教育観を構築する。						◎	○	○
TTC102	教職	教職論	2	自由	1	教師という職業に対する見方が変化している今日、教師に求められる資質・能力は何かを多面的・多角的に学ぶ。						◎	○	○
TTC301	教職	教育社会学	2	自由	3	教育と社会の関係性について、社会階級や格差、ナショナリズムなどを通して学ぶ。						◎	○	○
TTC201	教職	教育心理学	2	自由	2	教師として必要となる「発達と学習」「教育評価」「障害児教育」などを含めた心理学的知識について学ぶ。						◎	○	○
TTC202	教職	特別支援教育	1	自由	2	個に重点を置いた学校教育において、一人一人の児童生徒の課題に丁寧に向き合い課題解決に向けて具体的な障害とそれに応じた指導方法等について学ぶ。						◎	○	○
TTC203	教職	教育課程論	2	自由	2	学校教育における教育内容の中心である教育課程の意義や実際について理解するとともに、教育課程をめぐって現代的教育課題について学ぶ。						◎	○	○
TTC302	教職	道徳教育論	2	自由	3	学校における道徳教育の位置づけや「特別の教科道徳」を指導する上での基礎的な知識・理論を修得し、学習指導案作成し授業の進め方を学ぶ。						◎	○	○
TTC303	教職	特別活動と総合的な学習の時間	2	自由	3	特別活動では、ねらいや内容、実施上の課題、指導案の作成等、総合的な学習の時間では、様々な取り組みの事例をもとに、地域や学校にあった活動について学ぶ。						◎	○	○
TTC204	教職	教育方法論 (情報通信技術を活用した教育の理論及び方法)	2	自由	2	情報機器の活用による学習事例やその効果について検討し、情報機器を活用する授業を構想し、そのための教材作成スキルを学ぶ。						◎	○	○
TTC304	教職	生徒・進路指導論	2	自由	3	生徒指導の教育的意義と課題、進路指導の原理と実践について理解を深める。さらに現在学校で実践されているキャリア教育の取組も学ぶ。						◎	○	○
TTC305	教職	教育相談	2	自由	3	教育相談を行うときに求められる対応や必要な理論・技法について概観し、学校現場における教育相談的なかわりや人間観について学ぶ。						◎	○	○
TTC401	教職	教育実習事前事後指導	1	自由	4	事前指導では実習生として教育活動に積極的に取り組む態度を養い、事後指導では実習で得られた成果と課題等を省察することで、教育実習の意義を理解する。						◎	○	○
TTC402	教職	教育実習1	2	自由	4	観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員となるうえでの能力や適性を考える。						◎	○	○
TTC403	教職	教育実習2	2	自由	4	観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員となるうえでの能力や適性を考える。自らの課題を考える。						◎	○	○
TTC404	教職	教職実践演習(中・高)	2	自由	4	教職課程の最終段階において教員として「使命感や責任感」「社会性や対人関係能力」「生徒理解や学級経営」「教科の指導力」など必要な資質・能力が形成されているかをふりかえる。						◎	○	○
TTC306	教職	公民科教育法1	2	自由	3	高等学校の公民科の現代社会・倫理・政治経済の基礎的な内容を学ぶ。				○		◎	○	○
TTC307	教職	公民科教育法2	2	自由	3	高等学校の公民科の現代社会・倫理・政治経済の応用的な内容を学ぶ。				○		◎	○	○
TTC205	教職	保健体育科教育法1	2	自由	2	中学校・高等学校における体育授業の「目標」「内容」「方法」について理解し、指導案の作成方法・実践方法の基礎を学ぶ。			○	○	○	○	○	
TTC206	教職	保健体育科教育法2	2	自由	2	保健体育科教育法1で学んだ内容を踏まえ、球技系科目の指導案を作成し、模擬授業を行う。			○	○	○	○	○	
TTC308	教職	保健体育科教育法3	2	自由	3	保健体育科教育法1で学んだ内容を踏まえ、体づくり運動、器械運動、陸上競技等の指導案を作成し、模擬授業を行う。			○	○	○	○	○	
TTC309	教職	保健体育科教育法4	2	自由	3	中学・高等学校の保健授業の「目標」「内容」「方法」について理解し、指導案の作成方法、実施方法の基礎を学び模擬授業を行う。			○	○	○	○	○	
REM101	リテ'イ7	基礎数学1	2	自由	1	高校までの基礎的な数学を復習するとともに、社会で求められる基礎的な数学力を再構築する。	○			○				
REM102	リテ'イ7	基礎数学2	2	自由	1	高校までの基礎的な数学を復習するとともに、社会で求められる基礎的な数学的スキルを学ぶ。	○			○				

経済経営学部経済学科 カリキュラム・マップ

教育理念									
【経済経営学部】 生涯学び、成長し続けられる人材の養成をとおして、誰もが活躍できる社会の構築と発展に寄与する。 【経済学科】 経済学の視点から多様な価値を見いだす力を身につけた人材の養成をとおして、持続可能な社会の実現を目指す。									
人材養成の目的									
【経済経営学部】 広い知識と視野を持ち、他者と協働して課題を発見・解決することを通して、健康な社会及び健全な組織の実現に貢献できる人材を養成する。 【経済学科】 経済学を中心とした知識と技能を身につけ、現代社会が抱える課題を解決し、新たな価値を創造できる人材を養成する。									
学位授与方針(DP:ディプロマ・ポリシー)									
【大学】 本学は、「自然を愛し、生命を尊び、真理を究める人間の形成」を建学の精神・教育理念とし、大学の使命である「健康社会の実現」のため、グローバルな視点を持ちつつ地域に貢献する人材を育成することを目的としている。本学の各学位プログラムの課程を修了し、以下の資質・能力を備えた者に学位を授与する。 (知識・技能) (1) 健康社会の実現のため、社会の一員としての使命感、責任感、倫理観を持ち、幅広い教養を身につけている。 (2) 専攻する学位プログラムにおける基本的な知識・技能を修得し、現実社会の中で適切に活用できる。 (思考力・判断力・表現力) (3) 知識・技能や他者の意見に基づき、自らの考えを組み立て、効果的なコミュニケーションを通して表現・伝達できる能力を身につけている。 (4) 自分のおかれている状況から課題を発見・分析し、解決方法について客観的・多面的に考察できる能力を身につけている。 (主体性・多様性・協働性) (5) 多様な文化・価値観を持つ他者に対して理解と共感を示し、ともに目標を達成しようとする協働力を身につけている。 (6) 自らを律し、主体的に考え、積極的に行動しようとする態度を身につけている。									
【経済経営学部経済学科】 人材養成の目的に沿って、以下の要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学士(経済学)の学位を授与する。 (知識・技能) (1) 持続可能な社会を実現する一員として必要な幅広い知識と技能を備えている。 (2) 経済学を中心とした専門知識と技能を備えている。 (思考力・判断力・表現力) (3) 新たな視点で課題を見だし、データに基づき分析する力を身につけている。 (4) 物事を多角的に捉え、課題を解決する力を身につけている。 (5) 分析、発見した知見を文章、プレゼンテーションなど、多様なメディアで表現する力を身につけている。 (主体性・多様性・協働性) (6) 自己を理解し、主体的に行動することができる。 (7) 自分と異なる他者を理解し、尊重することができる。 (8) チームで協働し、課題を解決することができる。									

経済経営学部経済学科カリキュラム							経済経営学部経済学科DPとの関連(◎強く関連、○関連)							
ナンバリング	科目群	科目名	単位数	科目区分	配当年次	科目概要	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性・多様性・協働性					
							(1) 持続可能な社会を実現する一員として必要な幅広い知識と技能を備えている。	(2) 経済学を中心とした専門知識と技能を備えている。	(3) 新たな視点で課題を見だし、データに基づき分析する力を身につけている。	(4) 物事を多角的に捉え、課題を解決する力を身につけている。	(5) 分析、発見した知見を文章、プレゼンテーションなど、多様なメディアで表現する力を身につけている。	(6) 自己を理解し、主体的に行動することができる。	(7) 自分と異なる他者を理解し、尊重することができる。	(8) チームで協働し、課題を解決することができる。
							大学DPとの関連							
							(1)	(2)	(4)	(4)	(3)	(6)	(5)	(5)
LIB101	教養	北陸大学の学び	1	必修	1	本学がどのような経緯を経て現在の大学として存在するのか、本学の建学の精神を中心に学ぶ。	◎			○	◎			
LIB201	教養	北陸の文化と社会	2	選択	2	北陸地域の文化や産業の魅力を探り、地域の文化や産業の継承と発展、文化の活用による地域の活性化や地域産業の振興などを学ぶ。	◎			○				
LIB102	教養	SDGs1	2	選択	1	SDGs(持続可能な開発目標)の17の目標について、その概要を学び、今後の専門科目における学習の方向性を定める。	◎			◎	○	○	○	○
LIB103	教養	SDGs2	2	選択	1	SDGs1で学んだことを踏まえ、より深くSDGs達成に向けた方策を学び、課題を整理し解決方法を考える。	◎			○	○	○	○	◎
LIB104	教養	哲学	2	選択	1	現代社会に生じる多様な諸問題に対して円滑に対応できるようにするために、さまざまな哲学者の基本思想を学ぶ。	◎			○				
LIB105	教養	倫理学	2	選択	1	よりよく生きるという人間本来の課題をめぐる、近代の西洋倫理学の流れを概観し、代表的な思想家の考え方を学ぶ。	◎			○				
LIB106	教養	心理学	2	選択	1	心理学の基礎的な知識や理論を学び、心理学における「人間の心」の捉え方や「科学的な人間理解」の考え方を学ぶ。	◎			○				
LIB107	教養	社会学	2	選択	1	社会学の考え方や理論を学ぶとともに、実際の社会学分野の研究成果を知り、社会に対する幅広いものの見方を理解するための科目である。	◎			○				
LIB202	教養	政治学	2	選択	2	政治学の基礎的な用語を理解し、現在、何が政治の課題になっているのかを学ぶ。	◎			○				
LIB203	教養	行政学	2	選択	2	行政組織についての基本的な知識と、行政改革や地方分権の現状や課題を学ぶ。	◎			○				
LIB301	教養	国際政治学	2	選択	3	国際政治の様々な事例や課題について考えを知るとともに、国際政治理論の基本を学ぶ。	◎			○			○	
LIB302	教養	グローバルガバナンス	2	選択	3	国際社会に関する様々な課題を扱い、国際機関、国際法、国際協力などがどのように機能しているかを学ぶ。	◎			○			○	
LIB204	教養	自然科学概論	2	選択	2	自然科学に関する基礎知識を学ぶ。現在、自然の理解はどこまで進んでいるのか、さらに自然から学んだことを人間社会がどのように応用・利用しているかを理解する。	◎			○				
LIB205	教養	ジェンダー論	2	選択	2	ジェンダー(社会的性)と家族、学校、社会とのかわりや、そこで作られ私たちが縛られるジェンダー規範について、ジェンダーを取り巻く諸問題として学ぶ。	◎			○			○	
LIB303	教養	生命科学	2	選択	3	“人体の不思議”について、現在の科学はどこまで解明しているのかを知る。	◎			○				
LIB108	教養	スポーツ1	1	選択	1	スポーツ・運動実践(個人スポーツや集団スポーツ)を通して、体力を増進させ、運動技能の習得と向上を図る。	◎					○	○	○
LIB109	教養	スポーツ2	1	選択	1	科学的理論に基づいたスポーツ・運動実践(個人スポーツや集団スポーツ)を通して、体力を増進させ、運動技能の習得と向上を図る。	◎					○	○	○

経済経営学部経済学科カリキュラム							経済経営学部経済学科DPとの関連 (◎強く関連、○関連)							
ナンバリング	科目群	科目名	単位数	科目区分	配当年次	科目概要	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体性・多様性・協働性			
							(1) 持続可能な社会を実現する一員として必要な幅広い知識と技能を備えている。	(2) 経済学を中心とした専門知識と技能を備えている。	(3) 新たな視点で課題を見いだし、データに基づき分析する力を身につけている。	(4) 物事を多角的に捉え、発見した知見を文章、プレゼンテーションなど、多様なメディアで表現する力を身につけている。	(5) 分析、理解し、主体的に行動することができる。	(6) 自己を異なる他者を理解し、尊重することができる。	(7) 自分と異なる他者を理解し、尊重することができる。	(8) チームで協働し、課題を解決することができる。
							大学DPとの関連							
							(1)	(2)	(4)	(4)	(3)	(6)	(5)	(5)
L1B206	教養	性教育	2	選択	2	学校における人権尊重教育の大きな柱として「いのちの教育」に対する深い造詣を構築する。個人の基本的な人権を尊重する者を養成する。	◎			○			○	
L1B304	教養	救急処置	2	選択	3	プレホスピタルケアの現場で求められる応急処置の考え方と手順の要点について学ぶ。	◎			○				
L1B305	教養	発達発達論	2	選択	3	発達発達や老化における様々な心身の変化について理解を深めるとともに、各段階に応じた運動・トレーニングの方法論や指導論について学ぶ。	◎					○	○	
L1B306	教養	公衆衛生学	2	選択	3	疾病予防、健康増進、環境保健活動、食品衛生、および保健や福祉制度の管理運営に対する知識と、個人や社会の健康保持・増進方法について学ぶ。	◎			○				
LEN101	外国語	英語1	1	必修	1	高校までに学んだ英語の知識を基礎に置きながら、文の基本構造を理解し、考えを単文で表現するために必要な知識・技能について学ぶ。	◎						○	
LEN102	外国語	英語2	1	必修	1	英語でまとまりのある文章を効果的に表現し、身近なトピックについて書かれた英文を正確に読むための技法と、語彙・文法の理解をさらに深める。	◎						○	
LEN201	外国語	実用英語1	1	選択	2	大学生が実生活において必要とされる表現力を身に付け、日常的に英語を「使う」ための実用的なスキルを学ぶ。これに関連付けながらTOEICで求められる知識も扱う。	◎				○		○	
LEN202	外国語	実用英語2	1	選択	2	「実用英語1」で目指した力をさらに発展させ、表現の幅を広げながら実用的な英語力の定着を図る。その指標としてTOEICを活用し、より高いスコアをあげるためのスキルについて学ぶ。	◎				○		○	
LEN301	外国語	実用英語3	1	選択	3	大学生として学ぶ専門領域と関係のあるトピックについて、ジャンルに特化した表現に慣れ親しみ、平易な文章で書かれたテキストを読む。	◎				○		○	
LEN302	外国語	実用英語4	1	選択	3	学内外において様々な人と交わり、英語を用いて論理的に議論を組み立て、抽象的な概念も表現できるようにする。またTOEICを活用し、実社会での英語運用能力を高める。	◎				○		○	
LCN201	外国語	中国語1	1	選択	2	中国語の発音の基礎や基本的な文法と語彙を学ぶ。	◎						○	
LCN202	外国語	中国語2	1	選択	2	中国語1に引き続き中国語の発音や文法を学び、中国語の表現のバリエーションを増やす。	◎						○	
LCN301	外国語	中国語3	1	選択	3	「聞く・話す・読む・書く」の4技能をバランスよく学修する。	◎						○	
LCN302	外国語	中国語4	1	選択	3	「聞く・話す・読む・書く」の4技能をさらに高めるための中級段階の語彙、表現、文法を中心に学ぶ。	◎						○	
LEN303	外国語	English Seminar1	2	選択	3	本科目は、TOEICの対策講座である。基本から見直し、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの技能を身につける。	◎			○	○		○	
LEN304	外国語	English Seminar2	2	選択	3	本科目は、TOEICの対策講座である。リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの技能をいくつかを高める。	◎			○	○		○	
LEN401	外国語	English Seminar3	2	選択	4	本科目は、TOEICの対策講座である。リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの技能を総合的に高める。	◎			○	○		○	
LJP101	留学生特例	日本語1	1	選択	1	大学で使う読解力、聴解力を身につけるために様々なタイプの文章を読み取る練習をおこない、日本語の言葉や表現の理解を深める。	◎						○	
LJP102	留学生特例	日本語2	1	選択	1	様々なタイプの文章を正確に読み取る練習や日本語の言葉や表現の理解を深め、大学で使う読解力、聴解力を身につける。	◎						○	
LJP201	留学生特例	日本語3	1	選択	2	各自の興味に応じた読み物などを選び、それについての発表を行うことにより、日本語を理解する能力を身につける。	◎						○	
LJP202	留学生特例	日本語4	1	選択	2	各自の興味に応じた読み物などを選び、それについての発表を行うことにより、より専門的な内容の日本語を理解する能力を身につける。	◎						○	
LJP301	留学生特例	日本語5	1	選択	3	論理的な思考から自分の考えを表現する能力を身につける。	◎						○	
LJP302	留学生特例	日本語6	1	選択	3	論理的な思考から自分の考えを上手に表現し、伝える能力を身につける。	◎						○	
LJP103	留学生特例	実用日本語1	1	選択	1	日本語の知識、読解能力、聴解能力の向上を目指し、入門的な日本語能力を高める。	◎						○	
LJP104	留学生特例	実用日本語2	1	選択	1	日本語の知識、読解能力、聴解能力の向上を目指し、日常における基礎的な日本語能力を高める。	◎						○	
LJP203	留学生特例	実用日本語3	1	選択	2	日本語の知識、読解能力、聴解能力の向上を目指し、日常における実践的な日本語能力を高める。	◎			○			○	
LJP204	留学生特例	実用日本語4	1	選択	2	日本語の知識、読解能力、聴解能力の向上を目指し、応用的な日本語能力を高める。	◎			○			○	
LJP303	留学生特例	実用日本語5	1	選択	3	日本語の知識、読解能力、聴解能力の向上を目指し、専門的な日本語能力を高める。	◎			○			○	
LJP304	留学生特例	実用日本語6	1	選択	3	日本語の知識、読解能力、聴解能力の向上を目指し、総合的な日本語能力を高める。	◎			○			○	
LJP105	留学生特例	日本事情1	2	選択	1	日本についての情報から、自分なりの日本を発見し、それを伝えることにより日本の理解を深める。	◎						○	
LJP16	留学生特例	日本事情2	2	選択	1	日本について調査し、自分なりの日本を発見し、それを伝えることにより日本の理解を深める。	◎						○	
LJP305	留学生特例	資格日本語1	2	選択	3	日本語能力試験の入門的な出題項目(文字語彙・文法・読解・聴解)を学習する。	◎			○	○		○	
LJP306	留学生特例	資格日本語2	2	選択	3	日本語能力試験の基礎的な出題項目(文字語彙・文法・読解・聴解)を学習する。	◎			○	○		○	
LJP401	留学生特例	資格日本語3	2	選択	4	日本語能力試験の応用的な出題項目(文字語彙・文法・読解・聴解)を学習する。	◎			○	○		○	
LJP402	留学生特例	資格日本語4	2	選択	4	日本語能力試験の総合的な出題項目(文字語彙・文法・読解・聴解)を学習する。	◎			○	○		○	

経済経営学部経済学科カリキュラム							経済経営学部経済学科DPとの関連（◎強く関連、○関連）								
ナンバリング	科目群	科目名	単位数	科目区分	配当年次	科目概要	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体性・多様性・協働性				
							(1) 持続可能な社会を実現する一員として必要な幅広い知識と技能を備えている。	(2) 経済学を中心とした専門知識と技能を備えている。	(3) 新たな視点で課題を見だし、データに基づき分析する力を身につけている。	(4) 物事を多角的に捉え、課題を解決する力を身につけている。	(5) 分析、発見した知見を文章、プレゼンテーションなど、多様なメディアで表現する力を身につけている。	(6) 自己を理解し、主体的に行動することができる。	(7) 自分と異なる他者を理解し、尊重することができる。	(8) チームで協働し、課題を解決することができる。	
							大学DPとの関連								
							(1)	(2)	(4)	(4)	(3)	(6)	(5)	(5)	
PSS101	文章表現	日本語リテラシー1	2	選択	1	自分の考えていることや知っていることが相手に正しく伝わるようにするために、文と語句・段落構成・全体構成を整える技能を身につける文章作成科目である。	○			◎	◎				○
PSS102	文章表現	日本語リテラシー2	2	選択	1	他者の文章などを要約して、論点を見つけることによって、適切に引用して、自己の意見と他者の意見を区別しつつ、自己の意見を小論文形式で作成する技能を身につける科目である。	○			◎	◎				○
PSS201	文章表現	アカデミックライティング1	1	選択	2	他者の文章・図表から自ら論点を見つけて、自ら調査した内容と組み合わせで論じること、他者の意見を批判的に検討した文章を作成する技能を身につける科目である。		○		◎	◎				○
PSS202	文章表現	アカデミックライティング2	1	選択	2	学術的な「問い」に対し、自分で全体構造（アウトライン）を考えた文章を作成できるようにするために、論証に必要な論理的思考を身につける科目である。		○		◎	◎				○
PSS301	文章表現	リサーチプロジェクト1	1	選択	3	信頼できる情報源から情報を収集する方法を把握して、図表などを適切に用いて表現するため技能を用いて文章を作成する科目である。		○		◎	◎				○
PSS302	文章表現	リサーチプロジェクト2	1	選択	3	卒業研究に備えて、研究テーマや学術的な問いの立て方、研究計画書を作成する際に記載すべき事項を学んで、実践していく文章表現科目である。		○		◎	◎				○
INT101	海外研修	海外研修1	1	選択	1～4	海外研修の単位認定を行う。							◎	◎	○
INT102	海外研修	海外研修2	1	選択	1～4	派遣留学及び認定留学の単位認定を行う。							◎	◎	○
INT103	海外研修	海外研修3	2	選択	1～4	派遣留学及び認定留学の単位認定を行う。							◎	◎	○
INT104	海外研修	海外研修4	2	選択	1～4	派遣留学及び認定留学の単位認定を行う。							◎	◎	○
INT105	海外研修	海外研修5	6	選択	1～4	派遣留学及び認定留学の単位認定を行う。							◎	◎	○
INT106	海外研修	海外研修6	6	選択	1～4	派遣留学及び認定留学の単位認定を行う。							◎	◎	○
DA1101	データサイエンス・AI	情報リテラシー	2	必修	1	レポートや論文の作成に必要なアカデミックリテラシーを学ぶ。具体的には、参考文献・引用・データ処理などを学ぶ。	◎			◎	○	○			
DA1102	データサイエンス・AI	プログラミング入門	2	選択	1	コンピュータに対する命令がどのように書かれているかを理解し、基礎的なプログラミングを実行できるようになるため、プログラミングに関する講義・問題演習と簡単なアプリ開発演習を行う。		○		◎	○	○			
DA1103	データサイエンス・AI	AI基礎	2	選択	1	AI（人工知能）・深層学習を始めとする情報技術の概要と仕組み・活用事例を学び、情報技術の進展による社会の変化と個人への影響を理解することを通じて、社会・組織・個人の問題解決のために情報技術を有効かつ安全に活用する能力を身につける。		○		◎	○	○			
DA1104	データサイエンス・AI	データサイエンス1	2	選択	1	データやAI（人工知能）を日常生活や仕事等で使いこなせる基礎的なスキルを身につける。データを可視化し、データから事象を理解できるようになるとともに、データやAIの限界についても学ぶ。	○			◎	○	○			
DA1201	データサイエンス・AI	データサイエンス2	2	選択	2	データサイエンスの基本として、どの分野を学ぶにも必要となる標準的な統計学として、記述統計や入門的な推測統計を学ぶ。実際にデータとデバイス・ソフトを活用して経験的に統計学の概念を学ぶ。		○		◎	○	○			
DA1202	データサイエンス・AI	データサイエンス3	2	選択	2	データサイエンス1および2で学んだ内容を発展させ、多変量解析について中心的に学習する。		○		◎	○	○			
DA1301	データサイエンス・AI	データサイエンス4	2	選択	3	人工知能に関する正しい知識を学び、機械学習の実装方法の一端を体得することを目的とする。機械学習の基礎的な概念と理論を学び、機械学習を応用するために必要な知識の習得を目指す。		○		◎	○	○			
DA1203	データサイエンス・AI	社会調査法	2	選択	2	さまざまな調査を行う際の企画の立て方、データの収集方法およびその取り扱い方など社会調査を行う上で必須となる知識・技能を学習する。また、簡単なサンプリングや質問文の作成などのワークを通じて、調査の設計における注意事項などを学習する。		○		◎	○	○			
DA1204	データサイエンス・AI	データサイエンスのための数学	2	選択	2	データサイエンスに必要な数学として、線形代数・微分積分・確率論・統計学の4領域を学習する。		○		◎					
DA1302	データサイエンス・AI	データベース	2	選択	3	データベースを構築・操作する実践演習を通じて、データベースの仕組みを理解し、データベースの設計と運用管理手法を学ぶ。		○		◎					
DA1303	データサイエンス・AI	データエンジニアリング	2	選択	3	データの取得の方法から、実際に機械学習に利用できるようにデータを整形する各種の前処理手法について学ぶ。		○		◎	○				
CAE101	リーダーシップ・キャリア形成	キャリアデザイン1	1	選択	1	基礎ゼミナールと連動し、毎週45分で開講されるリフレクション科目となる。自己の経験をふりかえり、他者に伝える。社会人による講座も実施する。	○						◎		
CAE102	リーダーシップ・キャリア形成	キャリアデザイン2	1	選択	1	基礎ゼミナールと連動し、毎週45分で開講されるリフレクション科目となる。自己の経験をふりかえり他者に効果的に伝える。社会人による講座も実施する。	○						◎		
CAE103	リーダーシップ・キャリア形成	リーダーシップ入門	1	選択	1	目標達成に向けて組織を率い導く資質能力であるリーダーシップの概念と理論の変遷について学び、企業・組織のマネジメントのあり方と関連して今後求められるリーダーシップについて自分の意見を確立する。	○						◎	◎	○
CAE104	リーダーシップ・キャリア形成	ファシリテーション論	2	選択	1	チーム活動やグループ学習、ディスカッション等において、グループを活性化させるためのチームビルディングやファシリテーションの手法や考え方を、主に実践を通じて身につける。							◎	◎	○
CAE201	リーダーシップ・キャリア形成	アントレプレナーシップ論	1	選択	2	起業家による体験談の講演、デザイン思考等の思考法やフレームワークに関する講義・演習、ビジネスプランの作成とそれに基づく仮説検証や顧客ヒアリング等の機会を通じて、アントレプレナーシップの精神を身につける。							◎	○	○
CAE202	リーダーシップ・キャリア形成	キャリア形成論	1	選択	2	自分の生き方について考え、主体的にキャリアを形成するために必要な知識と考え方について学ぶ。キャリア形成の基盤となる能力と態度を身につけ、在学時のみならず生涯に亘って自律的にそれを実践できるようになることを目指す。	○					◎	○		
CAE301	リーダーシップ・キャリア形成	インターンシップ	2	選択	3	インターンシップに関する事前研修をうけ、インターンシップに参加することで職業体験を行う。事後研修も実施する。	○						◎		

経済経営学部経済学科カリキュラム							経済経営学部経済学科DPとの関連 (◎強く関連、○関連)									
ナン バ リ ン グ	科 目 群	科目名	単 位 数	科 目 区 分	配 当 年 次	科目 概要	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体性・多様性・協働性					
							(1) 持続可能な社会を実現する一員として必要な幅広い知識と技能を備えている。	(2) 経済学を中心とした専門知識と技能を備えている。	(3) 新たな視点で課題を見だし、データに基づき分析する力を身につけている。	(4) 物事を多角的に捉え、課題を解決する力を身につけている。	(5) 分析、発見した知見を文章、プレゼンテーションなど、多様なメディアで表現する力を身につけている。	(6) 自己を理解し、主体的に行動することができる。	(7) 自分と異なる他者を理解し、尊重することができる。	(8) チームで協働し、課題を解決することができる。		
大学DPとの関連								(1)	(2)	(4)	(4)	(3)	(6)	(5)	(5)	
CAE302	リダーシップ・キャリア形成	キャリアプランニング	2	選択	3	インターンシップにおける活動の振り返りをグループで行うこと等を通じて、自分のキャリアを自律的にデザインできるようになることを目指す。	○					◎	○			
EC0101	経済基幹	経済学入門	2	必修	1	経済学の基礎について学ぶ。具体的には機会費用やインセンティブなどを学ぶ。加えて、学んだことを用いて身近なテーマについて考える。	○	◎								
MAN101	経済基幹	経営学入門	2	選択	1	経営学領域の学びの導入として組織内部と外部のマネジメントと、幅広く基礎的な論点を学習する。	◎	○								
ACC101	経済基幹	会計学入門	2	選択	1	会計学の基礎的な考え方の理解を目的とし、会計の目的、会計の利用(財務会計・管理会計)や、複式簿記のしくみについて学ぶ。	◎	○								
EC0102	経済基幹	ミクロ経済学1	2	必修	1	個別主体の合理的意思決定、市場理論、そして市場理論をめぐる様々な議論について学習する。これらは経済学の基本であり、様々な応用分野を学ぶ時にも必要になる。	○	◎		○						
EC0201	経済基幹	ミクロ経済学2	2	必修	2	ミクロ経済学の基本的なトピックについて扱ったミクロ経済学1に対して、ミクロ経済学2はトピックを厳選してそれぞれ掘り下げて学修する。	○	◎		○						
EC0103	経済基幹	マクロ経済学1	2	必修	1	国内総生産(GDP)を中心に学修する。GDPがどのような要因によって決定され、それらの変化に対して家計、企業、政府、他国がどのように関係しているのかを理解する。	○	◎		○						
EC0202	経済基幹	マクロ経済学2	2	必修	2	マクロ経済学1で身に付けた知識を基礎として、政府が実施する財政政策や金融政策がどのようにGDPに影響するのかを理解する。	○	◎		○						
EC0104	経済基幹	経済数学	2	選択	1	経済学や経営学を学ぶ上で必要になる数学を学ぶことを目的とする。	○	◎		○						
EC0203	経済基幹	経済統計	2	選択	2	経済を客観的に把握するために作成されている国内総生産(GDP)などの経済統計を学ぶ。学んだ統計を利用して日本経済の現状についてマクロ面を中心に分析できるようにする。	○	◎	◎							
EC0301	経済基幹	計量経済学	2	選択	3	統計用ソフトなどを利用した実践・実習の前段階にあたる科目であり、計量経済学の理論的背景を中心に学修する。		◎	◎	○						
EC0302	経済基幹	経済データ分析	2	選択	3	計量経済学で学んだ理論的知識をベースに公表されているデータや学生が収集してきたデータをもとに実践的に経済を学ぶ科目である。		◎	◎		○					
EC0204	経済基幹	経済の思想と哲学	2	選択	2	インセンティブ、均衡、効用や便益、限界費用といった代表的な専門用語などを取り上げ、その背景にある経済学の発想や思想を学修する。	○	◎								
EC0205	経済基幹	ゲーム理論	2	選択	2	ゲーム理論の入門、標準形ゲームとナッシュ均衡に始まり、展開形ゲームとサブゲームナッシュ均衡について学修する。さらに不完全情報ゲーム、不完備情報ゲームの基本理論を学ぶ。		◎		○						
EC0206	経済基幹	日本経済論	2	選択	2	現代日本の経済事情について学ぶ。日本経済が直面する問題についてディスカッションも行う。	○	◎		○						
EC0105	経済専門	金融リテラシー	2	選択	1	100年時代の人生を生き抜くために欠かせない、お金にかかる教養を身につける。	○	◎		○						
EC0207	経済専門	金融論	2	選択	2	金融リテラシーで学修した内容を活かしながら、金融取引・市場、金融機関の機能、金融商品、現在価値、債券市場、株式市場、外国為替市場、デリバティブ取引などについて学修する。	○	◎		○						
EC0208	経済専門	ファイナンシャルプランニング	2	選択	2	ファイナンシャル・プランニング(FP)技能検定試験3級レベルの、ライフプランニング力を培う。		◎		○						
EC0303	経済専門	国際金融論	2	選択	3	外国為替市場・相場にかかる基本知識と、国際収支表の見方とを修得する。		◎		○						
EC0304	経済専門	コーポレートファイナンス	2	選択	3	「金融論」で修得した知識をベースに、プロジェクトやM&Aの投資評価や配当政策など企業の財務戦略立案にかかる基本知識・技術を修得する。		◎		○						
EC0209	経済専門	財政学	2	選択	2	政府(中央政府および地方自治体)の経済活動を観察し、財源や歳出項目に関して幅広い知識を身に付けることを主眼とした科目である。		◎		○						
EC0305	経済専門	公共経済学	2	選択	3	ミクロ経済学で学んだ市場経済の利点と市場の失敗について理解したうえで政府(中央政府および地方自治体)の公共財供給の理論を中心的に学ぶ。		◎		○						
EC0306	経済専門	行動経済学	2	選択	3	行動経済学としてのテキストでも取り上げられる題材を学修する。具体的には、ヒューリスティクス、時間選好率の問題、リスク選好とプロスペクト理論、社会的選好、ナッジ理論などを学ぶ。		◎		○						
EC0210	経済専門	経済政策	2	選択	2	政府や中央銀行の政策とそれが伝わるメカニズムを学ぶことで、政策が適切かどうか、自分で評価できる力を身につけることを目的とする。		◎		○						
EC0307	経済専門	社会保障論	2	選択	3	少子高齢化が進展する日本において持続可能な社会を実現するために今後どのような制度設計が必要かを中心的に学ぶ。	○	◎		○						
EC0211	経済専門	労働経済学	2	選択	2	家計の最適化行動から導かれる労働供給と、企業の最適化行動から導かれる労働需要について学修する。これらを組み合わせて労働市場を分析する。ジェンダーギャップや日本の労働市場に特有の問題についても取り扱う。		◎		○						
EC0308	経済専門	教育経済学	2	選択	3	教育に関連した課題を経済学によって分析する。具体的には、人的資本モデル、シグナリングモデル、教育投資の収益、教育生産関数、地域の公教育のファイナンス、学校選択モデル、高等教育の市場分析などを学ぶ。		◎		○						
MAN201	経済専門	マーケティング論	2	選択	2	企業の対市場活動を理解するために、製品、価格、プロモーション、流通の視点から、具体的なケースとあわせて、背後にある理論やロジックを学ぶ。	○	○		◎						
MAN304	経済専門	イノベーション論	2	選択	3	企業が成長、競争する上で重要なイノベーションに関する基本的な理論・知識を習得する。イノベーションとは何か、イノベーションの発生・普及過程を整理するとともに、大企業がジレンマに陥る原因等を考察する。	○	○		◎						
EC0309	経済専門	都市・地域経済論	2	選択	3	SDGsの目標達成のために、都市や地域がどのような政策を立案・実行すれば活性化につながるかを学修する。		◎		○						
EC0310	経済専門	医療経済論	2	選択	3	日本の医療制度を国際比較しながら分析する。医療分野で問題となっている様々なトピックについて経済学の枠組みを用いて考察、対応策を提案する。		◎		○						
EC0212	経済専門	資源・エネルギー論	2	選択	2	日本や世界の資源やエネルギーの現状を整理し、持続可能な成長のために必要な政策等について学ぶ。	○	◎		○						
EC0213	経済専門	国際経済学	2	選択	2	国境を超えた経済活動を経済学的に分析し、国際経済の問題についてディスカッションを行う。		◎		○						

経済経営学部経済学科カリキュラム							経済経営学部経済学科DPとの関連（◎強く関連、○関連）							
ナン バ リ ン グ	科 目 群	科 目 名	単 位 数	科 目 区 分	配 当 年 次	科 目 概 要	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体性・多様性・協働性			
							(1) 持続可能な社会を実現する一員として必要な幅広い知識と技能を備えている。	(2) 経済学を中心とした専門知識と技能を備えている。	(3) 新たな視点で課題を見だし、データに基づき分析する力を身につけている。	(4) 物事を多角的に捉え、課題を解決する力を身につけている。	(5) 分析、発見した知見を文章、プレゼンテーションなど、多様なメディアで表現する力を身につけている。	(6) 自己を理解し、主体的に行動することができる。	(7) 自分と異なる他者を理解し、尊重することができる。	(8) チームで協働し、課題を解決することができる。
							大学DPとの関連							
							(1)	(2)	(4)	(4)	(3)	(6)	(5)	(5)
EC0311	経済専門	環境経済学	2	選択	3	環境問題が発生するメカニズムなどを経済学の枠組みを用いて解明する。その上で、環境負荷を軽減するためにどのような手法があるのか、環境税や排出権取引など具体的な事例を学修する。	○	◎		○				
EC0312	経済専門	開発経済学	2	選択	3	発展途上国の貧困や経済格差といった問題に着目し、その解決方法について考える。	○	◎		○				
EC0313	経済専門	グローバル経済論	2	選択	3	経済学の枠組みを用いながら、貿易の基本構造や労働・資本の国際間移動について理解すると同時に、貿易政策や国際経済システムについて学ぶ。	○	◎		○				
EC0314	経済専門	北陸SDGs基礎	2	選択	3	2015年9月の国連サミットで採択された持続可能な開発目標（SDGs）の内容を理解するとともに、北陸地域における取り組みなどについて学ぶ。授業では、各都市などの取り組みについて主に理論面から学ぶ。	◎	◎		○	○		○	
EC0315	経済専門	北陸SDGs実践	2	選択	3	2015年9月の国連サミットで採択された持続可能な開発目標（SDGs）の内容を学んだ上で、北陸の地域特性に合わせた取り組みを提案する。	◎	◎		○	○	○	○	○
ACC102	展開	簿記論	2	選択	1	日商簿記検定3級が認定する商業簿記の一連の流れを理解し、仕訳や決算手帳などに関する基礎的な知識と技術を網羅的に学ぶ。	○	◎						
ACC201	展開	財務会計論	2	選択	2	財務会計の基礎的な知識を習得し、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の内容と関係性を理解する。そして、それら財務諸表の分析手法を学ぶ。	○	◎						
MAN202	展開	人的資源管理論	2	選択	2	企業の重要な経営資源であるヒト、モノ、カネ、情報。この中で「ヒト」に焦点をあて、人材をどのように育成すればいいのか、どうすれば組織のパフォーマンスが上がるのか等について、賃金体系や昇進システムなども含めて考察する。	○	◎						
LAW101	展開	法学入門	2	選択	1	「法的思考力」を身につけるために、法学の基本的知識を学ぶ。	○	◎		○	○			
LAW102	展開	民法1	2	選択	1	民法総則および「人」と人の関係」のうちの「家族関係」上の具体的な問題（子の権利、夫婦関係、親子関係、相続など）を中心に学ぶ。	○	◎		○	○			
LAW201	展開	民法2	2	選択	2	「人」と人の関係」を支える契約や不法行為などを中心に学ぶ。	○	◎		○	○			
LAW202	展開	日本国憲法	2	選択	2	国会・内閣・裁判所の憲法上の位置づけと、立憲主義（人権を尊重し、国家権力を制限すること）を学ぶ。	○	◎		○	○			
LAW301	展開	企業法	2	選択	3	会社制度の法的枠組みと会社統治の仕組み、会社の資金調達について学ぶ。	○	◎		○	○			
CDS101	展開	地域マネジメント入門	2	選択	1	地方における諸問題（人口減少・少子高齢化など）を題材に、自治体などが実施している政策・施策について学ぶ。	○	◎		○	○			○
CDS201	展開	地域マネジメント総論	2	選択	2	各自治体における課題とそれに対する政策・施策をグループワーク中心で学ぶ。	○	◎		○	○			○
CDS202	展開	地域マネジメント実習	1	選択	2	公的統計の収集・分析、文献調査、事例分析、フレームワーク分析をグループで実施して、SDGsの目標達成や持続可能な社会の実現のために地域コミュニティを豊かにする方策を検討する。	○	◎		○	○	○	○	○
INF201	展開	基礎プログラミング	2	選択	2	基礎的なプログラムを自分で作成できる技能を身につけた上で、効率よく問題を解決するために必要なデータ構造とアルゴリズムの基礎について理解する。	○	◎	○	○				
INF202	展開	応用プログラミング	2	選択	2	基礎プログラミングで身につけた知識・技能を前提として、実践と問題解決に必要な技術と概念を身につける。データベースと連携させたWebアプリケーションの開発に必要な技術と概念を身につける。	○	◎	○	○				
INF203	展開	実践プログラミング	2	選択	2	フレームワークを利用したWebアプリケーション開発演習を通じて、実践的なWebアプリケーション開発の基礎と実践的なプログラミング技術を修得する	○	◎	○	○				
HSS101	展開	スポーツ科学概論	2	選択	1	健康・体力づくりから、運動・スポーツにかかわる科学的知識・思考力の基礎を学ぶ。	○	◎						
HSS301	展開	コーチング学	2	選択	3	スポーツコーチングに必要な専門的知識を学び、コーチング計画を立案し、プレゼンテーションを行う。	○	◎						
HSS302	展開	スポーツ社会学	2	選択	3	現代社会におけるスポーツの様々な現象を社会学的視点から捉え、これらの特徴や問題点を探りながら、スポーツの社会的意義について学ぶ。	○	◎						
HSS303	展開	スポーツマネジメント	2	選択	3	スポーツ産業の在り方やプロ・地域スポーツクラブの経営・運営方法について学び、実際にスポーツイベントを企画し、プレゼンテーションを行う。	○	◎		○	○			○
ZEM101	演習	基礎ゼミナール	4	必修	1	大学生としてのスタディスキルや協働力と知識活用型の言語リテラシーを身につけるための初年次ゼミである。				○	◎	○	◎	○
ZEM201	演習	専門基礎ゼミナール	4	必修	2	様々な分野のテキストを読解し、レジュメにまとめ、論点を議論し、レポートにまとめる力を身につけるためのゼミである。	○	○	○	○	◎	◎	◎	○
ZEM301	演習	専門ゼミナール	4	必修	3	ゼミ担当教員の専門領域に関する文献を読み、ディスカッションや発表などを行う。フィールドワークを行うクラスもある。専門領域の基礎的な知識と専門分野の思考様式を学ぶ。		◎	○	○	◎	◎	◎	◎
ZEM401	演習	卒業研究	6	必修	4	卒業のためには、卒業論文の作成または共同研究の実施のいずれかを必須とする。いずれも発表会を行う。		◎	○	○	○	◎	◎	◎
TTC101	教職	教育学概論	2	自由	1	教育学の基礎的な知識を取り入れながら「学び」の意義を考え自分なりの教育観を構築する。						◎	○	○
TTC102	教職	教職論	2	自由	1	教師という職業に対する見方が変化している今日、教師に求められる資質・能力は何かを多面的・多角的に学ぶ。						◎	○	○
TTC301	教職	教育社会学	2	自由	3	教育と社会の関係性について、社会階級や格差、ナショナリズムなどを通して学ぶ。						◎	○	○
TTC201	教職	教育心理学	2	自由	2	教師として必要となる「発達と学習」「教育評価」「障害児教育」などを含めた心理学的知識について学ぶ。						◎	○	○
TTC202	教職	特別支援教育	1	自由	2	個に重点を置いた学校教育において、一人一人の児童生徒の課題に丁寧に向き合い課題解決に向けて具体的な障害とそれに応じた指導方法等について学ぶ。						◎	○	○
TTC203	教職	教育課程論	2	自由	2	学校教育における教育内容の中心である教育課程の意義や実際について理解するとともに、教育課程をめぐる現代的な教育課題について学ぶ。						◎	○	○

経済経営学部経済学科カリキュラム							経済経営学部経済学科DPとの関連(◎強く関連、○関連)							
ナンバリング	科目群	科目名	単位数	科目区分	配当年次	科目概要	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体性・多様性・協働性			
							(1) 持続可能な社会を実現する一員として必要な幅広い知識と技能を備えている。	(2) 経済学を中心とした専門知識と技能を備えている。	(3) 新たな視点で課題を見だし、データに基づき分析する力を身につけている。	(4) 物事を多角的に捉え、課題を解決する力を身につけている。	(5) 分析、発見した知見を文章、プレゼンテーションなど、多様なメディアで表現する力を身につけている。	(6) 自己を理解し、主体的に行動することができる。	(7) 自分と異なる他者を理解し、尊重することができる。	(8) チームで協働し、課題を解決することができる。
							大学DPとの関連							
							(1)	(2)	(4)	(4)	(3)	(6)	(5)	(5)
TTC302	教職	道徳教育論	2	自由	3	学校における道徳教育の位置づけや「特別の教科道徳」を指導する上での基礎的な知識・理論を修得し、学習指導案作成し授業の進め方等を学ぶ。						◎	○	○
TTC303	教職	特別活動と総合的な学習の時間	2	自由	3	特別活動では、ねらいや内容、実施上の課題、指導案の作成等、総合的な学習の時間では、様々な取り組みの事例をもとに、地域や学校にあった活動について学ぶ。						◎	○	○
TTC204	教職	教育方法論 (情報通信技術を活用した教育の理論及び方法)	2	自由	2	情報機器の活用による学習事例やその効果について検討し、情報機器を活用する授業を構想し、そのための教材作成スキルを学ぶ。						◎	○	○
TTC304	教職	生徒・進路指導論	2	自由	3	生徒指導の教育的意義と課題、進路指導の原理と実践について理解を深める。さらに現在学校で実践されているキャリア教育の取組も学ぶ。						◎	○	○
TTC305	教職	教育相談	2	自由	3	教育相談を行うときに求められる対応や必要な理論・技法について概観し、学校現場における教育相談的なかわりや人間観について学ぶ。						◎	○	○
TTC401	教職	教育実習事前事後指導	1	自由	4	事前指導では実習生として教育活動に積極的に取り組む態度を養い、事後指導では実習で得られた成果と課題等を省察することで、教育実習の意義を理解する。						◎	○	○
TTC402	教職	教育実習1	2	自由	4	観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通じて、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員となるうえでの能力や適性を考える。						◎	○	○
TTC403	教職	教育実習2	2	自由	4	観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通じて、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員となるうえでの能力や適性を考え、自らの課題を考える。						◎	○	○
TTC404	教職	教職実践演習(中・高)	2	自由	4	教職課程の最終段階において教員として「使命感や責任感」「社会性や対人関係能力」「生徒理解や学級経営」「教科の指導力」など必要な資質・能力が形成されているかをふりかえる。						◎	○	○
TTC306	教職	公民科教育法1	2	自由	3	高等学校の公民科の現代社会・倫理・政治経済の基礎的な内容を学ぶ。				○		◎	○	○
TTC307	教職	公民科教育法2	2	自由	3	高等学校の公民科の現代社会・倫理・政治経済の応用的な内容を学ぶ。				○		◎	○	○
REM101	リテ'イ7L	基礎数学1	2	自由	1	高校までの基礎的な数学を復習するとともに、社会で求められる基礎的な数学力を再構築する。	○			○				
REM102	リテ'イ7L	基礎数学2	2	自由	1	高校までの基礎的な数学を復習するとともに、社会で求められる基礎的な数学的スキルを学ぶ。	○			○				

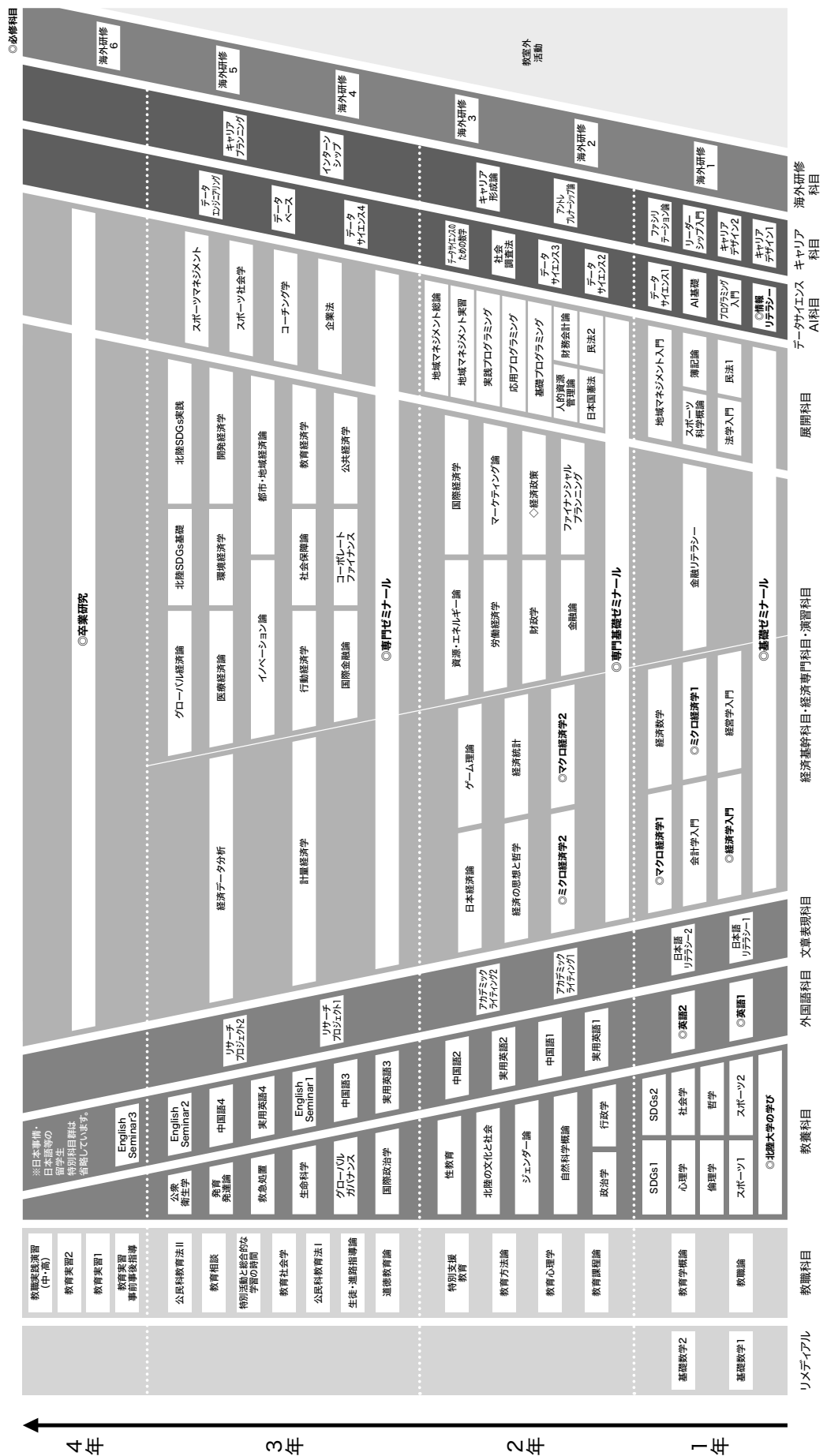
卒業までに身につけるべき知識や能力を得るため、各授業科目がどのように配置され、関連性があるかを示す。

自由科目群	一般教育科目群	専門教育科目群	一般教育科目群	教室外学修科目群
-------	---------	---------	---------	----------

経済学部経済学
カリキュラム・ツリー

卒業までに身につけるべき知識や能力を得るため、各授業科目がどのように配置され、関連性があるかを示す。

(知識・技能)	(思考力・判断力・表現力)	(主体性・多様性・協働性)
①持続可能な社会を実現する一員として必要な幅広い知識と技能を備えている。	③新たな視点で課題を見いだし、データに基づき分析する力に身をつけている。	⑥自己を理解し、主体的に行動することができる。
②経済学を中心とした専門知識と技能を備えている。	④物事を多角的に捉え、課題を解決する力に身をつけている。	⑦自分と異なる他者を理解し、尊重することができるとができる。
①持続可能な社会を実現する一員として必要な幅広い知識と技能を備えている。	⑤分析、発見した知見を文章、プレゼンテーション、メディアで表現する力を身につけている。	⑧チームで協働し、課題を解決することができる。



自由科目群	一般教育科目群	專門教育科目群	一般教育科目群	教室外學修
-------	---------	---------	---------	-------

経済経営学部マネジメント学科開講表

【備考】1. ◎：必修科目
2. ◇：履修指定科目
3. *：教職必修科目
※：教職選択科目
4. ■：教職(公民)必修科目
□：教職(公民)選択科目
5. ●：教職(保健体育)必修科目
○：教職(保健体育)選択科目

		1年前期		1年後期		2年前期		2年後期		3年前期		3年後期		4年前期		4年後期		要卒単位			
		必修(◎)・指定(◇)	選択	必修(◎)・指定(◇)	選択	必修(◎)・指定(◇)	選択	必修(◎)・指定(◇)	選択	必修(◎)・指定(◇)	選択	必修(◎)・指定(◇)	選択	必修(◎)・指定(◇)	選択	必修(◎)・指定(◇)	選択				
一般 教育 科目 群	教養科目	◎北陸大学の学び(1)	※スポーツ1(1) □倫理学(2) □心理学(2) SDGs1(2)		※スポーツ2(1) □哲学(2) ■社会学(2) SDGs2(2)		■政治学(2) ●性教育(2) 北陸の文化と社会(2)		□行政学(2) 自然科学概論(2) ジェンダー論(2)		○生命科学(2) ■国際政治学(2) ○発育発達論(2)		■グローバルガバナンス(2) ●救急処置(2) ●公衆衛生学(2)								
	外国語科目	◎＊英語 1(1)		◎＊英語2(1)		実用英語1(1) 中国語1(1)		実用英語2(1) 中国語2(1)		実用英語3(1) 中国語3(1) English Seminar 1(2)		実用英語4(1) 中国語4(1) English Seminar 2(2)		English Seminar 3(2)				4単位	22単位		
	留学生特例科目		日本語1(1) 実用日本語1(1) 日本事情1(2)		日本語2(1) 実用日本語2(1) 日本事情2(2)		日本語3(1) 実用日本語3(1)		日本語4(1) 実用日本語4(1)		日本語5(1) 実用日本語5(1) 資格日本語1(2)		日本語6(1) 実用日本語6(1) 資格日本語2(2)		資格日本語3(2)		資格日本語4(2)				
	文章表現科目	◇日本語リテラシー1(2)		◇日本語リテラシー2(2)		◇アカデミックライティング1(1)		◇アカデミックライティング2(1)			リサーチプロジェクト1(1)		リサーチプロジェクト2(1)								
	海外研修科目	海外研修1(1) 海外研修2(1) 海外研修3(2) 海外研修4(2) 海外研修5(6) 海外研修6(6)																			
専門 教育 科目 群	データサイエンス・AI科目	◎情報リテラシー (2)	プログラミング入門(2)	◇AI基礎(2) ◇データサイエンス1(2)		◇データサイエンス2(2) ◇社会調査法(2)			データサイエンス3(2) データサイエンスのための数学(2)		データサイエンス4(2) データベース(2)		データエンジニアリング(2)								
	リーダーシップ・キャリア形成科目	◇キャリアデザイン1(1)	リーダーシップ入門(1)	◇キャリアデザイン2(1)	ファシリテーション論(2)		アントレプレナーシップ論(1)		キャリア形成論(1)	◇インターンシップ〔通年〕(2)		◇キャリアプランニング(2)									
	専門科目	経営分野	◎経営学入門(2)		◇経営戦略論(2)	マーケティング論(2)		消費者行動論(2) 経営組織論(2)	人的資源管理論(2) 広告論(2)		マーケットリサーチ論(2) イノベーション論(2) 経営史(2)		中小企業論(2) 経営分析論(2) マーケティング・サイエンス(2)								
		法学分野	◎■法学入門(2)			□民法1(2)	◇日本国憲法(2)	□民法2(2)	□民法3(2) ■刑法(2)		行政法(2) 企業法(2)		知的財産権法(2) 労働法(2)								
		会計分野	◎会计学入門(2)		◇簿記論1(2)	会计学原論(2)		簿記論2(2) 工業簿記論(2)	簿記論3(2) 原価計算論(2) 財務会計論(2)		税務会計論(2) 管理会計論(2)		監査論(2) 会計情報論(2)								
		情報分野				情報社会論(2)		基礎プログラミング(2)	応用プログラミング(2) 実践プログラミング(2) 情報ビジネス論(2)		情報通信ネットワーク1(2) 情報システム1(2) アプリケーション開発(2)		情報通信ネットワーク2(2) 情報システム2(2) 情報セキュリティ(2)								
		経済分野			◇経済学入門(2)			■ミクロ経済学(2) ■マクロ経済学(2)	日本経済論(2)				■国際経済学(2)								
		スポーツ分野	◇※スポーツ科学概論(2)			●運動生理学(2)		●運動動作学(2) ●体育原理(2)	●スポーツ栄養学(2) ●運動心理学(2)		●コーチング学(2) ●スポーツ社会学(2)		●学校保健(2) ●スポーツマネジメント(2)								
	展開科目		●スポーツ実習1 (サッカー)(1)		●スポーツ実習2 (バスケットボール)(1) 情報処理演習(2) 地域マネジメント入門 (2)		●スポーツ実習3 (休つくり運動・器械)(1) ●スポーツ実習4 (バースボール・テニス)(1) 地域マネジメント実習(1)	●スポーツ実習5 (ダンス)(1) ●スポーツ実習6 (ハレー・バドミントン)(1) 地域マネジメント総論 (2)		●スポーツ実習7 (陸上・水泳)(1) 北陸SDGs基礎(2)		●スポーツ実習8(武道)(1) 北陸SDGs実践(2)									
		マネジメント実践講座1(1) マネジメント実践講座2(1) マネジメント実践講座3(1) マネジメント実践講座4(1) マネジメント実践講座5(2) マネジメント実践講座6(2) マネジメント実践講座7(2) マネジメント実践講座8(2)																			
演習科目		◎基礎ゼミナール(4)				◎専門基礎ゼミナール(4)				◎専門ゼミナール(4)				◎卒業研究(6)				18単位			
自由 科目 群	教職科目				*教育学概論(2) *教職論(2)		*教育心理学(2) *教育方法論(情報通信技術を活用した教育の理論及び方法)(2) *特別支援教育(1) ●保健体育科教育法1(2)		*教育課程論(2) ●保健体育科教育法2(2)		*道徳教育論(2) *教育社会学(2) *生徒・進路指導論(2) ●保健体育科教育法3(2) ■公民科教育法1(2)		*特別活動と総合的な学習の時間(2) *教育相談(2) ●保健体育科教育法4(2) ■公民科教育法1(2)	*教育実習事前事後指導〔通年〕(1) *教育実習1〔通年〕(2) 教育実習2〔通年〕(2) *教職実践演習(中・高)(2)						卒業要件に含まず	
	リメディアル科目		基礎数学1(2)		基礎数学2(2)																

		1年前期		1年後期		2年前期		2年後期		3年前期		3年後期		4年前期		4年後期		要卒単位		
		必修(◎)・指定(◇)	選択	必修(◎)・指定(◇)	選択	必修(◎)・指定(◇)	選択	必修(◎)・指定(◇)	選択	必修(◎)・指定(◇)	選択	必修(◎)・指定(◇)	選択	必修(◎)・指定(◇)	選択	必修(◎)・指定(◇)	選択			
一般教育科目群	教養科目	◎北陸大学の学び(1) ◇SDGs1(2)	※スポーツ1(1) □倫理学(2) □心理学(2)	◇SDGs2(2)	※スポーツ2(1) □哲学(2) ■社会学(2)		■政治学(2) 性教育(2) 北陸の文化と社会(2)		□行政学(2) 自然科学概論(2) ジェンダー論(2)		生命科学(2) ■国際政治学(2) 発育発達論(2)		■グローバルガバナンス(2) 救急処置(2) 公衆衛生学(2)							
	外国語科目	◎＊英語 1(1)		◎＊英語 2(1)			実用英語1(1) 中国語1(1)		実用英語2(1) 中国語2(1)		実用英語3(1) 中国語3(1) English Seminar 1(2)		実用英語4(1) 中国語4(1) English Seminar 2(2)		English Seminar 3(2)			4単位	22単位	
	留学生特例科目		日本語1(1) 実用日本語1(1) 日本事情1(2)		日本語2(1) 実用日本語2(1) 日本事情2(2)		日本語3(1) 実用日本語3(1)		日本語4(1) 実用日本語4(1)		日本語5(1) 実用日本語5(1) 資格日本語1(2)		日本語6(1) 実用日本語6(1) 資格日本語2(2)		資格日本語3(2)		資格日本語4(2)			
	文章表現科目	◇日本語リテラシー1(2)		◇日本語リテラシー2(2)		◇アカデミックライティング1(1)		◇アカデミックライティング2(1)			リサーチプロジェクト1(1)		リサーチプロジェクト2(1)							
	海外研修科目	海外研修1(1) 海外研修2(1) 海外研修3(2) 海外研修4(2) 海外研修5(6) 海外研修6(6)																		
専門教育科目群	データサイエンス・AI科目	◎情報リテラシー (2)	プログラミング入門(2)	◇AI基礎(2) ◇データサイエンス1(2)		◇データサイエンス2(2) ◇社会調査法(2)			データサイエンス3(2) データサイエンスのための数学(2)		データサイエンス4(2) データベース(2)		データエンジニアリング(2)							
	リーダーシップ・キャリア形成科目	◇キャリアデザイン1(1)	リーダーシップ入門(1)	◇キャリアデザイン2(1)	ファンリテーション(2)		アントレプレナーシップ論(1)		キャリア形成論(1)	◇インターンシップ(通年)(2)		◇キャリアプランニング(2)								
	経済基幹科目	◎経済学入門(2) ◇経営学入門(2) ◇会計学入門(2)		◎■ミクロ経済学1(2) ◎■マクロ経済学1(2)	経済数学(2)	◎ミクロ経済学2(2) ◎マクロ経済学2(2) ◇日本経済論(2)	経済統計(2)		経済の思想と哲学(2) ゲーム理論(2)		計量経済学(2)		経済データ分析(2)							
	経済専門科目			◇金融リテラシー(2)			金融論(2) 資源・エネルギー論(2) マーケティング論(2)	◇経済政策(2)	労働経済学(2) 財政学(2) ■国際経済学(2) ファイナンシャルプランニング(2)		行動経済学(2) 公共経済学(2) 環境経済学(2) 開発経済学(2) 国際金融論(2) グローバル経済論(2) イノベーション論(2) 北陸SDGs基礎(2)		医療経済論(2) 教育経済学(2) 都市・地域経済論(2) 社会保障論(2) コーポレートファイナンス(2) 北陸SDGs実践(2)						38単位	72単位
	展開科目		■法学入門(2) ※スポーツ科学概論(2)		□民法1(2) 簿記論(2) 地域マネジメント入門(2)	◇＊日本国憲法(2)	□民法2(2) 基礎プログラミング(2) 地域マネジメント実習(1)		人的資源管理論(2) 財務会計論(2) 応用プログラミング(2) 実践プログラミング(2) 地域マネジメント総論(2)		企業法(2) コーチング学(2) スポーツ社会学(2)		スポーツマネジメント(2)							
	演習科目	◎基礎ゼミナール(4)				◎専門基礎ゼミナール(4)				◎専門ゼミナール(4)				◎卒業研究(6)				18単位		
自由科目群	教職科目				*教育学概論(2) *教職論(2)		*教育心理学(2) *教育方法論(情報通信技術を活用した教育の概論及び方法)(2) *特別支援教育(1)		*教育課程論(2)		*道徳教育論(2) *教育社会学(2) *生徒・進路指導論(2) ■公民科教育法1(2)		*特別活動と総合的な学習の時間(2) *教育相談(2) ■公民科教育法2(2)	*教育実習事前事後指導(通年)(1) *教育実習1(通年)(2) 教育実習2(通年)(2)						卒業要件に含まず
	リメディアル科目		基礎数学1(2)		基礎数学2(2)															

ディプロマ・ポリシー		レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
(知識・技能)	社会の一員として必要となる幅広い知識と技能を備えている。	組織や社会の問題に関する自分や他者の考えについて、収集した情報と培った知識に基づき、様々な観点から客観的に評価できる。	組織や社会の問題について、複数の科目で学んだ内容と関連付けて、自分の考えを示すことができる。	身近な問題について、複数の科目で学んだ内容と関連付けて、自分の考えを示すことができる。	すべての科目の中から数科目を取り上げて、扱っている内容の例を挙げることができる。
(思考力・判断力・表現力)	情報を収集・分析し、課題を発見する力を身につけている。	自分の専門分野・テーマに関する具体的な課題を設定し、取り組み、達成することができる。	自分の専門分野の中で特に興味のあるテーマを定め、それに関連する課題を思いだし、課題を設定することができる。	専門教育科目群の中から1分野ないし2分野を自分の専門分野と定め、その分野に関する自分の興味や問題意識について説明できる。	専門教育科目群の中から数科目の興味分野の科目を数科目取り上げて、扱っている内容の例を挙げることができる。
	課題解決に至る道筋を論理的に考える力を身につけている。	自身が設定した課題とそれを達成するための行動について、その根拠を説明することができる。	組織や社会の問題に対して、収集した情報と自身の知識・経験に基づいて課題を定め、その課題達成に向けた行動指針を決定できる。	身近な問題に対して、収集した情報と自身の知識・経験に基づいて課題を定め、その課題達成に向けた行動指針を決定できる。	自己の問題について、収集した情報と自身の知識・経験に基づいて課題を定め、その課題達成に向けた行動指針を決定できる。
	課題の背景、解決策及びその効果を正しく相手に伝える力を身につけている。	情報収集・分析を通じて組織や社会の問題を見いだし、具体的な取り組み可能な規模の課題と解決への道筋を示すことができる。	組織や社会の目標を達成するために、成すべきことを挙げ、複数の小規模な課題に分割し、それを実行する手順を考え、それができる。	自己の目標を達成するために、成すべきことを挙げ、複数の小規模な課題に分割し、それを実行する手順を考え、それができる。	自己の目標を達成するために、何をすべきか考えることができる。
	課題の背景、解決策及びその効果を正しく相手に伝える力を身につけている。	事実に基づいて問題を明らかにし、課題を設定して取り組んだ上で、その内容と効果や課題について、論文や報告書・資料にまとめて発表できる。	自ら課題を設定して、図表などに適切に用いて表現するために、信頼できる情報源から情報を収集し、その情報に基づいて考察した表現をすることができ。	事実に基づいた自分の意見を正しく相手に伝えるために、話す順序や文章の構成、適切な図表を用いた表現を考えることができる。	身近な出来事や自分の考えとていることについて、事実と意見を区別して、文章で表すことができる。
(主体性・多様性・協働性)	自分の考えや判断に基づいて行動し、その結果に責任を持つことができる。	根拠に基づいて自分で考えて判断・行動し、それが自分と組織・社会に及ぼす結果に対して説明し、責任を持つことができる。	自分が所属する組織や社会について、自己の責任を認識し、より良くするために行動することができる。	自分のことに関して、他者に判断を委ねず、自分の責任で判断・行動し、その結果を受け入れることができる。	自分の判断・行動によって自分の将来が変わることについて自覚することができる。
	多様な価値の存在を認め、尊重することができる。	すべての人が安心して暮らせる社会の実現に向けて行動することができる。	多様性の尊重とすべての人が安心して暮らせる社会の実現の関係について自分の考えをもつことができる。	さまざまな考え方や価値観が存在することを知り、認めることができる。	自分とは異なる他者の考えや思いについて想像することができる。
	他者と協働し、課題を解決することができる。	すべての人が個々の能力や特性を生かして活躍できる場を作ることを意識し、そのために必要なることを考えて実践できる。	グループや組織での活動において、課題の設定や目標の共有、作業の調整やメンバーの支援等に率先して取り組むことができる。	グループや組織での活動において、目標を達成するために、他者の役割をふまえて自分の役割を果たすことができる。	グループや組織での活動において、他者の意見を尊重した上で、自分の意見を伝えることができる。

ディプロマ・ポリシー		レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
(知識・技能)	持続可能な社会を実現する一員として必要 な幅広い知識と技能を備えている。	先行研究の精読、方法論の理解を通じてSDGsの目標達成のための具体的な政策提言ができる。	SDGsに関する文献を統括し、現在ある課題を明示し、課題解決のための仮説、検証方法を立てられる。	SDGsの目標と日常生活を関連付け、目標達成に必要な知識を身につけられる。	SDGsの達成目標にはどのようなものがあるか理解できる。
(思考力・判断力・表現力)	経済学を中心とした専門知識と技能を備えている。	自分が専門とした経済学の分野に関して、自分の立てた問いや仮説に対して理論的・客観的に解決方法を提示できる。	社会問題の解決方法として仮説や問いを立て、検証に向けた計画・方針を立てられる。	経済学の理論が身につくおり、日常生活を含めた社会の問題を認識し、例示できる。	経済系科目のうち、自分の興味関心に基づいていくつかの科目について学修内容を例示・説明できる。
(思考力・判断力・表現力)	新たな視点で課題を見いだし、データに基づき分析する力を身につけている。	自ら立てた問いや仮説に対してデータを収集し、データの分析を通して仮説検証と政策提言や解決・改善方法を提示できる。	課題解決に向けて自ら立てた問いや仮説を検証するために必要なデータの収集方法や分析方法がわかる。また、データ収集のための計画を立てられる。	データをさまざまな角度から観察したり、可視化することを通してデータの背景にある課題を発見できる。	データの収集、整理方法が身についている。また、データをグラフや表で可視化できる。
(思考力・判断力・表現力)	物事を多角的に捉え、課題を解決する力を身につけている。	多角的な物事の把握や観察などを踏まえ、課題解決のための有効な方法を提示できる。	社会が抱える問題について、さまざまな角度から原因を考え解決方法を検討することができる。	自分の身近な物事について多角的にとらえ、課題を発見することができる。	多角的にとらえる必要性を理解し、実践することができる。
(主体性・多様性・協働性)	分析、発見した知見を文章、プレゼンテーションなど、多様なメディアで表現する力を身につけている。	事実に基づいて問題を明らかにし、課題を設定して取り組んだ上で、その内容と効果や課題について、論文や報告書・資料にまとめて発表できる。	自ら課題を設定して、図表などに適切に用いて表現するために、信頼できる情報源から情報を収集し、その情報に基づいて考察した表現をすることができ。	事実に基づいた自分の意見を正しく相手や伝言のために、話す順序や文章の構成、適切な図表を用いた表現を考えることができる。	身近な出来事や自分の考えについて、話について、事実と意見を区別して、文章で表すことができる。
(主体性・多様性・協働性)	自己を理解し、主体的に行動することができ	根拠に基づいて自分で考えて判断・行動し、それが自分と組織・社会に及ぼす結果に対して説明し、責任を持つことができる。	自分が所属する組織や社会について、自己の責任を認識し、より良くするために行動することができ。	自分のことに関して、他者に判断を委ねず、自分の責任で判断・行動し、その結果を受け入れることができる。	自分自身を理解し、表現することが自分の将来につながることを自覚できる。
(主体性・多様性・協働性)	自分と異なる他者を理解し、尊重することができる。	すべての人が安心して暮らせる社会の実現に向けて行動することができる。	多様性の尊重とすべての人が安心して暮らせる社会の実現の両方について自分の考えをもつことができる。	さまざまな考え方や価値観が存在することを知り、認めることができる。	自分とは異なる他者の考えや思いについて想像することができる。
(主体性・多様性・協働性)	チームで協働し、課題を解決することができる。	すべての人が個々の能力や特性を生かして活躍できる場を作ることを意識し、そのために必要なことを考え実践できる。	グループや組織での活動において、課題の設定や目標の共有、作業の割振りやメンバーの支援等に率先して取り組むことができる。	グループや組織での活動において、目標達成するため、他者の役割をふまえて自分の役割を果たすことができる。	グループや組織での活動において、他者の意見を尊重した上で、自分の意見を伝えることができる。

Ⅲ 授業・履修

1. 単位制

学年制を加味した単位制となっています。単位制とは、各授業科目について、定められた時間数を履修し、試験等に合格することによって、その授業科目の単位を修得していくことです。その修得した単位が学則に定められている卒業要件単位を満たした学生に対して、卒業が認定されます。なお、単位とは、学修量を確認する基準です。各授業科目に対する単位数は、1単位45時間の学修を必要とする教育内容をもって構成することを標準としますが、当該授業による教育効果、授業時間以外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算しています。

(1) 単位の計算方法

1単位の学修時間は、授業時間（教室内）と自学自修時間（予習時間及び復習時間）を合わせて45時間を基準としています。ただし、語学科目など授業形態によっては算出基準が異なります。

また、単位認定を受けるためには、教室内の授業時間以外に必ず自学自修時間（予習及び復習）が義務付けられています。授業担当者から、予習及び復習の指示が出されますので、必ず予習及び復習を行ってください。

(2) 計算基準（1単位あたりの計算基準）

授業形態	学修時間	授業時間	自学自習時間
講義	45時間	15時間	30時間
演習	45時間	30時間	15時間
実習・実技	45時間	45時間	—

2. 授業（授業区分・学期・形態・授業時間・クラス編成）

(1) 授業区分

必修科目	この科目は、学部・学科において履修が義務付けられており、卒業するまでに必ず単位を修得しなければなりません。
選択科目	この科目は、各自の学修計画に基づき、自由に選択することが出来ます。また、修得した単位は卒業に必要な単位に含まれます。
自由科目	この科目は、単位は認定されますが、進級・卒業に必要な単位に含まれません。

(2) 学期

一部の科目を除き、セメスター制（前期・後期）で行われます。

前 期	4月1日～9月30日
後 期	10月1日～3月31日

※年度によって、各学期の開始・終了日が異なります。年度当初に配布される「University Calendar」で確認してください。

(3) 形態

授業の形態は次のとおりです。

前期科目 後期科目	前期または後期に開講される授業科目です。成績評価・単位認定は各学期末に行われます。
通年科目	1年間にわたって開講される授業科目です。前期・後期の成績を総合的に評価して年度末に単位認定が行われます。
集中講義	特定の時期に集中して開講される授業科目です。成績評価・単位認定は授業終了後に行われます。

(4) 授業時間

授業時間は1時限90分間です。

時 限	授 業 時 間
1時限	9:15～10:45
2時限	11:00～12:30
3時限	13:20～14:50
4時限	15:05～16:35
5時限	16:50～18:20

(5) 語学科目クラス編成

英語科目については、1年次はプレイスマンステスト、2年次以降は前年度の成績等をもとに、習熟度別にクラス編成を行います。

3. 履修（受講手続き・履修登録上限単位数（CAP制）・出欠・休講補講等）

(1) 受講手続き

学生は各自の履修計画に基づき、指定する期日までに受講手続きを行います。この手続きを怠ると履修ができず、単位の認定は行われません。

(2) 履修登録上限単位数（CAP制）

1年間に履修登録する単位数の上限を1～3年次生は「各学期22単位」、4年次生は「各学期26単位」と定めています。これは、過度の履修を防ぐことによりそれぞれの科目の理解度を高めるためです。各年次の上限単位数を超えて履修することはできません。ただし、前年度GPAが3.0以上の場合、上限を1～3年次生は「各学期26単位」、4年次生は「各学期30単位」とします。なお、自由科目群科目の単位数は含まれません。

(3) 履修登録

履修登録とは、自らの学修計画に基づき、受講手続きを行うことであり、学修の出発点になる大切な手続きです。卒業要件を確認のうえ、計画的に履修登録を行ってください。

なお、一旦登録した科目の変更は原則として認められません。ガイダンスには必ず出席し、「履修の手引」「授業時間割」「シラバス」などを参考にして、各自の時間割を作成してください。

【履修登録上の注意事項】

- ・履修しようとするすべての授業科目を登録しなければなりません。
- ・履修登録が行われていない授業科目は、授業に出席することはできません。
- ・同一曜日・時限に2科目以上重複して履修することはできません。
- ・同一科目については、授業担当者が異なっても履修することはできません。
- ・受講するクラスが指定されている場合は、必ずそのクラスを受講しなければなりません。
- ・所属する年次より上の年次の授業科目は原則として履修することはできません。

(4) 履修制限

修得単位数が60単位に達していない場合は、3年次以上に配当される専門教育科目群科目（演習科目を除く）を履修することができません。その場合、4年間での卒業が厳しくなりますので、注意してください。

(5) 授業の出席・欠席

【出席】

授業には、病気などやむを得ない場合を除いて、出席しなければなりません。また補講についても通常授業と同じであり、出席しなければなりません。

【欠席】

7日以上授業を欠席する（欠席した）ときは、欠席理由を明記した「欠席届」を提出しなければなりません。病気の場合は医師の診断書、事故その他の場合はそれを証明する書類の提出を求めることがあります。

【公認欠席】

公認欠席（公欠）は、「北陸大学公認欠席等に関する細則」に基づき、所定の手続きを経たうえ、許可された場合、授業を欠席したものとして取り扱わないことをいいます。

* 公認欠席に関する手続き等の詳細については、「北陸大学公認欠席等に関する細則」を確認してください。

(6) 休講・補講

【休講】

授業が休講になる場合は、事前に学生支援システムで案内します。なお、授業開始後15分経過しても授業担当教員から連絡、または指示がない場合は、必ず教務課に連絡し、その指示に従ってください。

【補講】

授業担当教員の事由により授業が休講になった場合、補講が行われます。必ず学生支援システムで補講日程を確認してください。また、授業担当教員による休講がなくても、授業の進度により、補講が行われることがあります。なお、補講日程については、事前に学生支援システムで案内します。

4. 悪天候等における授業・試験の取り扱いと対応

悪天候等に伴う交通機関の不通、特別警報等発令時における授業及び試験の取り扱いを以下のとおり定めます。

(1) オンライン対応、休講、試験休止等

次のいずれかの状況が発生した場合は、オンライン授業への切り替え、又は、休講（試験休止）とします。

① 金沢地方気象台から「加賀北部地域」に特別警報が発令された場合

＊「特別警報」とは、これまで経験したことがないような重大な危険が差し迫った異常な状況になると予想される場合に発令される警報であり、「特別警報」が発令された場合は、避難情報等に依拠して命を守る行動をとること。

② 北陸鉄道バスが全面不通の場合

③ その他、休講及び試験を休止することが適切であると学長が認めた場合

(2) 休講の解除及び試験休止の解除

警報解除又は運転再開の時刻	授業及び試験の取り扱い
午前 7時00分まで	1 時限から実施
午前11時00分まで	3 時限から実施
午前11時01分以降	終日休講又は休止

(3) 決定・周知方法

学生及び教職員への周知方法は、ホームページ、学生支援システムを利用したメール配信を行います。

(4) その他

① 休講となった場合は、補講を実施します。なお、終日休講となった場合は、授業予備日等を授業代替日として実施します。

② 試験休止となった場合は、原則、試験最終日の翌日を試験代替日として実施します。

③ 学外の実習等の場合は、各実習先又は実習担当教員の指示に従うものとします。

④ 学生の居住地域に係わる交通機関の不通及び警報発令等については、自身の判断で安全確保に努めてください。

⑤ 欠席については、事由を証明する書類を持参の上、公欠期間終了後、原則3日以内（土・日・祝日を除く。）に薬学学務課又は教務課にて、公欠の手続きを行ってください。定期試験を欠席した場合は、試験実施日を含めて7日以内（応当日（7日目）が休日の場合は、翌業務日まで。）に追試験の手続きを行ってください。

●全国瞬時警報システム発令時の授業・試験の取り扱いと対応

全国瞬時警報システム（Jアラート）受信時の対応について、授業・試験中の場合は、直ちに中断することとし、安全が確認された後に授業・試験を再開し、中断時間により、授業・試験時間の繰り下げもしくは別日時に補講・試験実施の措置をとります。

休講及び試験を休止する場合の対応は、「悪天候等における授業・試験の取り扱いと対応」に準じて行います。

＊全国瞬時警報システムとは、弾道ミサイル情報、緊急地震速報、津波警報など、対処に時間的余裕のない事態に関する情報を携帯電話等に配信される緊急速報メール、市町村防災行政無線等により、国から住民まで瞬時に伝達するシステムのことです。

IV 試験・成績

1. 試験制度

(1) 定期試験

各学期末の定められた期間に定期試験が実施されます。定期試験については、事前に実施する科目、試験時間、教室等が掲示で案内されますので、受験前に必ず確認してください。

(2) 追試験

定期試験を病気、事故、忌引等、次に示す事由により受験できなかった学生に対しては、本人の願い出に基づき、追試験を行うことがありますので、当該科目の試験日を含め7日以内に追試験願（病気の場合は医師の診断書、その他の場合も証明書等を添付すること）を提出してください。（応当日（7日目）が休日の場合は、翌業務日までとします。）

(1) 病気により欠席した者（診断書）

(2) 3親等以内の親族の忌引により欠席した者（葬儀案内書等）

親族が死亡したときは、次の期間を忌引扱いとすることができます。

(1 親等) 父母、子 7日

(2 親等) 祖父母、兄弟姉妹 3日

(3 親等) 伯叔父母 1日

*配偶者は10日間となります。

いずれも葬儀の日及び往復の日数を含む。

(3) 被害者、加害者にかかわらず、交通事故により欠席した者（事故証明書）

(4) 天災、事故等の原因による公共交通機関の遅れにより欠席した者（遅延証明書）

(5) 就職試験、大学院入学試験を受験するために、事前に証明する書類を提出のうえ、欠席した者（試験通知書、受験票等）

(6) その他、正当な理由で欠席したと認められる者

(3) 再試験

再試験は実施しません。

(4) 試験受験上の注意

受験に際しては、監督教員の指示によるほか、次の事項を守らなければなりません。

- (1) 試験を受験する際は必ず学生証を持参し、試験開始時に、机の上に写真欄を表にしておくこと。また、追再試験・最終試験の場合は受験承認証をそれに添えること。
- (2) 試験開始5分前までに入室し、指定された座席に着席すること。また、試験開始後15分を超えて遅刻した場合は受験出来ないので注意すること。
- (3) 試験終了後は、監督員の指示があるまで退室しないこと。時間中に答案を書き終えた者は、挙手のうえ監督員の許可を得て退室すること。ただし、試験開始後20分間及び試験終了前5分間は退室できません。また、一旦中途退室すると、再入室はできません。
- (4) 携帯電話等の電源は必ずOFFにし、かばんに納めること。

(5) 不正行為

【試験における不正行為】

- (1) 試験監督員の指示・注意等に従わない行為及び試験監督員の業務を妨害する行為
- (2) 身代わり受験をする行為あるいは身代わり受験をさせる行為
- (3) 持ち込み許可を受けない書籍、ノート、情報機器等の利用
- (4) 持ち込み許可を得た書籍やノート等の貸借
- (5) 紙片、筆記用具、机等にあらかじめ書き込んだものの利用
- (6) 答案用紙、下書用紙等配布された用紙以外の用紙の利用
- (7) 答案用紙のすり替えや交換
- (8) 他人の答案を見ることあるいは自分の答案を他人に見せること。
- (9) 試験場の内外を問わず、会話、電話、メール、符号等を利用した情報交換
- (10) 許可のない物品の貸借
- (11) 試験監督員の指示に反する行為

以上の試験における不正行為を行った者に対する懲戒手続は、「北陸大学学生懲戒規程」に従って行われ、当該学期のすべての履修登録科目の成績評価をF2（受験停止）とし、前後期を通して開講される科目の成績については、学部で定めます。

【試験以外における不正行為】

- (1) 授業の中で行われる確認試験（確認テスト）や中間試験（中間テスト）等において、【試験における不正行為】に示す行為
- (2) 課題・レポート等（卒業論文を含む。）の提出において、実験や調査結果のデータを捏造又は偽造する行為
- (3) 課題・レポート等（卒業論文を含む。）の提出において、Web上にある他人の文章等を自分の文章等であるかのように見せかけて提出する行為
- (4) 課題・レポート等（卒業論文を含む。）の提出において、他人が書いたものを自分が書いたものであるかのように見せかけて提出する行為
- (5) 課題・レポート等（卒業論文を含む。）の提出において、生成 AI が生成した文章等を自分が書いたものであるかのように見せかけて提出する行為
- (6) 授業に出席しない者や授業の過半を不在にしている者が、方法の如何を問わず、出席と見せかける行為

以上の試験以外における不正行為を行った者、また行為を引き受けた者も不正行為とみなされ、当該授業への出席が制限されたり、当該授業の成績が著しく低く評価されることがあります。また、重ねて行った者や悪質である場合、「北陸大学学生懲戒規程」に従って懲戒手続が行われます。

2. 成績（成績評価・GPA・成績疑義照会制度・成績通知）

(1) 成績評価

各科目の成績は、100点満点で次のような評価で表示されます。60点以上を合格とし、合格科目は単位が認定されます。ただし、追試験は90点を最高点とします。

判定	成績評価	成績評価基準	
合格	S（秀）	90点～100点	科目の目標を大きく上回って達成できていることを表します。
	A（優）	80点～89点	科目の目標を上回って達成できていることを表します。
	B（良）	70点～79点	科目の目標を達成できていることを表します。
	C（可）	60点～69点	最低限の科目の目標を達成できていることを表します。
不合格	F（不可）	59点以下	科目の目標を達成できていないことを表します。
	F1（試験欠席）	試験欠席により、不合格となったことを表します。	
	F2（受験停止）	授業欠席過多等により、不合格となったことを表します。	
対象外	TC（認定）	他大学等での履修により修得した単位であることを表します。	
	R（合格認定）	資格取得等により認定された単位、もしくは、学部において点数による評価を行わず、合格又は不合格による判定を行うと定めた科目（合否判定科目）で合格と認定された単位であることを表します。	

【GPA制度】

GPA（Grade Point Average）は、学生一人ひとりが学修成果を総合的、かつ客観的に確認できる指標となり、今後の勉学意欲をより一層高めることにもつながります。また、学生一人ひとりに対し、効果的かつ適切な指導を行うための資料や奨学金、大学院推薦の選考資料等としても利用します。

なお、各学期のGPAが3学期連続して1.0未満の場合、退学勧告を受けることがあります。

・成績評価とグレードポイント

成績評価	ポイント
S（秀）	4
A（優）	3
B（良）	2
C（可）	1
F（不可） F1（試験欠席） F2（受験停止）	0

※「TC（認定）」及び「R（合格認定）」並びに卒業要件に算入されない科目（自由科目群科目）については、算出の対象とはなりません。

GPAの計算方法は、各履修科目の成績評価（S・A・B・C・F）をそれぞれ数値化し、その数値化した評点に単位数を乗じた総評点を履修登録科目の総単位数で割って算出します。

・GPAの算出方法

$$GPA = \frac{(Sの単位数 \times 4) + (Aの単位数 \times 3) + (Bの単位数 \times 2) + (Cの単位数 \times 1) + (Fの単位数 \times 0)}{\text{履修登録科目の総単位数}}$$

例)	履修科目	単位数	評価	ポイント
	基礎ゼミナール	4単位	S	16
	日本語リテラシー1	2単位	A	6
	スポーツ1	1単位	B	2
	英語1	1単位	C	1
	心理学	2単位	F	0

上記の計算式にあてはめるとGPAは2.50（25ポイント÷10単位）になります。

F（不可）、F1（試験欠席）、F2（受験停止）の科目の単位も含まれますので、履修登録する際には、シラバスをよく読み、十分授業内容を検討してから登録してください。

(2) 成績疑義照会

【成績疑義照会制度】

成績疑義照会制度は、科目の成績評価に関して疑義が生じた場合、定められた期間内に学生が「成績疑義照会願」により照会を求め、疑義内容を精査の上、妥当と判断された場合に成績評価を訂正するための制度です。

【成績疑義照会の流れ】

科目の成績評価に関して疑義が生じた場合、「成績疑義照会願」を成績発表後7日以内に教務課窓口へ提出してください（「成績発表後7日以内」とは、「学生支援システム」による成績発表日を算入せず、翌日から起算して7日以内とします。応当日（7日目）が休日の場合は、翌業務日までとします。なお、各学期の成績疑義照会期間は、その都度、通知します）。

疑義内容に応じて、当該授業担当教員あるいは教務課が確認し、疑義内容が妥当と判断された場合には成績評価が訂正されます。また、申出学生には、教務課を通じて、文書で回答を配付します。

【成績疑義照会対象事項】

成績疑義照会は、以下に該当する事項について照会を受け付けるもので、授業担当教員に対して、成績評価の再考・変更を求めたり、評価内容に関する不満を訴えたりするものではありません。また、授業への出席を理由とした疑義照会は受け付けできません。

・ 疑義照会対象事項

- 1) 定期・再試験等を受験あるいはレポート等の課題を提出したにもかかわらず、成績評価が記載されていない場合。
- 2) 定期・再試験等を受験あるいはレポート等の課題を提出し、成績評価で合格基準を満たしている具体的な根拠があるにもかかわらず、「F」評価となった場合。
- 3) 成績評価で合格基準を満たしていないにもかかわらず、「C」以上の評価が記入されている場合。

【成績疑義照会に際しての注意事項】

- ・ 成績疑義照会制度は、科目の成績評価に関しての疑義を受け付けるものであり、定期試験等、個別の試験やレポート等の成績に関する疑義を受け付けるものではありません。個別の試験等結果に関して疑義照会を受ける場合は、その都度受付期間等を通知します。
- ・ 成績疑義照会に際しては、シラバスに記載の「成績評価の基準・方法」をよく確認してから願い出てください。
- ・ 照会期間以外の疑義受付は認められませんので、必ず定められた期間内に成績確認を行ってください。
- ・ 申請は、本人が教務課窓口で行うものとし、「代理申請」は認めません。
- ・ 評価内容に関する不満等については、「疑義照会願」を受け付けません。

(3) 成績通知

前期・後期の定期試験結果については、学生支援システム（成績照会）により発表しています。また、定期試験、再試験（最終試験）を含んだ総合成績は、「成績通知書」で保証人宛に送付するとともに学生支援システム（成績照会）により発表しています。

V 進級・卒業

1. 進級

進級基準は定めていませんが、60単位を修得していない場合は、3年次以上に配当される「専門教育科目群科目（演習科目を除く）」を履修することができません。

2. 卒業要件

4年間以上在学し、次の各区分における必要単位数を満たしたうえで、卒業要件単位124単位以上を修得した者とします。

経済経営学部 マネジメント学科				
一般教育科目群	教養科目	必修	1 単位	22単位以上
	外国語科目（※1）	必修	2 単位	
		選択	2 単位以上	
	上記に加え、一般教育科目群から			
専門教育科目群	データサイエンス・AI科目	必修	2 単位	72単位以上
	専門科目	必修	6 単位	
		選択	32単位以上	
	演習科目	必修	18単位	
	上記に加え、専門教育科目群から			
上記に加え、一般教育科目群又は専門教育科目群から				30単位以上
合 計				124単位以上

※1 外国人留学生の修得した留学生特例科目の単位は、必修科目を含む外国語科目の単位とすることができる。

経済経営学部 経済学科				
一般教育科目群	教養科目	必修	1 単位	22単位以上
	外国語科目（※1）	必修	2 単位	
		選択	2 単位以上	
	上記に加え、一般教育科目群から			
専門教育科目群	データサイエンス・AI科目	必修	2 単位	72単位以上
	経済基幹科目	必修	10単位	
	経済基幹科目及び経済専門科目	選択	28単位以上	
	演習科目	必修	18単位	
	上記に加え、専門教育科目群から			
上記に加え、一般教育科目群又は専門教育科目群から				30単位以上
合 計				124単位以上

※1 外国人留学生の修得した留学生特例科目の単位は、必修科目を含む外国語科目の単位とすることができる。

Ⅵ 学 籍

1. 休学

病気その他やむを得ない理由で、引き続き3ヵ月以上欠席しなければならないときは、休学することができます。休学しようとする場合には、その理由を明記した所定の「休学願」を提出し（病気の場合は医師の診断書を添付）、許可を得なければなりません。引き続き休学できる期間は1年以内です。ただし、特別な理由がある場合に限り1年を限度として、休学期間の延長を認めることがあります。休学期間が過ぎても復学できない場合は改めて休学の手続きをとらなければなりません（休学期間は通算4年を超えることはできません）。

休学期間中の学生は試験を受ける資格がなく、したがって単位は認定されません。

2. 復学

休学期間が終了した場合、あるいは休学中であっても休学の理由がなくなった場合は、直ちに所定の「復学願」を提出し、許可を得なければなりません。病気で休学した者は修学に堪え得ることを記載した医師の診断書が必要です。学期の途中で復学した場合、休学前と復学後の出席回数とその学期の授業回数3分の2以上ないと定期試験や追再試験を受験する資格はありません。

3. 退学

退学する場合には、その理由を明記した所定の「退学願」を提出し、許可を得なければなりません。退学には2つの退学があります。

(1) 自主退学の場合

退学しようとする学生は、必ず担任教員に相談のうえ、その理由を記載した所定の「退学願」を教務課に提出し、学長の許可を得なければなりません。なお、退学を願い出る場合は、その学期の授業料等の学費が完納されていなければなりません。

(2) 退学を命じられる場合

- 1) 在学期間が学則第14条に規定する8年を超えた場合
- 2) 1回の休学期間が2年を超えた場合、または通算の休学期間が4年を超えた場合
- 3) 授業料等の学費が指定期日までに納入されなかった場合
- 4) 長期間にわたり行方不明になった場合

4. 転学部

本学他学部への転学部制度があります。転学部制度の詳細については別途通知します。

Ⅶ 留学

1. 留学制度

実践的な語学力、国際感覚と教養を身に付けた国際人の育成を目指す教育の一環として、1年次を対象とした短期海外研修を始め、様々な形で海外経験が可能となる研修の機会が設けられています。また、各種研修・留学に参加し、要件を満たした学生には「海外研修1・2（各1単位）」、「海外研修3・4（2単位）」、「海外研修5・6（各6単位）」が認定されます。

留学形態

(1) 派遣留学

派遣留学とは、本学が指定する大学などに学生を派遣する場合を言います。留学期間は修業年限に算入され、所定の手続きを経たうえ、修得単位の認定も行われますので、4年間で卒業することが可能です。

(2) 認定留学

認定留学とは、学生自らが選定した大学などに留学する場合を言います。留学期間は修業年限に算入され、所定の手続きを経たうえ、修得単位の認定も行われますので、4年間で卒業することが可能です。

(3) 休学留学

休学留学とは、学生が休学して、学生自ら選定した大学などに留学する場合を言います。留学期間は修業年限に算入されませんが、所定の手続きを経たうえ、修得単位は認定されます。ただし、この留学の場合は、4年間で卒業することはできません。

VIII 資格取得等

1. 教職課程

中学校及び高等学校の教員を志望する学生のために、以下の教職課程を設けています。卒業に必要な単位を修得するとともに、教職課程において所定の単位を修得した学生は、教育職員免許法によって教員免許状が取得できます。ただし、計画的に単位を修得しなければ免許状の授与資格を得ることができませんので、注意してください。

【取得できる教員免許】

- マネジメント学科 中学校一種免許（保健体育）、高等学校一種免許（公民）（保健体育）
- 経済学科 高等学校一種免許（公民）

2. 簿記検定試験及びITパスポート試験

21世紀のビジネス社会で役立つ“実学”として、全員に日商簿記検定試験3級取得を目指してほしいと考えています。また、職業人が共通に備えておくべき情報技術に関する基礎的な知識として、ITパスポート試験の受験を推奨しています。

3. 語学検定試験

語学検定試験は、語学力を客観的に確認する絶好の機会となり、検定試験での合格またはスコアの達成を目標として学修することは、語学力の向上を目指すうえで重要な役割を果たします。

4年間の語学学習の到達目標を英語はTOEIC（IP）500点、中国語はHSK3級と定めています。しっかりと受験計画を立て、目標を達成できるよう積極的にチャレンジしてください。

4. 資格検定試験による単位認定（履修細則 別表2）

以下の検定試験に合格または基準点を取得した場合、北陸大学経済経営学部履修細則第5条により、本学において修得した単位として認定します。

【マネジメント学科】

検定試験	認定基準	認定科目名称	単位	上限認定 単位数
実用英語技能検定 TOEIC（IP含む） TOEFL-iBT	準1級 750点以上 80点以上	English Seminar1 English Seminar2 English Seminar3	2 2 2	4
実用英語技能検定 TOEIC（IP含む） TOEFL-iBT	2級 500点以上 60点以上	English Seminar1	2	2
中国語検定試験 漢語水平考試（HSK）	2級 5級（210点以上）	中国語1 中国語2 中国語3 中国語4	1 1 1 1	4
中国語検定試験 漢語水平考試（HSK） 漢語水平考試（HSK）	3級 5級（209点以下） 4級	中国語1 中国語2	1 1	2
日本語能力試験（JLPT）	N1	資格日本語3 資格日本語4	2 2	4
簿記検定（日本商工会議所）	2級	簿記論1 簿記論2 簿記論3 工業簿記論	2 2 2 2	8
簿記検定（日本商工会議所）	3級	簿記論1	2	2
ITパスポート試験	合格	情報処理演習	2	2

（注1）検定試験による単位認定は、入学後の検定試験に合格した者を対象とする。

ただし、「簿記検定（日本商工会議所）」及び「ITパスポート試験」については、入学前の検定試験に合格した者も対象とする。

（注2）単位認定申請の時期は、学期始めとする。

【経済学科】

検定試験	認定基準	認定科目名称	単位	上限認定 単位数
実用英語技能検定 TOEIC (IP含む) TOEFL-iBT	準1級 750点以上 80点以上	English Seminar1 English Seminar2 English Seminar3	2 2 2	4
実用英語技能検定 TOEIC (IP含む) TOEFL-iBT	2級 500点以上 60点以上	English Seminar1	2	2
中国語検定試験 漢語水平考試 (HSK)	2級 5級 (210点以上)	中国語1 中国語2 中国語3 中国語4	1 1 1 1	4
中国語検定試験 漢語水平考試 (HSK) 漢語水平考試 (HSK)	3級 5級 (209点以下) 4級	中国語1 中国語2	1 1	2
日本語能力試験 (JLPT)	N1	資格日本語3 資格日本語4	2 2	4
FP技能検定	3級	ファイナンシャルプランニング	2	2
簿記検定 (日本商工会議所)	3級	簿記論	2	2

(注1) 検定試験による単位認定は、入学後の検定試験に合格した者を対象とする。

ただし、「FP技能検定」及び「簿記検定 (日本商工会議所)」については、入学前の検定試験に合格した者も対象とする。

(注2) 単位認定申請の時期は、学期始めとする。

IX. 諸規程

北 陸 大 学 履 修 規 程

第 1 章 総 則

(目的)

第1条 この規程は、北陸大学学則（以下「学則」という。）第5章の施行のために、学科課程及び履修方法に関する必要な事項を定め、学生が自らの学修成果を高めるとともに効果的な履修を図ることを目的とする。

(履修)

第2条 学生は、学則及びこの規程により学科課程を履修する。

第 2 章 開 講

(開講科目)

第3条 開設する授業科目の配当年次及び単位数は、学部でこれを定める。

2 学長は、授業科目の開講年次及び開講学期の一時的な変更、授業科目及び単位数の一時的な分割等を、当該学部教授会（以下「学部会」という。）の議を経て、行うことができる。

3 各年度の開講授業科目は、授業時間割により通知する。

第 3 章 履修の通則

(履修年次)

第4条 学生は、所属学科の所属年次に配当された授業科目を履修する。

(履修手続き)

第5条 学生は、各学期の指定する期日までに、履修する授業科目について、履修登録を行わなければならない。

(履修登録単位の制限)

第6条 各年次で履修できる単位数の上限は、学部でこれを定める。

(出席)

第7条 学生は、履修登録科目の単位認定を受けるためには、当該授業科目の授業回数の3分の2以上に出席しなければならない。

2 公認欠席及び学校保健安全法に基づく出席停止（以下「公欠等」という。）の取扱いについては、別に定める。

3 通年開講科目の授業時間数は、前期及び後期合算で計算するものとする。ただし、授業担当者が、あらかじめ学期の初めに学期ごとに計算することを指示した場合は、その指示に従うものとする。

第 4 章 履修の特例

(履修学科等の特例)

第8条 学生は、届け出等の諸手続きを経たうえで、他学部・他学科及び学部・学科に準ずる学内組織並びに大学コンソーシアム石川で開講されている科目を履修することができる。この場合、自由科目（進級、

卒業及び課程履修に必要な単位とはならない科目)として取り扱う。ただし、学長が認めた場合、学則第10条に定める修得すべき単位(以下「卒業単位」という。)に読み替えることができる。

(副専攻)

第8条の2 学生は、届け出等の所定の手続きを経たうえで、自らの主専攻分野以外で、体系的に編成された教育プログラム(以下「副専攻」という。)を履修することができる。

2 副専攻については、別に定める。

(履修年次の特例)

第9条 学生は、学部長がその必要性を認めた場合に限り、所属年次より上の年次の授業科目を履修することができる。

(履修科目の特例)

第10条 学生は、学部長が履修を指定した授業科目については、履修しなければならない。

第5章 成績評価

(成績評価)

第11条 成績は、第15条に定める試験のほか、次の各号に掲げる平素の評価によるものとする。

- (1) 受講・学習態度
- (2) 確認試験(確認テスト)や中間試験(中間テスト)等
- (3) 課題・レポート等
- (4) その他、授業担当者が、シラバスで指示した事項

2 前項の各事項の成績評価に占める割合は、シラバスに明記する。

(評価基準)

第12条 成績は、100点を満点とし、60点以上を合格とする。

- 2 追試験を受験した場合の最高点は90点、再試験を受験した場合の最高点は69点とする。
- 3 前項の規定にかかわらず、公欠等により定期試験を受験できずに追試験を受験した場合の最高点は100点とする。
- 4 成績評価は、下表の評価基準にしたがって、これを行い、それぞれの評語をもって表示する

評価基準	学修到達度	評語	判定
科目の目標を大きく上回って達成できている	90点～100点	S(秀)	合格
科目の目標を上回って達成できている	80点～89点	A(優)	合格
科目の目標を達成できている	70点～79点	B(良)	合格
最低限の科目の目標を達成できている	60点～69点	C(可)	合格
科目の目標を達成できていない	59点以下	F(不可)	不合格
試験欠席	—	F1(試験欠席)	不合格
授業の欠席過多等	—	F2(受験停止)	不合格

- 5 成績評価に関し疑義がある場合、当該授業科目を履修した学生は、疑義を申し出ることができる。疑義照会の手続き等については、別に定める。
- 6 学則第12条に定める他の大学等での履修により修得した単位及び学則第12条の3第1項に定める入学前の既修得単位を本学の単位として認定した授業科目については、成績評価は行わず、単位のみ認定とし、TC(Transferred Credit)と表示する。
- 7 学則第12条の2に定める大学以外の教育施設等における学修及び学則第12条の3第2項に定める入学前の大学以外の教育施設等における学修により認定した授業科目、学部において点数による評価を行わず、

合格又は不合格による判定を行うと定めた科目（合否判定科目）については、単位のための認定とし、R（合格認定）と表示する。

8 第4項による成績評価に基づく学業結果を総合的に判断する指標として、Grade Point Average（以下「GPA」という。）制度を採用する。

9 前項に定めるGPAは、次のとおりとし、各授業科目の評点にその単位数を乗じた積の合計を登録科目の総単位数で除して算出する。ただし、第6項及び第7項に定める科目並びに卒業単位に算入されない科目は算出対象科目としない。

(1) S（秀）は、4ポイントとする。

(2) A（優）は、3ポイントとする。

(3) B（良）は、2ポイントとする。

(4) C（可）は、1ポイントとする。

(5) F（不可）、F1（試験欠席）、F2（受験停止）は、0ポイントとする。

10 不正行為を行った者に対する成績評価等の取扱いについては、別に定める。

（退学勧告）

第13条 病気その他やむを得ない事情がないにもかかわらず、学期のGPAが3学期連続して1.0未満であり、改善の見込みがないと判断される者に対し、学部長は退学を勧告することができる。

第14条 <削除>

第6章 試験

（試験の種類）

第15条 試験の種類には、定期試験、追試験、再試験及び最終試験のほか、学部で定める試験がある。

第16条 <削除>

（定期試験）

第17条 定期試験は、授業終了後に期日を定めて行う試験をいう。

2 定期試験の時間割等については、あらかじめ通知する。

（追試験）

第18条 追試験は、公欠等、その他やむを得ない事由により、定期試験を受験できなかった者に対して行う試験をいう。

2 追試験を受験する場合、学生は当該科目の試験実施日を含めて7日以内に追試験願（事由を証明する書類を添付）を提出し、所属学部の教務委員長の許可を受けなければならない。

3 追試験の日時については、その都度通知する。

4 追試験は前項に定められた日時1回限りとする。

（再試験）

第19条 再試験は、定期試験又は追試験を受験した結果、不合格と判定された者に対して行う試験をいう。

2 再試験対象科目等は、学部でこれを定める。

3 再試験の時間割等については、あらかじめ通知する。

4 再試験を受験する場合、所定の受験料を添えて、再試験願を提出しなければならない。

（最終試験）

第20条 最終試験は、再試験を受験した結果、不合格と判定された授業科目について行う試験をいう。

2 最終試験対象科目等は、学部でこれを定める。

3 最終試験の時間割等は、あらかじめ通知する。

4 最終試験を受験する場合、所定の受験料を添えて、最終試験願を提出しなければならない。

(公欠及び出席停止が試験時に生じた場合の取扱い)

第21条 北陸大学公認欠席等に関する細則に定める公欠事由及び出席停止が試験時に生じた場合の取扱いについては、次のとおりとする。

- (1) 定期試験においては、追試験を認める。
- (2) 追試験・再試験・最終試験においては、原則として追試験を認めない。

(受験資格)

第22条 次の各号のいずれかに該当する者は、試験を受けることができない。

- (1) 第5条に定める履修登録をしていない者
- (2) 第7条第1項に定める出席回数を満たしていない者
- (3) 試験時刻に所定の時間を超えて遅刻した者
- (4) 学生証を所持しない者
- (5) 学費、その他納入金を所定の期日までに完納していない者
- (6) 追試験・再試験等において、所定の受験手続きを完了していない者

第 7 章 単位認定

(単位の計算)

第23条 単位の計算は、学則第9条の定めにより、1単位の学修時間は授業時間及び自学自修時間（予習時間及び復習時間）を合わせて45時間とする。

- (1) 講義及び演習については、15時間の授業時間及び30時間の自学自修時間をもって1単位とする。ただし、30時間の授業時間及び15時間の自学自修時間をもって1単位とすることがある。
- (2) 実験、実技及び実習については、45時間の授業時間をもって1単位とする。ただし、30時間の授業時間をもって1単位とすることがある。
- (3) 講義、演習、実験、実技及び実習のうち、2つ以上の方法の併用により行う授業科目については、その組合せに応じ、前2号に規定する基準を考慮して1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業研究等の授業科目については、学修の成果を評価し、単位を与えることがある。

(単位認定の時期)

第24条 単位認定は、原則として、各学期末に行う。

2 前項の単位認定は、前期開講科目については前期末に、後期開講科目及び通年開講科目については後期末に行うことを原則とする。

第 8 章 進 級

(進級基準)

第25条 学部・学科により進級基準を設け、これを満たさない場合は、上級年次への進級を制限する。

2 進級基準は、学部でこれを定める。

第 9 章 留 学

(留学)

第26条 学生は、学則第12条第2項に基づき、外国の大学又は短期大学若しくはこれに準ずる教育機関（以下「大学等」という。）での授業科目を履修（以下「留学」という。）することができる。

(留学の形態)

第27条 留学の形態は、次の各号のとおりとする。

- (1) 派遣留学
- (2) 認定留学
- (3) 休学留学

2 派遣留学とは、本学が指定する大学等に学生を派遣する留学とし、留学期間を修業年限に算入のうえ、修得単位の認定を行う。

3 認定留学とは、学生が選定した大学等への留学とし、留学期間を修業年限に算入のうえ、修得単位の認定を行う。

4 休学留学とは、学生が休学のうえ、自らが選定した大学等への留学とし、修業年限には算入しないが、復学後に修得単位の認定を行うことができる。

(留学の単位認定)

第28条 前条の単位の認定は、学部会の議を経て、行うものとする。

第 10 章 補 則

(補則)

第29条 この規程に定めるもののほか、学部に定めがある場合は、これに従うものとする。

第 11 章 規程の改廃

(規程の改廃)

第30条 この規程の改廃は、全学教授会の議を経て、学長が決定する。

附 則

この規程は、2025年4月1日から施行する。

北陸大学経済経営学部履修細則

(目的)

第1条 この細則は、北陸大学学則（以下「学則」という。）及び北陸大学履修規程（以下「履修規程」という。）に定めるもののほか、経済経営学部学生（以下「学生」という。）の履修方法について定める。

(開講科目)

第2条 開設する授業科目の配当年次及び単位数は、別表1のとおりとする。

(履修制限)

第3条 各学期に履修できる単位数は、1～3年次生は上限22単位、4年次生は上限26単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、前年度GPAが3.0以上の場合、各学期に履修できる単位数は、1～3年次生は上限26単位、4年次生は上限30単位とする。

3 修得単位数が60単位に達していない場合は、3年次以上に配当される専門教育科目群科目（演習科目を除く）を履修することができない。

4 次の各号に該当する科目は、第1項及び第2項に規定する単位数に含まない。

(1) 自由科目群科目

(2) 編入留学生が履修する留学生特例科目

(3) 大学コンソーシアム石川が開講する科目

(4) 履修規程第8条の2に定める副専攻を構成する科目のうち、他学部又は学部・学科に準ずる学内組織が開講する科目

(再試験対象科目等)

第4条 再試験は、実施しない。

(文部科学大臣が別に定める学修)

第5条 学則第12条の2に基づき、別表2に定める検定試験の認定基準に達した場合、同表の認定科目の単位として認定する。

(履修学科等の特例における単位の読替え)

第6条 履修規程第8条に基づき、同学部内の他学科で開講されている科目の単位を修得した場合、18単位を上限に、当該単位を専門教育科目群の展開科目の単位として認定する。ただし、教職科目については、この限りではない。

2 履修規程第8条に基づき、次の各号に該当する科目の単位を修得した場合、12単位を上限に、当該単位を一般教育科目群の教養科目の単位として認定することができる。

(1) 大学コンソーシアム石川が開講する科目

(2) 履修規程第8条の2に定める副専攻を構成する科目のうち、他学部又は学部・学科に準ずる学内組織が開講する科目

3 前2項に定める科目の単位を修得した場合において、当該各項に定める認定単位数の上限を超えて修得したときは、当該単位を自由科目群の単位として認定することができる。

(細則の改廃)

第7条 この細則の改廃は、経済経営学部教授会の議を経て、学長が決定する。

附 則

この細則は、2024年4月1日から施行する。

北陸大学公認欠席等に関する細則

(目的)

第1条 この細則は、北陸大学履修規程（以下「履修規程」という。）第7条第2項に基づき、北陸大学学生の公認欠席（以下「公欠」という。）及び学校保健安全法に基づく出席停止の取り扱い等に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(公欠の定義)

第2条 公欠とは、第3条に定める事由に該当し、かつ第4条の手続きを行った者について、授業を欠席したものと取り扱わないことをいう。

2 一授業科目について、公欠が認められる回数は、当該授業科目の授業回数の3分の1までを原則とする。

(公欠事由等)

第3条 公欠事由、公欠期間、証明書類は次表のとおりとする。

公欠事由		公欠期間	証明書類
公共交通機関の遅延		当該授業時間	当該交通機関の発行した遅延証明書等
忌引き	配偶者	10日間	死亡に関する公的証明書（写し）又は会葬礼状等
	父母、子	7日間	
	祖父母、兄弟姉妹	3日間	
	伯叔父母	1日間	
「裁判員の参加する刑事裁判に関する法律」に基づき、裁判員としての任務を果たす場合		裁判所から指定された期間	証明となるもの
教育実習及び介護等体験		当該期間	不要
地域連携センター実施のボランティア活動		当該期間	地域連携センターの証明印
強化クラブの公式試合出場		当該期間	出場を証明する書類、出場者名簿及び学生課の証明印
災害		当該期間	罹災証明書等
その他、当該教務委員長が特段の事由として認めた場合		当該期間	事由を証明する書類

2 遠隔地の場合、その他特別な事由があると当該教務委員長が認めた場合、前項の日数に必要な日数を公欠期間に加えることができる。

(公欠の手続き)

第4条 公欠の取り扱いを受けようとする者は、事前若しくは公欠期間終了後、原則3日以内（土・日・祝日を除く。）に所定の公欠届に証明書類を添えて、当該教務担当部署に提出し、教務委員長の許可を得なければならない。

2 公欠が許可された場合、当該教務担当部署は授業担当教員に通知を行う。

(出席停止)

第5条 学生が学校保健安全法施行規則第18条に定める感染症に罹患した場合、同第19条の規定に基づき、出席停止を命じることがある。

2 学生は、罹患後速やかに当該教務担当部署に電話連絡し、治癒後に公欠届に医師の診断書等（コピー可。出席停止期間が明記されたもの）を添えて提出するものとする。

3 出席停止の期間は、医師により治癒したと診断されるまでとし、必要に応じ、治癒証明書を求めることがある。

4 出席停止期間中の授業は、公欠扱いとする。

(公欠による授業の取り扱い)

第6条 授業担当者は、当該学生に対し、公欠期間中の学修効果を担保することができる方法で対応し、履修上不利にならないよう配慮するものとする。

(試験時の取り扱い)

第7条 第3条に定める公欠事由若しくは第5条に定める出席停止が履修規程第15条に定める試験時に生じた場合の取り扱いについては、履修規程でこれを定める。

(細則の改廃)

第8条 この細則の改廃は、全学教授会の議を経て、学長が決定する。

附 則

この細則は、2022年4月1日から施行する。

北陸大学成績疑義照会内規

(趣旨)

第1条 この内規は、科目の成績評価に関して疑義が生じた場合、学生が照会（以下「成績疑義照会」という。）を求め、妥当と判断された場合に成績評価を訂正するための手続きについて、必要な事項を定める。

(成績疑義照会対象事項)

第2条 成績疑義照会の対象となる事項は、次のとおりとし、授業担当教員に対する不服申し立てや、定期試験等、個別の試験やレポート等の成績に関する疑義は不受理とする。ただし、個別の試験等結果に関して疑義照会を受け付ける場合は、その都度、受付期間等を掲示等により通知する。

- (1) 定期・再試験等を受験あるいはレポート等の課題を提出したにもかかわらず、成績評価が記載されていない場合。
- (2) 定期・再試験等を受験あるいはレポート等の課題を提出し、成績評価で合格基準を満たしている具体的な根拠があるにもかかわらず、「F」評価となった場合。
- (3) 成績評価で合格基準を満たしていないにもかかわらず、「C」以上の評価が記載されている場合。

(成績疑義照会手続き)

第3条 学生は、科目の成績評価に関して疑義が生じた場合、所定の「成績疑義照会願」を成績発表後7日以内に当該教務担当部署に提出する。成績発表後7日以内とは、「学生支援システム」による成績発表日を算入せず、翌日から起算して7日以内とする。応当日が休日の場合は、翌業務日までとする。

- 2 各学期の成績疑義照会期間は、その都度、学生に掲示等により通知する。
- 3 申出は、学生本人が行うものとし、代理申請は認めない。
- 4 成績疑義照会期間以外の申請は認めない。

(成績訂正)

第4条 疑義の内容に応じて、当該授業担当教員あるいは当該教務担当部署が確認し、妥当と判断された場合には速やかに成績評価を訂正する。

- 2 申出学生には、当該教務担当部署を通じて、文書で回答を配付する。

(内規の改廃)

第5条 この内規の改廃は、全学教授会の議を経て、学長が決定する。

附 則

この内規は、2025年4月1日から施行する。

北陸大学学生懲戒規程

第 1 章 総則

(目的)

第1条 この規程は、北陸大学学則（以下「学則」という。）第51条第1項に基づいて行う学生の懲戒処分の適正と公正を図るために必要な事項を定める。

(基本的な考え方)

第2条 学生に対する懲戒は、学校教育法及び同法施行規則に基づいて大学に与えられた教育上の権限により、一定の事由の発生を要件として、学生に対して制裁として一定の不利益を与える処分である。懲戒は、懲戒に関する法理に従うとともに、教育的配慮に基づいて行うものでなければならない。

2 懲戒は、懲戒対象行為の様態、結果、影響等を総合的に検討し、教育的配慮を加えた上で行われなければならない。

3 学生に課せられる不利益は、懲戒目的を達成するために必要な限度にとどめなければならない。事前に学生に告知するとともに、意見陳述の機会を与えなければならない。

4 被処分者の将来を考慮し、成績証明書その他本人の成績及び修学状況に関する文書で、被処分者及び大学関係者以外の者が閲覧する可能性のあるものについては、原則として懲戒処分を受けた旨の記載をしないものとする。

(懲戒手続)

第3条 懲戒対象行為が発生した場合、関係する研究科長、学部長及び留学生別科長（以下「研究科長等」という。）は、学長、学生部長、担任教員に通知する。

2 研究科長等は、事実認定及び懲戒処分の内容について、次項以下の手続きに従い、研究科委員会、学部教授会又は留学生別科会議（以下「研究科委員会等」という。）の議を経て、文書により学長に申請する。

3 懲戒対象行為に係る事実認定及び懲戒処分の内容の認定判断は、研究科、各学部又は留学生別科（以下「研究科等」という。）の責任において行う。

4 研究科長等は、第2項の検討に際し、必要がある場合には、学長の許可を得て、調査委員会を設けることができる。

5 担任教員及び担当部署は、連携して第2項に定める、事実認定及び懲戒処分の内容について担当し、研究科長等に結果を報告しなければならない。

6 懲戒対象行為に係る事実認定、懲戒処分内容及び執行に伴う措置の判断に当たっては、事前に当該学生に告知し、口頭若しくは文書による意見陳述の機会を与えなければならない。また、未成年の場合には、保護者からの口頭若しくは文書による意見陳述の機会を認めなければならない。

(懲戒処分の均衡及び調整)

第4条 研究科長等は、懲戒対象行為を確認したときは、研究科委員会等の議を経る前に、事実認定及び懲戒処分の内容に関する方針案を学生部長に報告する。

2 学生部長は、前項の報告について、全学的な均衡及び調整を図る観点から、学生委員会を招集、審議し、その結果を研究科長等に通知する。

3 学生部長は、第2項の通知の後、更に別途検討すべき事案が含まれていると認めた場合、研究科長等にその旨を通知するものとする。

4 研究科長等は、第2項の学生委員会の審議結果に基づく学生部長の決定を踏まえて、第3条第2項を行うものとする。

5 学生部長は、第2項の検討に際し、必要がある場合には、学長の許可を得て、調査委員会を設けることができる。

(懲戒処分の決定)

第5条 学長は、全学教授会を招集し、研究科長等からの申請事項について意見を求め、懲戒処分を決定する。

2 学長は、懲戒処分を決定するに当たり、教学運営協議会の意見を聴くことができる。

(懲戒処分の告知及び発効日)

第6条 懲戒処分の告知は、文書により、研究科長等が学生本人に対して行う。

2 懲戒処分の発効日は、学長が決定する。

(告示)

第7条 懲戒処分を行った場合は、学内に告示する。

2 期限の定めのある懲戒処分は、期間の終了をもって解除とみなし告示しない。

(懲戒処分に関する文書)

第8条 懲戒処分に関する文書は、懲戒処分申請書、懲戒処分（退学・停学・謹慎・訓告）告知書、学生懲戒記録簿及び懲戒処分解除通知書とする。

(懲戒に関する記録の保存と開示)

第9条 研究科長等は、懲戒原因たる事実並びに決定された処分の内容及び理由を記載した文書を保存しなければならない。

(懲戒の種類)

第10条 懲戒は、学則51条第1項の各号に定める、退学、停学、謹慎及び訓告とする。

(退学)

第11条 退学は、学生としての身分のはく奪である。

(停学)

第12条 停学は、無期停学及び有期停学とする。

2 無期停学の期間は3か月以上、有期停学の期間は1か月以上3か月未満とする。

3 停学の期間は、学則第14条に規定する修業年限及び在学期間に算入する。ただし、停学の期間が3か月をこえるときは、修業年限に算入しない。

4 研究科長等は、無期停学処分を受けた学生について、その反省の程度及び学習意欲等を総合的に判断して、その処分を解除することが適当であると思われるときは、研究科委員会等の議を経て、学長に対し、その処分の解除を文書により申請することができる。

5 学長は、処分解除の申請を受けたときは、全学教授会の議を経て、無期停学の解除を決定する。

6 無期停学は、原則として3か月を経過した後でなければ、解除することができない。

7 無期停学の解除の告知は、学内に公示するとともに、研究科長等が被処分者本人に対して行う。

8 研究科長等は、停学期間中においても、指導上の観点から必要と判断した場合には、指導教員を定め、学生を呼び出し指導を行うことができる。なお、指導教員を担任教員が兼ねることができる。

9 前項の指導教員は、指導記録簿を作成するものとする。

(謹慎)

第13条 謹慎は、自宅謹慎及び登学謹慎とする。

2 謹慎期間は、1か月以内とし、期間を定めて告知する。

3 謹慎期間は、在学期間及び修業年限に含まれる。

4 停学等の処分が確定するまでの期間を、謹慎させることができる。ただし、停学処分となった場合には、謹慎開始日を停学開始日とする。

5 謹慎は、原則として自宅謹慎とし、謹慎による欠席とする。ただし、教育的観点から授業等への出席がふさわしいと判断した場合には、指導教員を定め、その監督下において、登学謹慎を認めることがある。なお、指導教員を担任教員が兼ねることができる。

6 登学謹慎の可否及び指導教員については、研究科委員会等の議を経て、学長が定める。

7 前項の指導教員は、指導記録簿を作成するものとする。

(訓告)

第14条 訓告は、処分としての大学の教育的意思表示である。

(懲戒処分と自主退学)

第15条 研究科長等は、懲戒対象行為を行った学生から、懲戒処分の決定前に自主退学の申出があった場合には、この申出を受理しないものとする。

(懲戒処分を受けた学生の義務)

第16条 懲戒処分を受けた学生は、懲戒期間中の連絡先、居所を、大学に明らかにしなければならない。

2 懲戒処分を受けた学生は、懲戒期間中であっても、大学からの呼び出しに応じなければならない。

第 2 章 各則

(試験等における不正行為に関する懲戒処分)

第17条 試験等における不正行為及びその対応については、「北陸大学試験等不正行為規程」の定めによる。

2 試験等における不正行為の懲戒は、原則として、謹慎又は訓告等とする。ただし、重ねて行った者は停学以上とする。

3 常習的であることが判明した場合には、停学以上の懲戒とする。

第 1 節 刑事事件等に関する行為

(刑事事件等に関する懲戒処分)

第18条 交通事件、薬物犯罪、ストーカー犯罪、わいせつ行為等、コンピュータ又はネットワークの不正使用、知的財産を喪失させた場合等に関する懲戒処分については、第18条から第24条までに定めるところによる。この場合において、情状によりその処分を減じ、また、再犯の場合はその処分を重くすることができる。

(交通事件に関する懲戒処分)

第19条 飲酒運転、無免許運転又は大幅な制限速度違反等悪質な運転による人身事故に対する懲戒処分は、退学とする。

2 ひき逃げ等悪質な行為に対する懲戒処分は、退学とする。

3 その他の交通事件（構内におけるいわゆる暴走行為又は悪質な駐車違反を含む。）に対する懲戒処分は、退学、停学、謹慎又は訓告とする。

(薬物犯罪に関する懲戒処分)

第20条 薬物犯罪（大麻、麻薬、あへん、覚せい剤、危険ドラッグ等の薬物の所持、使用、売買又はその仲介等）に対する懲戒処分は、退学又は無期停学とする。

(ストーカー犯罪に関する懲戒処分)

第21条 悪質なストーカー犯罪（ストーカー行為等の規制等に関する法律（以下この項において「法」という。）第2条に規定するつきまとい、待ち伏せ等の行為）に対する懲戒処分は、退学又は無期停学とする。

2 その他のストーカー犯罪（法第3条に規定する行為等）に対する懲戒処分は、停学、謹慎又は訓告とする。

(わいせつ行為等に関する懲戒処分)

第22条 わいせつ行為（痴漢、のぞき、不同意わいせつ、青少年保護育成条例等違反、盗撮（隠し撮り）等）及びセクシュアル・ハラスメントに対する懲戒処分は、退学、停学、謹慎又は訓告とする。

(コンピュータ又はネットワークの不正使用に関する懲戒処分)

第23条 コンピュータ又はネットワークの悪質な不正使用（成績表等の文書の改ざん等の不正アクセス、外部システムへの不正アクセス、ネットワーク運用妨害、伝染性ソフトウェアの持ち込み等）に対する懲戒処分は、退学又は無期停学とする。

2 その他のコンピュータ又はネットワークの不正使用（著作権、特許権等の知的財産権の侵害、嫌がらせメール等）に対する懲戒処分は、停学、謹慎又は訓告とする。

（知的財産を喪失させる行為等に関する懲戒処分）

第24条 本学の知的財産（知的財産基本法第2条第1項に規定する知的財産）を喪失させる行為（知的財産を無断で提供し、公表し、又は指定された場所から移動する行為、共同研究の遂行又は知的財産の確保を目的とする秘密保持契約に違反する行為、知的財産として保護対象に指定された情報を漏洩する行為等）に対する懲戒処分は、退学又は無期停学とする。

（その他の刑事事件に関する懲戒処分）

第25条 交通事件以外の刑事事件のうち、凶悪犯罪（殺人、強盗、不同意性交等、放火等）に対する懲戒処分は、退学とする。

2 その他の刑事事件（傷害、窃盗等）に対する懲戒処分は、退学、停学、謹慎又は訓告とする。

第 2 節 懲戒処分対象以外の学生の本分に悖る行為

（懲戒処分対象行為以外の学生の本分に悖る行為への指導）

第26条 研究科長等は、学生が懲戒対象には至らないものの、学則、諸規定若しくは指導を守らず、または、学生の本分に悖る行為をした場合には、必要に応じて適切な指導を行わなければならない。

第 3 章 教職員の義務及び任務等

（教職員の義務）

第27条 教職員は、懲戒対象行為を認め若しくは知ったときには、速やかに研究科長等及び学事本部長に知らせなければならない。

2 教職員は、第3条から第5条までに規定する懲戒手続等により知り得た情報について、守秘義務を有し、細心の注意をもって扱わなくてはならない。

3 学事本部長は、対象学生の所属等を考慮し、事務等を担当する部署を定めなければならない。

第 4 章 規程の改廃

（規程の改廃）

第28条 この規程の改廃は、全学教授会の議を経て、学長が決定する。

附 則

この規程は、2025年4月1日から施行する。

北陸大学試験等不正行為規程

(趣旨)

第1条 この規程は、試験や課題・レポート等の提出、授業の出欠席等における公正を損なう行為（以下「不正行為」という。）についてその内容を定め、これに対する処置について、必要な事項を定める。

(試験の定義)

第1条の2 試験とは、北陸大学大学院履修規程第10条及び北陸大学履修規程第15条に定める試験をいう。

(試験における不正行為)

第2条 試験における次の各号に定める行為は、不正行為とみなす。

- (1) 試験監督員の指示・注意等に従わない行為及び試験監督員の業務を妨害する行為
- (2) 身代わり受験をする行為あるいは身代わり受験をさせる行為
- (3) 持ち込み許可を受けない書籍、ノート、情報機器等の利用
- (4) 持ち込み許可を得た書籍やノート等の貸借
- (5) 紙片、筆記用具、机等にあらかじめ書き込んだものの利用
- (6) 答案用紙、下書用紙等配布された用紙以外の用紙の利用
- (7) 答案用紙のすり替えや交換
- (8) 他人の答案を見ることあるいは自分の答案を他人に見せること
- (9) 試験場の内外を問わず、会話、電話、メール、符号等を利用した情報交換
- (10) 許可のない物品の貸借
- (11) 試験監督員の指示に反する行為

(試験監督員の措置)

第3条 試験監督員は、前条に該当する行為が行われたと判断した場合には、直ちに当該学生の受験を停止し、学生証、問題用紙、答案用紙及び不正行為に使用した物品等を全て預かり、可及的速やかに当該学生を当該学部の教務委員長あるいは留学生別科主任（以下「教務委員長等」という。）のもとに同行する（当該学生が大学院生の場合は、研究科長のもとに同行する）。

(教務委員長等及び研究科長の措置)

第4条 教務委員長等は、当該学部の学部長あるいは留学生別科長（以下「学部長等」という。）同席のもと、試験監督員及び当該学生から事情を聴取し、学部長等とともに事実の認定を行う。

2 研究科長は、他の研究科教員同席のもと、試験監督員及び当該学生から事情を聴取し、事実の認定を行う。

3 第3条及び第4条において、指定する教務委員長等、学部長等あるいは研究科長が対応できない場合には、別の教員（教務委員もしくは学生委員が望ましい。）を充てなければならない。

(懲戒手続)

第5条 試験における不正行為を行った学生に対する懲戒手続は、北陸大学学生懲戒規程に従って行うものとする。

(成績の評価)

第6条 前条に基づき、懲戒処分となった学生については、当該学期のすべての履修登録科目の成績評価をF2（受験停止）とする。ただし、前後期を通して開講される科目の成績については、研究科委員会、学部教授会あるいは留学生別科会議の議を経て、研究科長、学部長あるいは留学生別科長（以下「研究科長等」という。）が決定する。

(試験以外における不正行為)

第7条 試験以外における次の各号の行為は、不正行為とみなす。この場合、授業担当者は、当該学生が所属する教務委員長等に報告・相談のうえ、当該授業への出席を制限したり、当該授業の成績を著しく低く

評価することができる（当該学生が大学院生の場合は、研究科長に報告・相談するものとする）。

- (1) 授業中に行われる確認試験（確認テスト）や中間試験（中間テスト）等において、第2条に示す行為
 - (2) 課題・レポート等（卒業論文を含む。）の提出において、実験や調査結果のデータを捏造又は偽造する行為
 - (3) 課題・レポート等（卒業論文を含む。）の提出において、Web上にある他人の文章等を自分の文章等であるかのように見せかけて提出する行為
 - (4) 課題・レポート等（卒業論文を含む。）の提出において、他人が書いたものを自分が書いたものであるかのように見せかけて提出する行為
 - (5) 課題・レポート等（卒業論文を含む。）の提出において、生成 AI が生成した文章等を自分が書いたものであるかのように見せかけて提出する行為
 - (6) 授業に出席しない者や授業の過半を不在にしている者が、方法の如何を問わず、出席と見せかける行為
- 2 前項の行為に加担した学生も不正行為をしたものとみなすことができる。
- 3 前2項の行為を重ねて行った者や悪質である場合には、懲戒対象行為として学部長等に通知し、第5条に従って行うものとする（当該学生が大学院生の場合は、研究科長に通知するものとする）。

（規程の改廃）

第8条 この規程の改廃は、全学教授会の議を経て、学長が決定する。

附 則

この規程は、2025年4月1日から施行する。

北陸大学情報システム「HUNET」利用ガイドライン

(趣旨)

第1条 本ガイドラインは、学校法人北陸大学情報システム利用規程第8条に基づき、本学情報システム「HUNET」(以下「HUNET」という。)を利用する際の指針及び遵守事項について、必要な事項を定める。

(用語の定義)

第2条 本ガイドラインにいうHUNETとは、本学における教育・研究・業務に利用するために本学が設置するコンピュータ、周辺機器、ネットワーク関連装置、ソフトウェア及びネットワーク上に構築される各種サービス、クラウドサービス基盤(Google Workspace for Education Fundamentals、Microsoft Office 365)のことをいう。

(管理及び運用)

第3条 HUNETの管理及び運用に関する事項は、教学支援センター学術情報課(以下「学術情報課」という。)が取り扱う。

2 管理及び運用に関する重要事項に関しては教育情報システム委員会で審議する。

(適用範囲等)

第4条 本ガイドラインの適用範囲は、HUNETの利用者であり、HUNETの利用が学校法人北陸大学の敷地内でなされたか否かを問わず適用される。

(利用者等)

第5条 利用者等は、次の各号に該当するものとする。

- (1) 本学学生(科目等履修生、聴講生を含む。)
- (2) 学校法人北陸大学の常勤の理事及び教職員
- (3) その他、学長が認めた者

(利用期間)

第6条 HUNETの利用期間は、在学・在籍期間中とする。ただし、学長が認めた場合はこの限りではない。

(ユーザーアカウント)

第7条 利用者等には、1人につき1つの「HUアカウント」を交付する。

2 HUアカウントの交付を受けるには、利用者等はHUNET利用申請書を学術情報課に提出し、許可を受けなければならない。

(遵守事項)

第8条 利用者等は、HUNETの利用にあたって次の各号を遵守しなければならない。

- (1) 利用者等は、本ガイドライン及び別に定める学校法人北陸大学セキュリティポリシー、電子メール利用ガイドラインを遵守しなければならない。
- (2) 利用者等は、北陸大学建学精神に則り、品位を保ち、社会の一員としての自覚に基づいてHUNETを利用しなければならない。
- (3) 利用者等は、利用者としての管理責任を怠ってはならない。
- (4) 利用者等は、交付された初期パスワードを速やかに変更しなければならない。
- (5) 利用者等は、HUアカウントのパスワードを第三者に開示してはならない。
- (6) 利用者等は、HUNETの利用に関する虚偽の申請をしてはならない。
- (7) 利用者等は、HUNETを営利目的に使用してはならない。
- (8) 利用者等は、HUNETを利用して法令や公序良俗に反する行為をしてはならない。
- (9) 利用者等は、HUNETを利用して他人のプライバシーや著作権、商標権等の知的財産権を侵害する行為をしてはならない。
- (10) 利用者等は、HUNETを利用して他人に対する迷惑や不利益を与える行為及び誹謗・中傷など人権を

侵害する等の行為をしてはならない。

- (11) 利用者等は、HUENTの運用に支障をきたす行為をしてはならない。
- (12) 利用者等は、HUNETへの不正な侵入や運用の妨害をしてはならない。
- (13) 利用者等は、一般にネットワーク上で各個人が守るべきであると理解されているルールに違反してはならない。

(違反行為等に対する措置)

第9条 教育情報システム委員会は、前条に定めることへの違反行為をした者に対し、次の措置を講ずることができる。

- (1) HUNETの利用資格の取消、一時的停止、変更
- (2) HUアカウントの停止、変更
- (3) HUNETに接続している機器の切り離し、一時的使用停止
- (4) 違反行為に使用され、または違反行為の結果として生じたファイル、データ及びプログラム等の保全、削除又はこれらへのアクセスの制限
- (5) その他の教育的指導措置

(届出の義務)

第10条 利用者等は次の各号に該当する事由が生じたときは、学術情報課に届け出なければならない。

- (1) HUNET利用申請書の記載内容に変更が生じたとき
- (2) HUNET利用申請書に関わる利用を終了または中止したとき

(利用及び制限)

第11条 利用者等は、HUNETに自らが作成した著作物等を保存することができる。ただし、学術情報課はHUNETの適正な運営を維持するために利用者等のHUNETの利用制限及び著作物等を審査、削除することができる。

(利用の停止)

第12条 学術情報課は利用者等に対して、第9条2号によりHUNETの利用を停止することができる。

- 2 第5条1号及び2号に該当する利用者等がその身分を喪失した場合及び、第5条3号に該当する利用者等が所定の期間を過ぎて再申請しない場合は、HUNETの利用を停止するものとする。
- 3 利用資格を喪失した利用者等がHUNET上に所有する著作物等は、利用資格の喪失の事実を確認後、学術情報課が削除するものとする。

(免責)

第13条 学術情報課は、HUNETの障害及びHUNETの提供するサービスの遅延もしくは中断によって生じた損害に対し、責任を負わないものとする。

- 2 利用者等の不注意により、利用者等が被った損害について、学術情報課は一切の責任を負わないものとする。

著作権法、北陸大学情報システム「HUNET」利用ガイドラインの遵守について

授業・オンライン授業の資料や授業動画を著作権者である教員の許諾を得ずに、勝手にインターネットなどで第三者に提供及び配信・公開することは、著作権法上、不当な行為となります。また、北陸大学情報システム「HUNET」利用ガイドラインの第8条に違反することに該当します。第8条に違反すると第9条の措置を受けることとなりますので、ルールを厳守してください。